朝倉工業団地遺跡群No.２

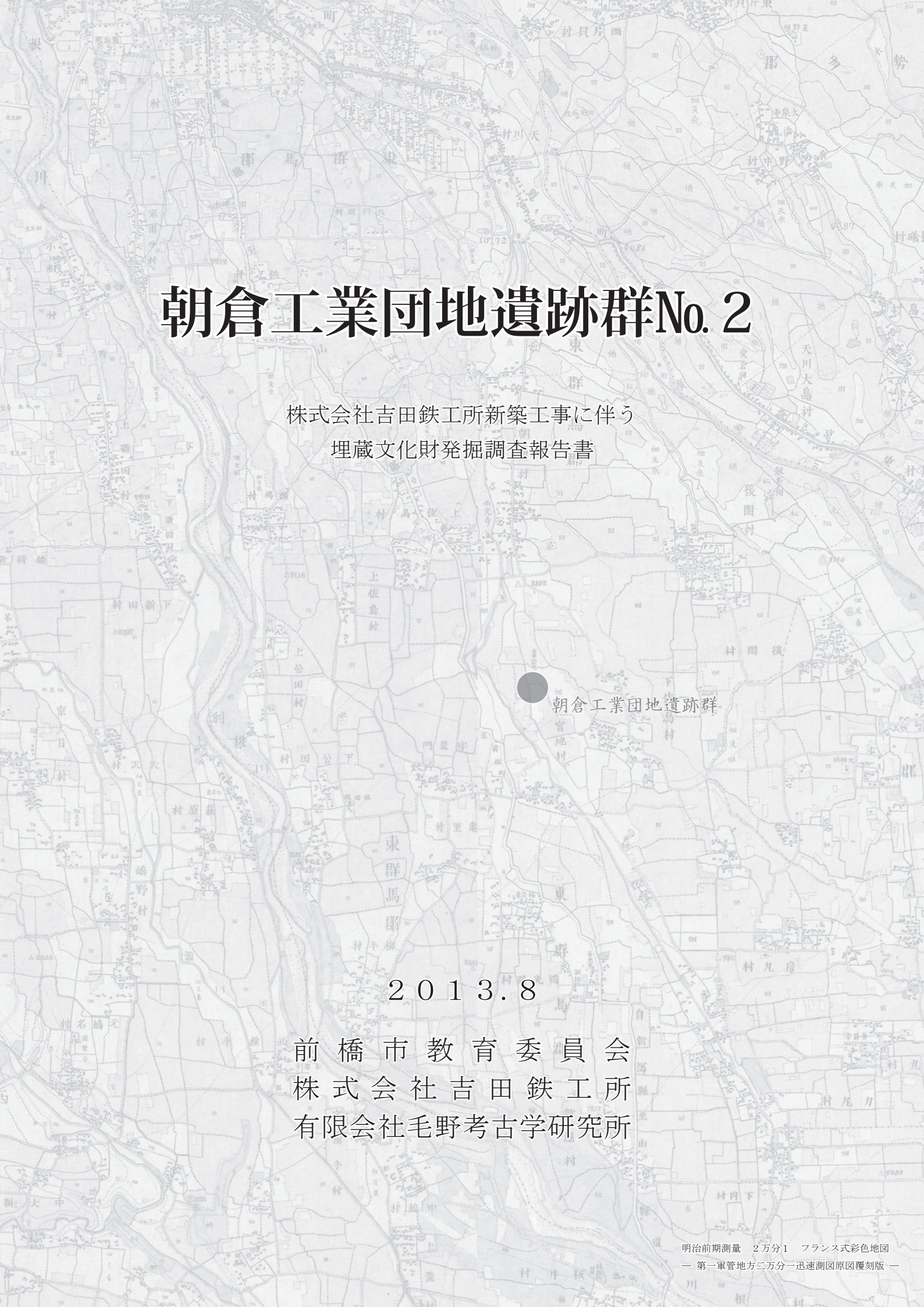
株式会社吉田鉄工所新築工事に伴う
埋蔵文化財発掘調査報告書

２０１３．８

前橋市教育委員会
株式会社吉田鉄工所
有限会社毛野考古学研究所

朝倉工業団地遺跡群No.２

株式会社吉田鉄工所新築工事に伴う
埋蔵文化財発掘調査報告書



２０１３.８

前橋市教育委員会
株式会社吉田鉄工所
有限会社毛野考古学研究所

明治前期測量　２万分１　フランス式彩色地図
― 第一軍管地方二万分一迅速測図原図覆刻版 ―

巻頭写真

榛名二ツ岳渋川テフラ下の畠跡（１区、北西から）

榛名二ツ岳渋川テフラ下の水田跡（15・16 区、南から）

例　　言

1　本書は、株式会社吉田鉄工所の工場建設に伴い実施した朝倉工業団地遺跡群№.２の埋蔵文化財発掘調査報告書である。

2　調査は、前橋市教育委員会の指導・監督のもとに、株式会社吉田鉄工所の委託を受け、有限会社毛野考古学研究所が実施した。調査担当者は、同研究所員井上　太である。

3　発掘調査・整理作業の実施期間は、平成 24 年 11 月 26 日～平成 25 年８月 30 日である。

4　本調査の調査区の地番、面積及び遺跡番号、並びに略称は下記のとおりである。

　所在地地番：前橋市下佐鳥町１番４　外 37 筆　　面積：５，２９１㎡

　遺跡番号：００８０５　　略称：２４Ｇ７５

5　本調査の遺構測量は、小出拓磨・竹中洋治（有限会社毛野考古学研究所員）が担当した。

6　本書の編集は有限会社毛野考古学研究所が行い、井上が担当した。

7　本書の執筆は、Ｉを福田貫之（前橋市教育委員会）、その他を井上が担当した。

8　調査に関わる資料は一括して前橋市教育委員会文化財保護課が保管している。

9　発掘調査・整理作業に関わった方々は下記のとおりである。（五十音順、敬称略）

［ 発掘調査 ］　秋間直人　阿久津　滋　井口ヒロ子　石原　功　井出　稜　井上ゆかり　岩井　寛
内田一郎　岡村美弥子　狩野友好　川島隆好　小板橋進一郎　齋藤清一　志村久子
白砂福造　関口佳紀　高橋富美男　滝原忠男　竹渕　進　田島　守　竹生正明
勅使河原幸枝　永井述史　西山勝久　萩原秀子　橋元裕児　畠山孝四郎　畑佐博司
春原正克　平沢房之介　森下綾子　森山恵子　森山孝男　山田友子　湯浅美和子

［ 整理作業 ］　下條真美代　関小百里　高橋奈緒　竹中美保子　武士久美子　半澤利江　伴場りく

10　発掘調査の実施から報告書刊行に至る間、下記の機関・方々のご指導・ご協力を賜った。記して感謝を申し上げる。（順不同・敬称略）

　ＪＴ空撮　　山下工業株式会社　　梅澤重昭　　坂口　一　　青木利文

凡　　例

1　挿図の座標北には、世界測地系（国家座標第Ⅸ系）を使用した。方位記号は座標北を示す。

2　等高線や断面図中における水準値は、海抜標高を示す（単位：m）。

3　掲載の遺構図及び遺物実測図の縮尺率は、各挿図中にスケールで表示した。

4　グリッドは、原点（Ｘ＝39,500・Ｙ＝66,900）より西から東へＸ０、Ｘ１、…、北から南へＹ０、Ｙ１、…と付した。

5　遺構断面図及び遺物観察表に示した色調は『新版標準土色帖』（農林水産省農林水産技術会事務局・財団法人日本色彩研究所監修）を使用した。

6　本書中のテフラの呼称は、下記のとおりである。

　Ａｓ－Ａ、Ａ軽石 ： 1783 年（天明３年）に噴出した浅間Ａテフラ。

　Ａｓ－Ｂ、Ｂ軽石 ： 1108 年（天仁元年）に噴出した浅間Ｂテフラ。

　Ｈｒ－ＦＡ、ＦＡ ： ６世紀初頭に噴出した榛名二ツ岳渋川テフラ。

　Ａｓ－Ｃ、Ｃ軽石 ： ３世紀末～４世紀初頭に噴出した浅間Ｃテフラ。

7　本書掲載第１図には、国土交通省国土地理院発行の 1/200,000「長野」・「宇都宮」、第２図に同院発行の 1/25,000 地勢図「前橋」・「高崎」、第３図には「前橋市都市計画図」1/2,500 を一部加工して使用した。

8　表紙には、『昭和 61 年航空写真集前橋市全域』の空中写真を使用した。

目　　次

例言
凡例
目次
挿図目次
表目次
写真図版目次

Ⅰ　調査に至る経緯 …… 1
Ⅱ　遺跡の位置と環境 …… 1
　1　地理的環境 …… 1
　2　歴史的環境 …… 2
Ⅲ　調査の方法と経過 …… 4
　1　調査の方法 …… 4
　2　調査の経過 …… 4
Ⅳ　遺跡の概要 …… 6
　1　遺構・遺物の概要 …… 6
　2　基本層序 …… 6
Ⅴ　検出遺構 …… 7
　1　Ａｓ－Ｂ層下面の調査 …… 7
　2　Ｈｒ－ＦＡ層下面の調査 ……21
Ⅵ　出土遺物 ……38
Ⅶ　まとめ ……43
　1　古墳時代から平安時代 ……43
　2　平安時代末以降 ……44

写真図版
抄録

挿図目次

第１図　遺跡の位置 …… 1
第２図　周辺の遺跡 …… 3
第３図　調査区配置図 …… 5
第４図　基本層序 …… 6
第５図　Ａs－Ｂ層下調査面全体図(1) …… 8
第６図　Ａs－Ｂ層下調査面全体図(2) …… 9
第７図　Ａs－Ｂ層下水田跡 ……10
第８図　Ｗ－１号～５号溝跡 ……16
第９図　Ｗ－６号～11号、14号・15号溝跡 ……17
第10図　Ｗ-12号・16号・17号、
　19号～23号溝跡 ……18
第11図　Ｗ-24号～26号、
　28号・29号・32号溝跡 ……19
第12図　Ｗ-30号・31号、33号～
　35号溝跡、Ｄ－１号土坑 ……20
第13図　Ｈｒ－ＦＡ層下調査面全体図(1) ……22
第14図　Ｈｒ－ＦＡ層下調査面全体図(2) ……23
第15図　Ｈｒ－ＦＡ層下畠跡 ……24
第16図　Ｈｒ－ＦＡ層下水田跡 ……25
第17図　Ｗ-27号、36号～42号溝跡 ……30
第18図　Ｗ-43号、45号～51号溝跡 ……31
第19図　Ｗ-30号、52号～59号溝跡 ……32
第20図　Ｗ-26号、35号、60号～62号溝跡 ……33
第21図　Ｄ－２号土坑 ……34
第22図　Ｄ－３号～９号土坑、Ｉ－１号井戸 ……35
第23図　２区、５区包含層……36
第24図　溝跡出土遺物(1) ……38
第25図　溝跡出土遺物(2)、土坑出土遺物、
　畠跡出土遺物、包含層出土遺物(1) ……39
第26図　包含層出土遺物(2) ……40
第27図　時期別遺構位置図……45

表 目 次

第１表　周辺の遺跡一覧表 ……２
第２表　Ａｓ－Ｂ層下水田跡区画計測表 ……10
第３表　Ｈｒ－ＦＡ層下水田跡区画計測表 ……25
第４表　平安時代末期以降の溝跡一覧 ……37
第５表　古墳時代から平安時代の溝跡一覧 ……37
第６表　溝跡出土遺物観察表 ……41
第７表　土坑出土遺物観察表 ……41
第８表　畠跡出土遺物観察表 ……41
第９表　包含層出土遺物観察表 ……42

写真図版目次

巻頭写真
榛名二ツ岳渋川テフラ下の畠跡（１区）
榛名二ツ岳渋川テフラ下の水田跡（15・16区）
ＰＬ．１
調査地と浅間山、榛名山
Ａｓ－Ｂ層下調査面全景
ＰＬ．２
７・11・13・14区北半、８区
７・11・13・14区南半、12区
ＰＬ．３
７区全景
11区全景
13区全景
14区全景
Ａｓ－Ｂ下水田跡　区画③～⑥（14区）
Ａｓ－Ｂ下水田跡　区画⑦～⑩（14区）
Ａｓ－Ｂ下水田跡　区画⑦～⑭（14区）
Ａｓ－Ｂ下水田跡　区画①→③水口（14区）
ＰＬ．４
Ａｓ－Ｂ下水田跡　区画②→④水口（14区）
Ａｓ－Ｂ下水田跡　区画⑥→⑧水口（14区）
Ａｓ－Ｂ下水田跡　区画⑧→⑨水口（14区）
Ａｓ－Ｂ下水田跡　畦畔断ち割りＡ（14区）
Ａｓ－Ｂ下水田跡　畦畔断ち割りＣ（14区）
Ａｓ－Ｂ混土水田跡　擬似畦畔、及びＷ-17号・18号溝（11区）
Ｗ－１号溝土層断面（14区）
Ｗ－２号溝土層断面（14区）
ＰＬ．５
Ｗ－３号溝土層断面（８区）
Ｗ－４号溝土層断面（14区）
Ｗ－６号溝土層断面（14区）
Ｗ－７号溝（13区）
Ｗ－９号溝（12区）
Ｗ-10号溝・11号溝（12区）
Ｗ-12号溝土層断面（13区）
Ｗ-13号溝（13区）
ＰＬ．６
Ｗ-14号溝・15号溝（８区）
Ｗ-16号溝土層断面（８区）
Ｗ-17号溝土層断面（11区）
Ｗ-19号溝・20号溝土層断面（11区）
Ｗ-22号溝（12区）
Ｗ-23号溝（12区）
Ｗ-24号溝・25号溝・26号溝（７区）
Ｗ-26号溝・32号溝土層断面Ｂ－Ｂ′（７区）
ＰＬ．７
Ｗ-26号溝・32号溝土層断面Ｄ－Ｄ′（７区）
Ｗ-28号溝土層断面（７区）
Ｗ-29号溝（７区）
Ｗ-30号溝土層断面（７区）
Ｗ-31号溝土層断面（７区）
Ｗ-33号溝（３区）
Ｗ-35号溝土層断面（６区）
Ｄ－１号土坑（６区）

ＰＬ．８
Ｈｒ－ＦＡ層下調査面全景
１区
ＰＬ．９
２～４区、７区北半
５・６区、７区南半
ＰＬ．10
15～20区
１区全景
２区全景
３区全景
７区全景
ＰＬ．11
15・16区全景
17区全景
Ｈｒ－ＦＡ下畠跡（１区）
Ｈｒ－ＦＡ下畠跡　遺物出土状況（１区）
Ｈｒ－ＦＡ下畠跡　断ち割り状況（１区）
Ｈｒ－ＦＡ下水田跡（５・６区①-⑤）
Ｈｒ－ＦＡ下水田跡（７区⑪-⑰）
Ｈｒ－ＦＡ下水田跡（15区①-⑦）
ＰＬ．12
Ｈｒ－ＦＡ下水田跡　畦畔断ち割り１(15区⑤・⑦)
Ｈｒ－ＦＡ下水田跡　畦畔断ち割り２(16区⑦・⑧)
Ｗ-27号溝（環濠屋敷跡)（５・６区）
Ｗ-27号溝（環濠）北辺部（５・６区）
Ｗ-27号溝（環濠）東辺部（５・６区）
Ｗ-27号溝（環濠）土層断面Ｂ－Ｂ′（５・６区）
Ｗ-30号溝・59号溝（５・６区）
ＰＬ．13
Ｗ-36号溝（１区）
Ｗ-36号溝土層断面（１区）
Ｗ-36ｂ号溝　遺物出土状況（１区）
Ｗ-37号溝（１区）
Ｗ-39号溝土層断面（１区）
Ｗ-40号溝（19区）
Ｗ-41号溝・42号溝（19区）
Ｗ-45号溝土層断面（18区）
ＰＬ．14
Ｗ-46号溝（18区）
Ｗ-49号溝、包含層土層断面（17区）
Ｗ-50号溝（15区）
Ｗ-51号溝（15区）
Ｗ-52号溝、包含層土器出土状況（２区）
Ｗ-52号溝土層断面（３区）
Ｗ-53号溝（３区）
Ｗ-54号～58号溝（２区）
ＰＬ．15
Ｗ-54号溝・56号溝・57号溝土層断面（２区）
Ｗ-54号溝　土器出土状況（２区）
Ｗ-57号溝　枝部（２区）
Ｗ-60号溝土層断面（５・６区）
Ｗ-61号溝土層断面（５・６区）
Ｗ-26号溝・62号溝土層断面Ｄ－Ｄ′（７区）
Ｄ－２号土坑（18区）
Ｄ－３号土坑（５・６区）
ＰＬ．16
Ｄ－５号土坑（７区）
Ｄ－６号土坑（７区）
Ｄ－７号土坑（７区）
Ｄ－７号土坑土層断面（７区）
Ｉ－１号井戸（５・６区）
17区包含層　西端部遺物出土状況
17区包含層　西側遺物出土状況
５区包含層　遺物出土状況
ＰＬ．17
溝跡出土遺物
土坑出土遺物
畠跡出土遺物
包含層出土遺物（１）
ＰＬ．18
包含層出土遺物（２）

Ⅰ　調査に至る経緯

朝倉工業団地は平成 23 年 1 月の試掘調査により遺跡地であることが確認されている。その後、道路箇所については記録保存を目的とした発掘調査を実施した。各々の区画内については進出する各社と協議を行ない、現状保存が不可能な箇所については発掘調査を行ない記録保存の措置を執ることとなった。

平成 24 年 1 月 18 日、株式会社吉田鉄工所より埋蔵文化財の取り扱いについて問い合せがあった。以降、調査期間や調査の方法について数回に亘り協議を行なった。その結果、現状保存が不可能な箇所については発掘調査を行ない記録保存の措置を執ることで合意を得た。発掘調査については、「群馬県内の記録保存を目的とする埋蔵文化財の発掘調査における民間調査組織導入事務取扱要綱」に則り、前橋市教育委員会の作成する調査仕様書に基づく監理・指導の下、民間調査組織が行なうこととなった。平成 24 年 11 月 15 日付けで、株式会社吉田鉄工所と民間調査組織である有限会社毛野考古学研究所との間で発掘調査業務委託契約が締結され、同年 11 月 15 日付けで株式会社吉田鉄工所、有限会社毛野考古学研究所、前橋市教育委員会との間で発掘調査に関する協定書を締結し、同年 11 月 26 日から現地調査を開始した。

Ⅱ　遺跡の位置と環境

1　地理的環境

本遺跡は、前橋市域の南東部「前橋台地」の東辺近くに位置する。前橋台地は、約２万年前の浅間山噴火による山体崩壊を起源とする「前橋泥流」が、利根川によって運ばれ赤城山・榛名山間から関東平野に流出する部分に堆積して形成された扇状地性台地である。台地上にはその後の中小河川の浸食によって、北西から南東方向に多くの自然堤防・後背湿地が形成されている。

台地の東辺は、利根川の旧流路である広瀬川低地帯の段丘崖によって画されている。この崖上には高燥な地形が帯状に連なり、この西には高崎市・玉村町にかけて広大な水田地帯が広がっている。現在この水田域の中を、中世に流路が変流したと考えられている利根川が貫流しており、本遺跡は現在の利根川と前橋台地北東縁辺の間の水田地帯のほぼ中間で、南流している小河川の「端気川（はけがわ）」沿いに位置している。

端気川は前橋台地北部の湿地帯に源をもつ自然流路であり、古墳時代から水田開発に利用されてきた水源の一つと考えられている。

第１図　遺跡の位置

２　歴史的環境

周辺では縄文・弥生時代の遺跡はほとんど確認されていないが、櫛島川端遺跡や徳丸仲田遺跡では弥生時代後期の住居跡や遺物がわずかに検出されている。

遺跡数が急増するのは古墳時代前期からで、上記の２遺跡を含めた 10 遺跡で調査されており、多数の集落が周辺の自然堤防や微高地上に立地してくる。この背景として、台地上の小河川の利用や用排水路の開鑿などによる低地部の水田開発が考えられている。４世紀初めのＡｓ－Ｃ層関連の水田跡は、本遺跡を初め 11 遺跡と各所で検出されている。徳丸仲田Ⅱ遺跡では堰を伴った大規模な用水路が発見され、広範囲に及ぶ組織的な開発が行われたと推定されている。

これらの水田開発を主導したとみられる首長層の墳墓が築かれた地として、台地の東辺に朝倉・広瀬古墳群が分布している。古墳前期に限っても、全長 130 ｍの東日本最大の前方後方墳である前橋八幡山古墳、129 ｍの前方後円墳で三角縁神獣鏡などの５面の銅鏡を出土した前橋天神山古墳が占地している。上記の水田域を生産基盤とした、当時の毛野地域を代表する勢力であったと考えられている。また、同時期の円墳である朝倉Ⅱ号古墳や、公田東遺跡では前方後方形周溝墓も検出されている。

古墳中期の集落遺跡は、現在のところ横手早稲田・横手湯田遺跡程度と発見は少なく、集落域が移動する可能性がある。しかし中期後半から後期には再び遺跡数が多くなり、本遺跡を含め７遺跡が知られる。６世紀代のＨｒ－ＦＡ及びＨｒ－ＦＰ層関連の水田跡の検出例も数を増し、本遺跡を初めとして 22 遺跡で確認され、さらなる水田域の拡大が想定される。朝倉・広瀬古墳群では引き続き多くの有力古墳が築かれ、全体としては 150 基以上の古墳が存在したと判明している。古墳時代全般を通じた県内最大級の古墳群といえる。

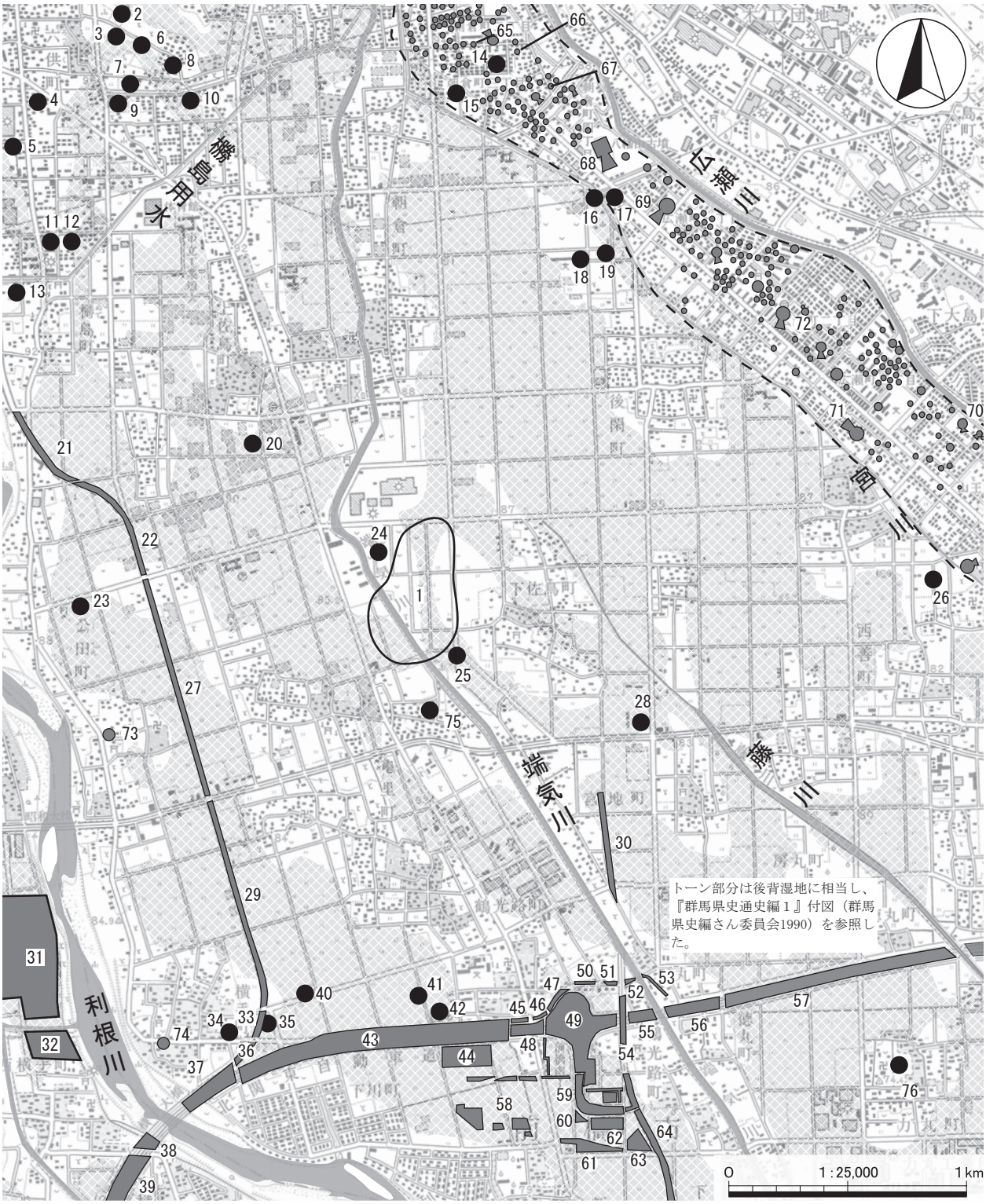
奈良・平安時代には引き続き集落遺跡は広く微高地上に展開している。また、周辺一帯でも条里制の施行が考えられ、水田域はさらに拡充されたとみられる。平安時代末期のＡｓ－Ｂ層直下の水田跡は周辺のほとんどの遺跡で検出される状況で、その区画は条里区画を継承していることが判明している。

中近世における大きな特色として環濠遺跡群の存在があげられる。南の玉村町にかけての一帯には、現在でも方形を基調とする濠をめぐらせた屋敷地や寺院などが散在している。前橋市域だけでも数十カ所に上り、環濠の一部と考えられる溝跡が検出されている遺跡も数多い。周辺の宿阿内城址・力丸城址はこのような環濠屋敷が複合・発展した形態ととらえられ、那波（なは）氏一族に関連する室町・戦国期の城館址と考えられている。

第１表　周辺の遺跡一覧表　（福田・和久、2012 より）

遺構の種別／遺跡表示番号		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32
古墳時代の水田跡	As-C 混土層				○		○							○		平安～中世の用水路跡							○					○					
	As-C 混土層上	○																															
	Hr-FA 層下	○					○															○	○					○		○		○	○
	Hr-FA 洪水層下																																
	Hr-FP 層下																															○	
	Hr-FP 泥流層下																																
古墳時代の竪穴住居跡		後	前後		前		前							前			前	後		後		前	後		後	後		前後					
奈良・平安時代の水田跡		○	○	○		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○				○	○	○	○	○	○				○	○	○	○	○	
奈良・平安時代の竪穴住居跡		○	○	○	○		○	○									○			○			○				○	○					
中・近世の水田跡	As-B 混土層																						○					○		○			
	As-A 層下																						○										
	復旧溝など																																
中・近世その他の遺構	館跡など	○			○																		○				○	○					
	火葬土坑	○																				○											
	土坑墓																													○			

遺構の種別／遺跡表示番号		33	34	35	36	37	38	39	40	41	42	43	44	45	46	47	48	49	50	51	52	53	54	55	56	57	58	59	60	61	62	63	64
古墳時代の水田跡	As-C 混土層							○									○	○							○	○							
	As-C 混土層上						○																										○
	Hr-FA 層下				○	○	○	○				○						○								○		○		○	○		
	Hr-FA 洪水層下												○																				
	Hr-FP 層下				○		○	○				○																					
	Hr-FP 泥流層下		○			○		○																									
古墳時代の竪穴住居跡					前中							前中														前							
奈良・平安時代の水田跡		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
奈良・平安時代の竪穴住居跡							○											○	○	○	○	○		○	○	○							
中・近世の水田跡	As-B 混土層	○		○	○			○				○				○																	
	As-A 層下						○																										
	復旧溝など	○			○	○	○	○				○												○				○					○
中・近世その他の遺構	館跡など					○	○	○	○			○				○	○	○				○		○	○	○		○					
	火葬土坑					○																											
	土坑墓					○	○										○	○						○	○								○



（福田・和久 2012 を一部改編）

1 朝倉工業団地遺跡群
2 六供東京安寺
3 六供下堂木Ⅴ
4 六供中京安寺
5 中大門
6 六供下堂木Ⅱ
7 六供下堂木Ⅲ
8 六供下堂木
9 六供下堂木Ⅳ
10 六供遺跡群
11 南京安寺
12 東京安寺
13 櫛島川端Ⅱ
14 長山
15 鎮守廻り
16 後閑団地
17 坊山
18 後閑
19 後閑Ⅱ
20 上佐鳥中原前・同Ⅱ
21 櫛島川端（事業団）
22 公田東（事業団）
23 公田東（調査会）
24 下佐鳥
25 川曲
26 西善鍛冶屋
27 公田池尻
28 東田
29 亀里平塚
30 宮地中田
31 西横手遺跡群Ⅰ
32 西横手遺跡群Ⅱ
33 横手宮田
34 井戸南
35 横手宮田Ⅱ
36 横手早稲田
37 横手南川端
38 西横手遺跡群
39 宿横手三波川
40 亀里銭面・同Ⅱ
41 亀里油面Ⅱ
42 鶴光路練引
43 横手湯田・同Ⅱ～Ⅵ
44 南部拠点地区遺跡群No.4
45 村中Ⅱ
46 西田Ⅴ
47 西田Ⅲ
48 村中
49 西田
50 西田Ⅱ
51 西田Ⅵ
52 鶴光路榎橋Ⅱ
53 徳丸高堰Ⅲ・同Ⅳ
54 西田・西田Ⅳ
55 鶴光路榎橋
56 徳丸高堰・同Ⅱ
57 徳丸仲田・同Ⅱ～Ⅳ
58 南部拠点地区遺跡群No.3
59 下阿内壱町畑
60 南部拠点地区遺跡群No.6
61 南部拠点地区遺跡群No.1
62 南部拠点地区遺跡群No.5
63 南部拠点地区遺跡群No.2
64 下阿内前田
65 朝倉２号墳
66 朝倉１号墳
67 朝倉３号墳
68 八幡山古墳
69 天神山古墳
70 亀塚山古墳
71 上両家二子山古墳
72 大屋敷古墳
73 下川渕３号墳
74 浅間神社古墳
75 宿阿内城
76 力丸城

第２図　周辺の遺跡

Ⅲ　調査の方法と経過

１　調査の方法

本遺跡地内はすでに前橋市教育委員会によって全面的に試掘調査が実施されており（『朝倉工業団地埋蔵文化財確認調査報告書』2011)、その調査成果と今回の開発事業の内容から調査範囲が決定された。調査範囲は遺跡に破壊が及ぶ構造物の基礎部分で、１区から 20 区までの調査区を設定した（第３図)。

主な調査対象はＡｓ－Ｂ層下の水田跡と、Ｈｒ－ＦＡ層下の水田跡等であり、一部の調査区は２面に及ぶ調査となった。調査面積は、１面目のＡｓ－Ｂ層下面の面積が 2,405 ㎡、２面目のＨｒ－ＦＡ層下面が 2,886 ㎡で、合計 5,291 ㎡であった。

１面目の調査では、表土からＡｓ－Ｂ層の上部までをバック・ホーで掘削し、その後は人力で遺構の検出にあたった。１面目はＡｓ－Ｂ層下の水田跡のほか平安時代末以降の溝跡などの遺構を精査した。２面目では、１面目の調査区と重なる部分ではＨｒ－ＦＡ層までの間層をバック・ホーで除去し、１～５区、15 ～ 20 区では表土層からＨｒ－ＦＡ層上面までをバック・ホーで掘削し、その後は人力で遺構の精査にあたった。このため、１面目の調査が終了している調査区では、Ｈｒ－ＦＡ層下の水田跡などの古墳時代から平安時代末の間の遺構のみの調査となったが、その他の調査区では平安時代末以降の遺構も検出されている。

検出された遺構は、時代などに関わらず検出順に種類毎に記号番号を付した。また調査区をまたがっていても同一遺構と確認された場合は、同じ遺構番号とした。記号は、Ｗは溝跡、Ｄは土坑、Ｉは井戸跡を表している。本書では調査時の遺構番号をそのまま使用している。

遺構・遺物の精査後は写真撮影、測量図面等の記録を作成した。写真撮影は、１面目・２面目ともに遺構検出終了後に全体の空中写真撮影を実施し、個別遺構は 35 ㎜モノクロフィルム及びリバーサルフィルムと、デジタルカメラで撮影した。図面測量は、平面図はトータルステーションを用いて作成し、断面図は手実測で 1/20 縮尺で実施した。

２　調査の経過

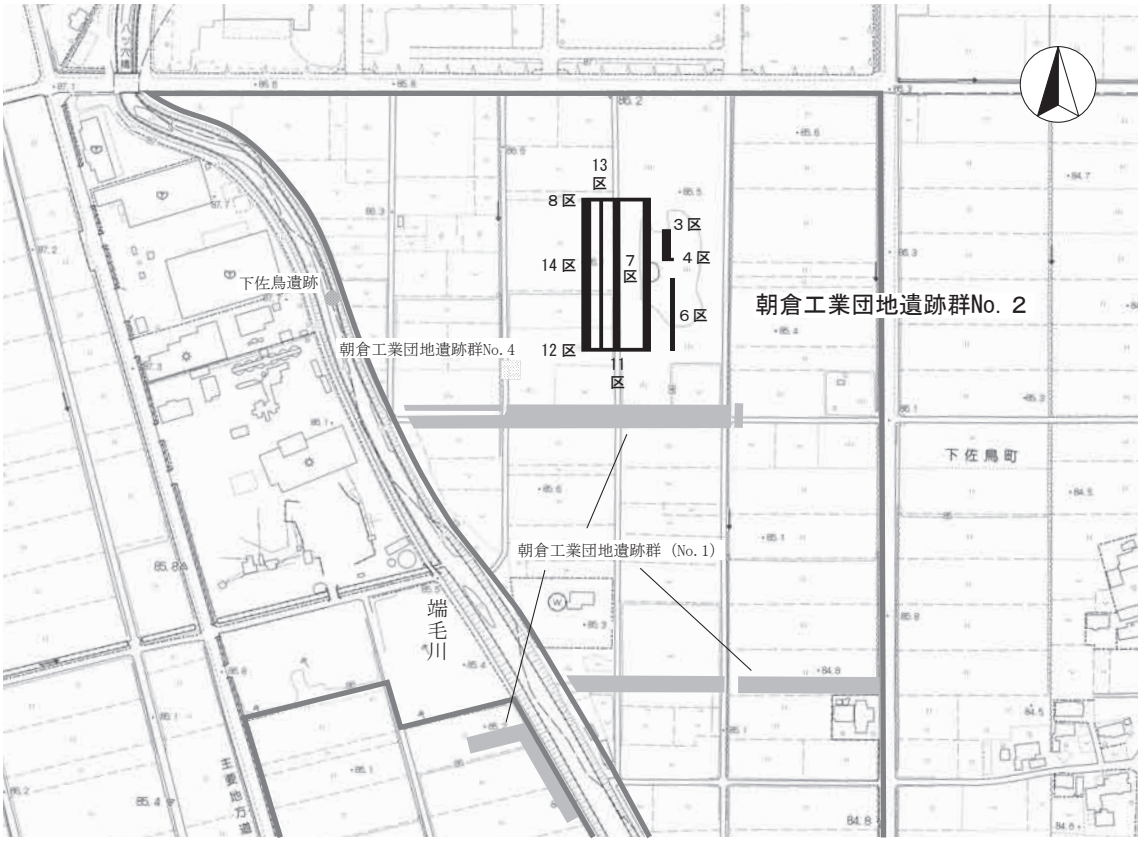
平成 24 年 11 月 26 日より調査に着手。まず基準杭や調査区を設定し、器材の準備・搬入の後、11 月 28 日から１面目の対象地の表土掘削をバック・ホーにより開始した。11 区から順次、８区 14 区７区 13 区 12 区６区３・４区と掘削し、１区の表土まで除去して、12 月６日に終了した。現地事務所用プレハブは 12 月６日に搬入・設置した。

12 月３日からは発掘補助員を投入し、人力による遺構の精査を開始。14 区から順次東方に進め、最後に６区の精査を平成 25 年１月９日に終了した。１月 10 日からは空中写真撮影と平面測量を実施し、１月 12 日に１面目の調査を終了した。

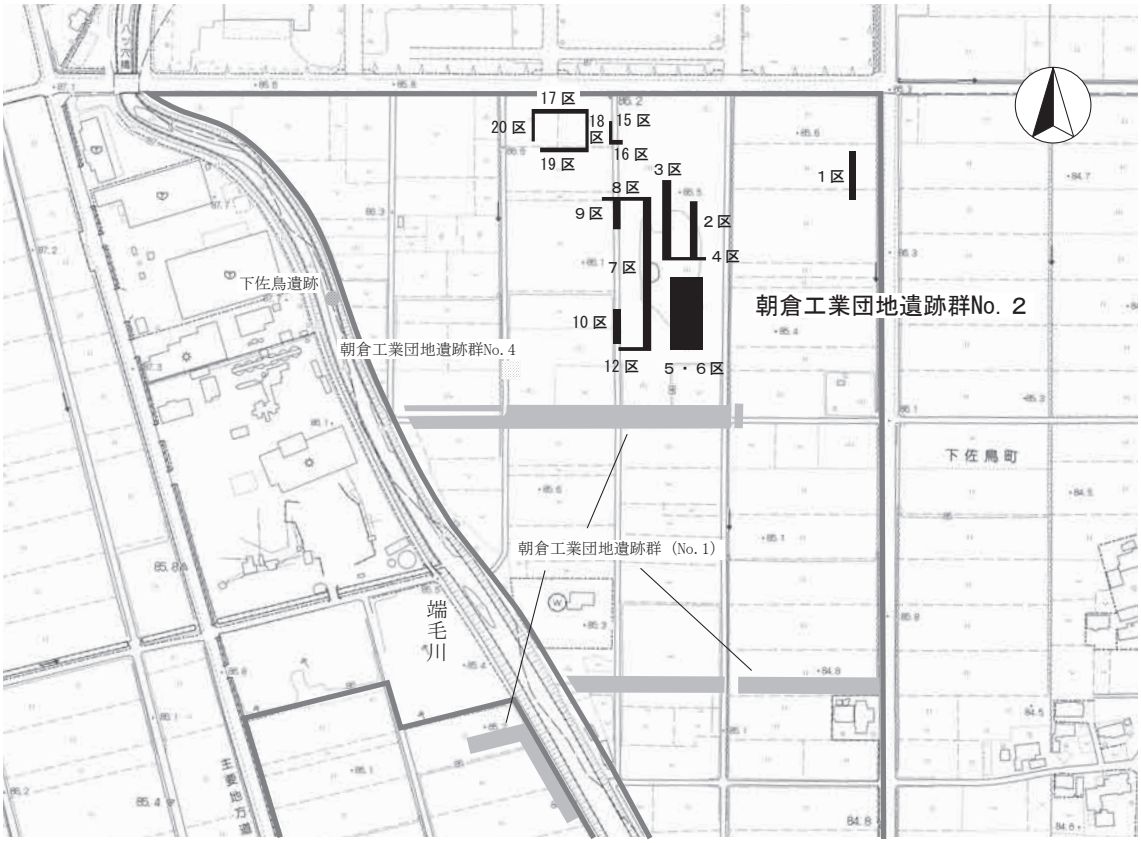
２面目の調査は１月 15 日から開始し、まず１区から人力による遺構精査を開始し、その後順次 17 ～ 20 区、15・16 区、２～４区、７～ 10 区と作業を進めた。この間バック・ホーによる掘削を 16 日に開始し、28 日に終了した。遺構の精査は２月 12 日に終了し、14 日から 16 日にかけて空中写真撮影・測量業務を実施した。２月 18 ～ 19 日に器材の撤収・プレハブの解体・撤去を行い調査を終了した。

埋戻し作業は 23 日から 26 日にかけてブルドーザーを使用して実施し、現地の作業をすべて終了した。

整理・報告書作成業務は、平成 25 年３月から８月にかけて有限会社毛野考古学研究所において実施した。



As-B層下調査区



Hr-FA層下調査区

0 100 200m
1:5,000

第３図　調査区配置図

Ⅳ　遺跡の概要

１　遺構・遺物の概要

検出された遺構は、平安時代末期以降では、Ａｓ－Ｂ層直下の水田跡（11 ～ 14 区）・溝跡１条、Ａｓ－Ｂ混土層の水田跡（11 区）・溝跡７条、中近世の溝跡（環濠屋敷跡を含む。）53 条、土坑２基、井戸跡１基で、古墳時代から平安時代では、Ｈｒ－ＦＡ下の畠跡（１区）、同じく水田跡、溝跡６条、土坑３基、奈良時代から平安時代の溝跡３条、土坑４基、古墳時代中期の遺物包含層、奈良時代の遺物包含層などであった。これらのうち平安末期以降の遺構については、１面目の調査での検出と２面目の調査での検出とが混在しており、次章の遺構の個別説明では調査面毎に順次記述し、最終的に時期別の全体図を添付することとする。

Ａｓ－Ｂ層直下の水田跡は、一次堆積層が遺存した 14 区から 13 区、及び 11 区の一部にかけて検出された。また、７区では一次堆積で直接埋没したＷ -26 号溝が検出された。

Ａｓ－Ｂ混土層の水田跡は、11 区のＢ直下の水田跡の東辺で南北畦畔を中心に部分的に検出された。

環濠屋敷跡（５・６区、７区）は、方形の全体の区画の北東部 1/4 程度の範囲とみられ、内部施設は不明な部分が多い。環濠から北東 15 ｍほどの位置で検出された１号井戸跡は関連する施設の可能性がある。

Ｈｒ－ＦＡ層下の畠跡は１区のみの検出であった。

Ｈｒ－ＦＡ層下の水田跡は極小区画の水田で、15・16 区では良好な遺存状況で検出された。３区、５区、７区では痕跡が部分的に確認された程度であった。

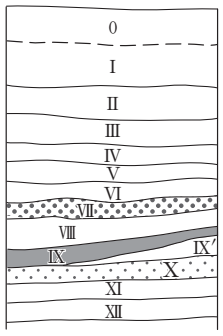
出土遺物は、全体の数量はパン箱２箱程であった。明確に遺構に伴う遺物は、１区畠跡の数点の土器片と、Ｄ－３号土坑の坏１点程度であり、大部分は 17 区のⅨ′層の遺物包含層から出土した土師器群である。

２　基本層序

調査地内は昭和 40 年代の耕地整理事業を初め、後世の掘削・攪乱が顕著な地点が多く、調査区によって土層の堆積状況は多様であった。本遺跡地内ではすでに２度の発掘調査が実施されており、今回の調査地の南隣接地も工業団地土地区画整理事業に伴い調査されている。(『朝倉工業団地遺跡群』2012 年)、このため今回の調査は基本的にこの際に設定された基本層序に準拠した。各層位と説明は下図のとおりである。

Ⅶ層は 1108 年降下のＡｓ－Ｂ一次堆積層であり、これ以降はほぼ中世以後にあたるといえる。Ⅸ層は６世紀初めのＨｒ－ＦＡ層で、Ｘ層は４世紀初め頃の降下と考えられるＡｓ－Ｃ軽石の混入する黒色土層である。

今回の 17 ～ 20 区の調査地点では、Ⅸ層とＸ層の間に洪水堆積層とみられる灰褐色粘質土層が存在した。17 区では古墳時代中期初めの土器を多量に包含しており、これをⅨ′層として基本層序に追加した。



土層説明

0	盛土層	
Ⅰ	灰褐色土層	現表土。Ａｓ-Ａが混入。Ａｓ-Ｂが微量混入。しまり、粘性ともやや弱い。
Ⅱ	灰褐色土層	Ａｓ-Ａが混入。Ａｓ-Ｂも少量混入。しまり、粘性ともやや弱い。
Ⅲ	灰黄褐色土層	Ａｓ-Ａ及びＡｓ-Ｂが混入。しまり、粘性とも普通。
Ⅳ	黄褐色土層	Ａｓ-Ｂ混土。鉄分の沈着が顕著。しまり、粘性ともやや普通。
Ⅴ	暗灰色土層	Ａｓ-Ｂ混土。多量のＡｓ-Ｂが混入。鉄分の沈着が一部で認められる。しまり、粘性とも普通。
Ⅵ	褐色土層	Ａｓ-Ｂ混土。Ａｓ-Ｂおよび黒褐色粘質土が中量、灰黄褐色土が少量混入。しまり、粘性とも普通。
Ⅶ	褐灰色土層	Ａｓ-Ｂ一次堆積層。しまり、粘性とも極めて弱い。
Ⅷ	暗灰色土層	Ｈｒ-ＦＡブロック少量混入。しまりは普通、粘性強い。
Ⅸ	灰黄褐色土層	Ｈｒ-ＦＡ洪水層。多量のブロックを含む。しまり普通、粘性強い。
Ⅸ′	灰褐色土層	Ａｓ-Ｃやや多く混入。鉄分の沈着多い。しまり普通、粘性強い。
Ⅹ	黒褐色土層	Ａｓ-Ｃ混土。しまり普通。粘性強い。
Ⅺ	黒褐色土層	粘性土。鉄分の沈着が一部で認められる。しまり普通。
Ⅻ	黒褐色土層	粘性土。鉄分の沈着が顕著。しまり普通。

0　1:30　4 m

第４図　基本層序

Ⅴ　検出遺構

１　Ａｓ－Ｂ層下面の調査

Ａｓ－Ｂ降下後の平安時代末期以降の遺構である。Ａｓ－Ｂ層は、14 区から 11 区にかけての西半部は良好な堆積が認められたが、７区から３区や６区にかけての東半部では削平されていて確認されなかった。

１　水田跡

Ａｓ－Ｂ層下水田跡　（第５～７図・27 図、ＰＬ．２～４）

位置：11 区の北端及び南半部分から、13・14 区全体にかけて検出された。　**重複**：Ｗ－１号～ 16 号溝に切られている。　**地形**：北から南への緩傾斜地であり、東から西へもわずかに低くなる。東方は本来もう少し高い地形であったとみられる。　**畦畔**：14 区で南北方向の畦畔が約 100 ｍの長さで検出された。また 11 区の中央部と 12 区でも南北畦畔が部分的に検出された。両畦畔の間は 19 ｍ～ 24 ｍほどである。東西方向の畦畔は南北畦畔に取り付く形で検出された。軸線はほぼ東西・南北方向を指向するが、大きく屈曲する部分もみられる。小畦畔のみであるが、南北畦畔が総体的にやや規模が大きく、下幅が 36 ～ 77㎝、高さ 6.7㎝を測る。　**区画**：20 区画が推定されるが、全形を知り得るものはない。区画⑦の推定面積は 409 ㎡ほどで、最大の区画である。傾斜が大きい南半部では区画は東西に細長い形態で、区画⑭は最小で 107 ㎡ほどと推定される。また、14 区では半月状の不定形な区画⑪が検出されている。水田土壌は鉄分が多量に沈着し、しまりと粘性の強い茶褐色土が主で、畦畔もこの土壌で構築されていた。　**水口**：南北畦畔の両脇の５カ所で検出された。いずれも北から南の方向への配水である。区画⑤と区画⑩の北西隅部分も本来水口があった可能性が強い。区画⑨の北東隅では、底に礫が２点設置された状況で検出された。　**遺物**：出土していない。

Ａｓ－Ｂ混土層水田跡　（第５図・27 図、ＰＬ．２・４）

位置：11 区の北半部で検出された。　**重複**：Ｗ－15 ～ 18 号溝に切られている。Ｗ－17・18 号溝はこの畦畔を構築する際の土取り痕の可能性もある。　**地形**：わずかに南方向に下がっている。　**畦畔**：南北畦畔が約 23 ｍほどと、西に延びる東西畦畔の一部が２カ所で認められた。幅は 35 ～ 55㎝ほどであるが、高さは残っておらず色調の違いで確認できる程度であった。　**区画**：３区画が想定されるのみである。　**遺物**：なし。

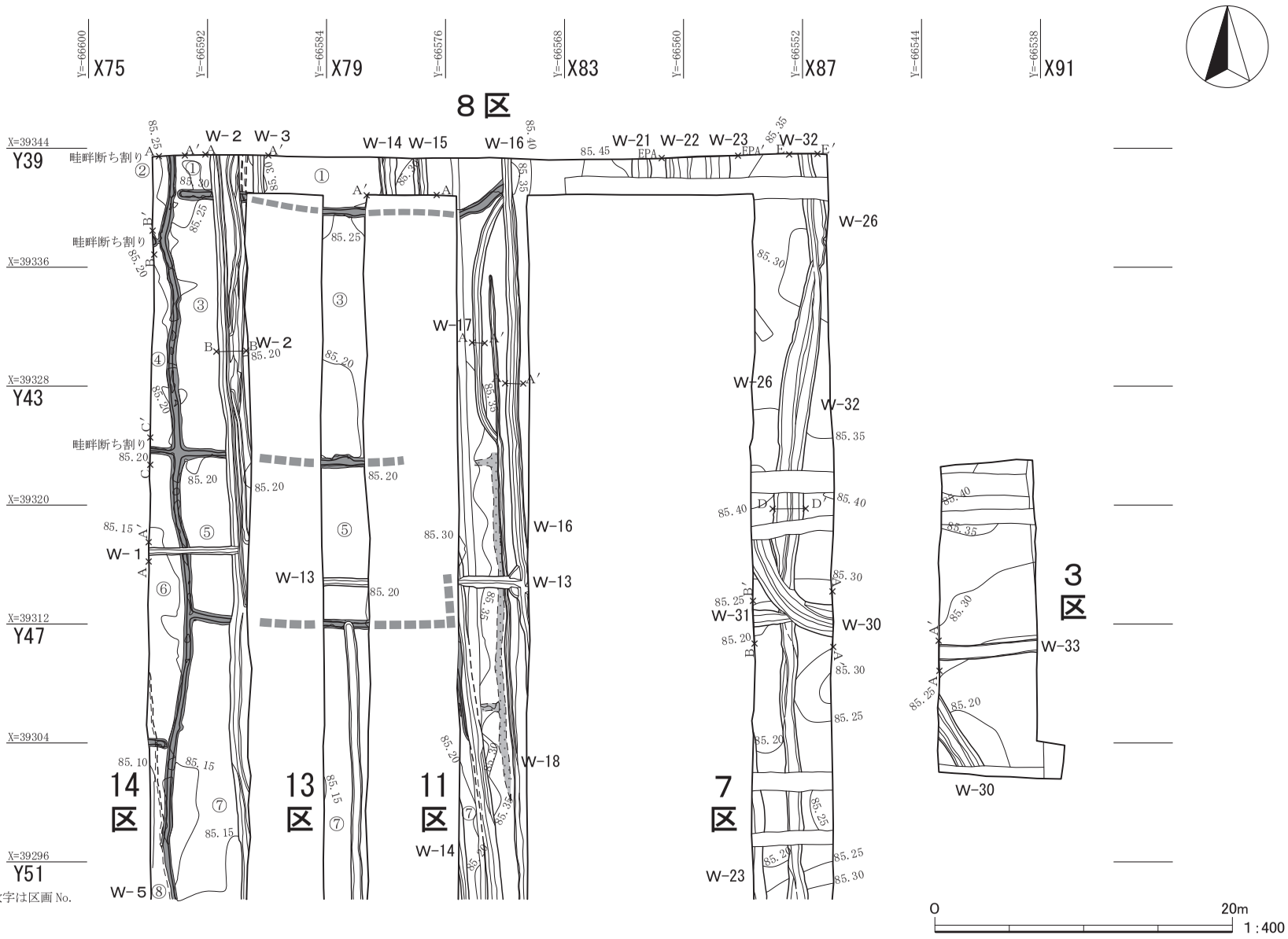
２　溝　跡

Ｗ－１号溝跡　（第５・８図、ＰＬ．２・４）

位置：14 区北半部で、長さ６ｍほどが検出された。　**重複**：Ｗ－２号溝に切られ、Ｂ下水田を切っている。　**規模・形態**：走向は東西方向で、上幅 0.75㎝、深さ 0.22㎝ほどである。断面形は逆台形状で、Ｗ－13 号溝と連続しているとみられる。　**埋没状態**：埋土上部にＡ軽石を含む。　**遺物**：なし。　**時期**：埋土の状況から近世以後とみられる。

Ｗ－２号溝跡　（第５・８図、ＰＬ．２・４）

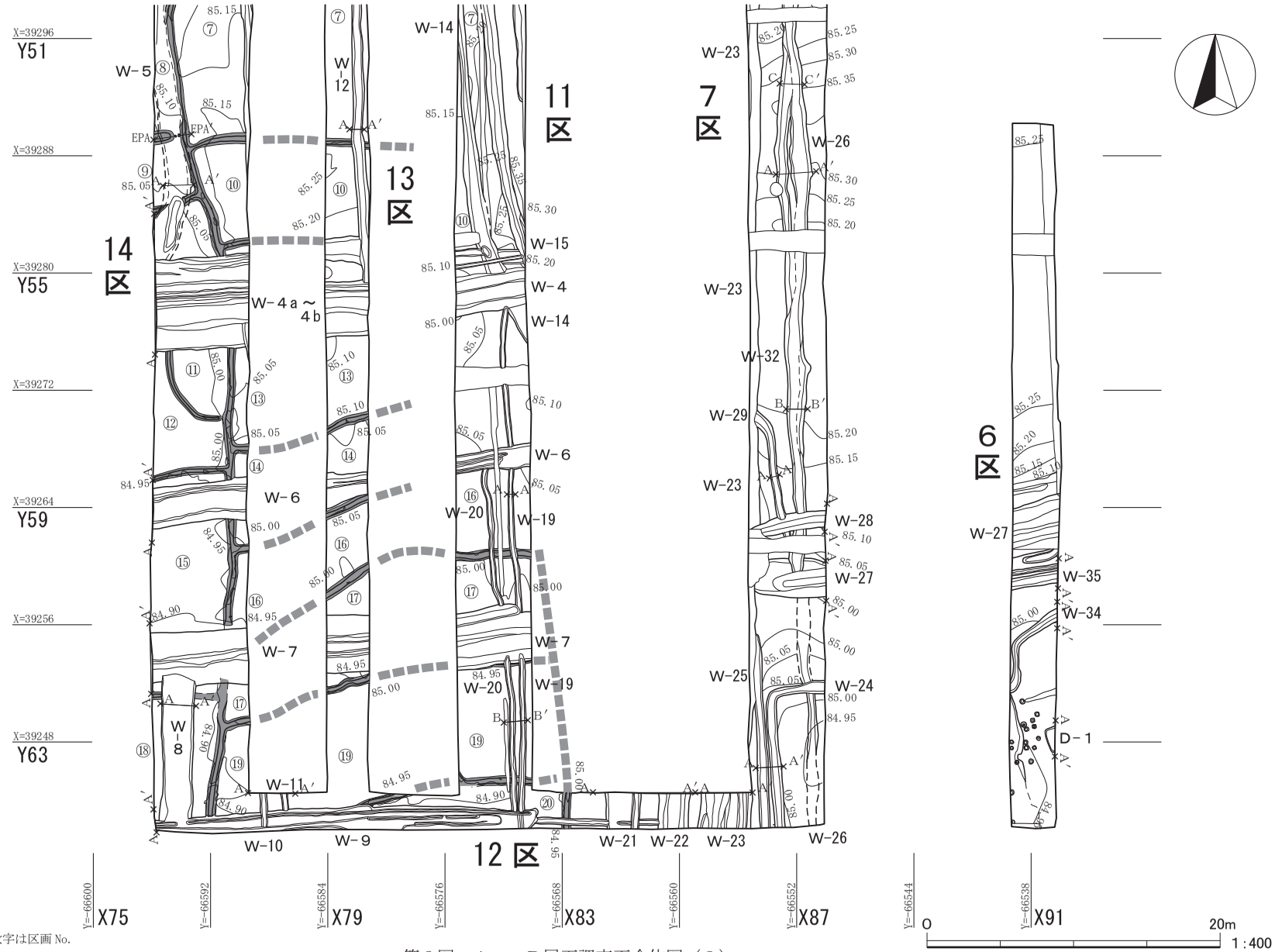
位置：14 区北半部。南北に 52 ｍほどの長さにわたり検出された。　**重複**：Ｂ下水田、Ｗ－１号溝を切っている。　**規模・形態**：４条の溝が重なる状態で、北から南へ走行している。２ａ号は、Ｕ字形の断面で上幅 48㎝・深さ 40㎝、２ｂ号は逆台形、２ｃ号は箱型で、ともに上幅は１ｍ以上とみられ、深さは 26㎝と 80㎝を計る。２ｄ号は皿状で、上幅 60㎝・深さ 10㎝であった。底面には耕具痕の凹凸が目立つ。　**埋没状態**：２ａ号・２ｂ号は埋土の上部にＡ軽石を含む。　**遺物**：２ｂ号から混入とみられる土師器・須恵器小片が少量出土している。　**時期**：埋土から２ａ号・２ｂ号は近世以後とみられ、２ｃ号・２ｄ号も近い時期とみられる。



:As-B 下水田畦畔・丸数字は区画 No.

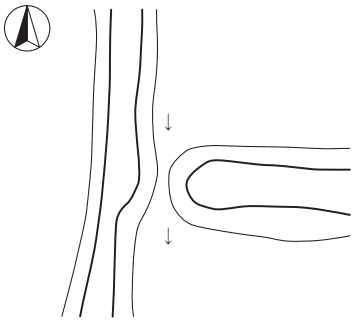
:As-B 混土水田畦畔

第５図　Ａｓ－Ｂ層下調査面全体図（１）

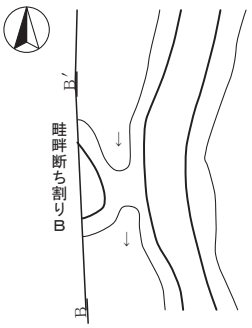


第６図　Ａｓ－Ｂ層下調査面全体図（２）

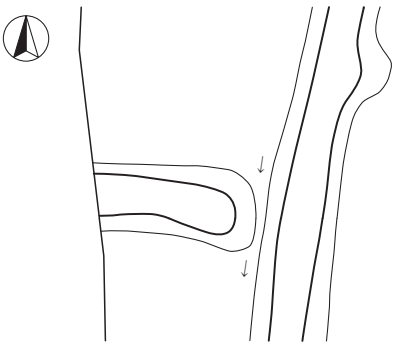
区画①→③水口



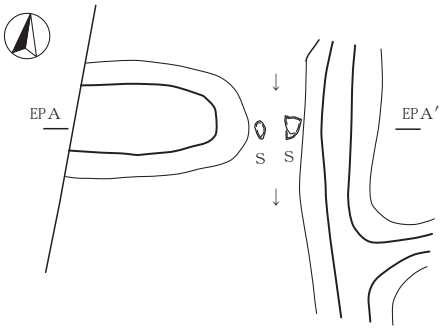
区画②→④水口

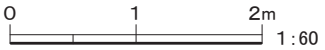


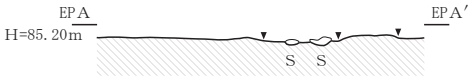
区画⑥→⑧水口



区画⑧→⑨水口



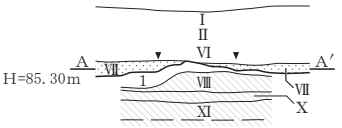




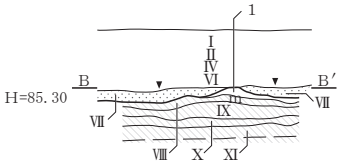
畦畔断ち割り

1　茶褐色土層　　水田土壌。 鉄分が多く沈着。しまり・粘性あり。
Ⅷ層の上面に広く分布。南に向かって薄い堆積となる。
この層が分布する範囲は水田面も茶褐色を呈する。

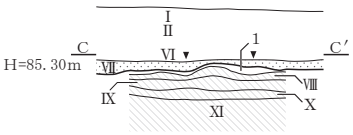
畦畔断ち割りA



畦畔断ち割りB



畦畔断ち割りC



第７図　Ａｓ－Ｂ層下水田跡

第２表　Ａｓ－Ｂ層下水田跡区画計測表

面積は畦畔下端線の範囲、田面比高は同一区画内の最大値、畦畔高は田面と畦畔の比高を示す。
南北畦畔は区画の西側に、東西畦畔は区画の北側に位置するものを指す。( )は推定又は残存値。

調査区	区画No.	面積(㎡)	南北軸(m)	東西軸(m)	田面中央標高(m)	田面比高(cm)	南北畦畔高(cm)	南北畦畔上端幅(cm)	南北畦畔下端幅(cm)	東西畦畔高(cm)	東西畦畔上端幅(cm)	東西畦畔下端幅(cm)	備考
8・14	①	—	—	—	—	—	6.0	(21～28)	(47～60)	—	—	—	
8・14	②	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
13・14	③	—	17.4	—	(85.23)	—	6.7	14～42	42～77	(7.1)	(24～48)	(52～75)	北西隅に水口
14	④	—	(14.3)	—	—	—	—	—	—	—	—	—	北東隅に水口
13・14	⑤	—	11.2	—	(85.18)	—	5.4	18～37	50～72	(6.7)	(19～53)	(50～73)	北西隅水口痕？
14	⑥	—	(19.7)	—	—	—	—	—	—	(6.0)	(13～18)	(47～43)	
13・14	⑦	(409)	23.5	(18.7)	(85.16)	—	(3.8)	(18～23)	(49～62)	(3.5)	(24～31)	(57～67)	
14	⑧	—	(14.8)	—	—	—	—	—	—	(2.8)	(18～34)	(54～62)	北東隅に水口
14	⑨	—	(4.8)	—	—	—	—	—	—	(3.7)	(51～57)	(92～93)	北東隅に水口。据え石あり。
13・14	⑩	—	8.2	—	(85.23)	—	2.5	(28～32)	(56～74)	(1.0)	(13～38)	(35～60)	北西隅水口痕？
14	⑪	—	(15.3)	(4.3)	—	—	(2.2)	(14～22)	(36～50)	—	—	—	半月形の区画
14	⑫	—	(25.0)	—	—	—	—	—	—	—	(16～24)	(54～62)	
13・14	⑬	—	(18.4)	—	—	—	2.1	(23～30)	(36～59)	—	(19～23)	(52～69)	
11・13・14	⑭	—	(6.8)	—	—	—	(1.2)	(22～38)	(56～72)	(4.2)	(16～41)	(50～67)	
14	⑮	—	(15.5)	—	—	—	—	—	—	(5.1)	(13～27)	(40～52)	
11・13・14	⑯	—	—	—	—	—	(7.4)	(21～31)	(53～63)	(4.0)	(23～41)	(56～69)	
11・13・14	⑰	—	—	—	—	—	—	—	-52	(5.5)	(31～42)	(55～72)	
14	⑱	—	—	—	—	—	—	—	—	—	(18～23)	(38～53)	
11～14	⑲	—	—	—	—	—	(5.3)	—	—	(6.2)	(13～32)	(47～61)	
11・12	⑳	—	—	—	—	—	—	—	—	(6.6)	(20～37)	(43～66)	

Ｗ－３号溝跡　（第５・８図、ＰＬ．２・５）

位置：８区西方で、2.5ｍの長さで検出された。　**重複**：なし。　**規模・形態**：Ｗ－２号溝と並行して南北方向に走る。上幅 56cm・深さ 38cm を計り、断面形はＵ字形を呈する。　**埋没状態**：埋土の上半部にはＡ軽石を含む。**遺物**：なし。　**時期**：埋土からみて近世以後の溝である。

Ｗ－４号溝跡　（第６・８図、ＰＬ．２・５）

位置：14 区から 11 区までの 25 ｍの間で検出された。　**重複**：Ｂ下水田・Ｗ－５号溝を切り、Ｗ-14 号・15 号溝には切られている。　**規模・形態**：４ａ号～４ｅ号まで５条の溝が重複し、東から西へ走る。規模は４ａ号は上幅 1.74 ｍ・深さ 36cm、４ｂ号は上幅 1.62 ｍ・深さ 44cm、４ｃ号は上幅 1.71 ｍ・深さ 28cm、４ｄ号は上幅 1.6 ｍ以上・深さ 22cm 以上、４ｅ号は不明であった。断面形は、４ａ号・４ｃ号・４ｄ号は皿状、４ｂ号は逆台形である。　**埋没状態**：４ａ号は埋土全体に、４ｂ号・４ｃ号・４ｄ号は埋土上部にＡ軽石を含んでいた。　**遺物**：４ａ号から陶磁器小片（第 24 図－１）が出土したほか、13 区と 14 区の４ａ号・４ｂ号からは、混入品の土師器や陶器小片が少量出土している。　**時期**：埋土の状況から近世以後とみられる。

Ｗ－５号溝跡　（第５・６・８図、ＰＬ．２）

位置：14 区の中央付近で、28 ｍほどの長さで検出された。　**重複**：Ｂ下水田面を切り、Ｗ－４ａ号溝には切られている。　**規模・形態**：北から南へ走り、南端は大きく西側へ屈曲する。上幅は 1.78 ｍ・深さは 27cm ほどで、断面形は皿状である。　**埋没状態**:埋土中にはＡ軽石を含む。　**遺物**:埋土中から内耳堝の破片や陶器の小片（第 24 図－２・３）などが少量出土した。　**時期**：近世以後である。

Ｗ－６号溝跡　（第６・９図、ＰＬ．２・５）

位置：14 区から 11 区までの 26 ｍの間を連続している。　**重複**：Ｂ下水田面、Ｗ-19 号・20 号溝を切っている。**規模・形態**：東から西方向へ走る。東方は上部を削平されている。上幅 3.25 ｍ、深さは 44cm を計り、断面形は皿状である。　**埋没状態**：埋土中にＢ軽石をやや多く含んでいる。　**遺物**：14 区の埋土中から砥石の破片（第 24 図－４）と土師器小片が出土している。　**時期**：埋土の状況から中世の溝とみられる。

Ｗ－７号溝跡　（第６・９図、ＰＬ．２・５）

位置：14 区から 11 区までの 26 ｍの間を連続している。　**重複**：Ｂ下水田面、Ｗ-19 号・20 号溝を切り、Ｗ－８号溝に切られている。　**規模・形態**：東から西方向へ走り、上幅 3.95 ｍ、深さ 32cm ほどで、断面形は皿状である。　**埋没状態**：埋土中にＢ軽石をやや多く含んでいる。　**遺物**：11 区の埋土中から内耳堝の小片（第 24 図－５）が出土したほか、11 区・14 区から混入とみられる土師器・須恵器片が少量出土している。　**時期**：埋土の状況から中世とみられる。

Ｗ－８号溝跡　（第６・９図、ＰＬ．２）

位置:14 区南端で 10 ｍの長さが検出された。　**重複**:Ｂ下水田・Ｗ－７号溝を切り、Ｗ－９号溝には切られている。**規模・形態**：Ｗ－７号溝と重複する部分から始まり、南へ走る。上幅 2.16 ｍ・深さ 14cm を計り、皿状の断面である。**埋没状態**:埋土中にＢ軽石をやや多く含んでいる。　**遺物**:なし。　**時期**:埋土の状況から中世とみられる。

Ｗ－９号溝跡　（第６・９図、ＰＬ．２・５）

位置：12 区で約 34 ｍの長さで検出された。　**重複**：Ｂ下水田面・Ｗ－８号・10 号・11 号・19 号～ 22 号溝を切っている。　**規模・形態**：３条以上が重複しながら東から西方向へ走る。上幅は９ｂ号が 1.6 ｍ以上、深さは９ａ号・９ｂ号ともに 60cm ほどで、断面形は９ａ号がＵ字形、９ｂ号は逆台形とみられる。底面には耕具痕が目立っている。　**埋没状態**：第Ⅲ層に由来する埋土が主体である。　**遺物**：混入とみられる土師器・須恵器小片が数点出土。　**時期**：近代以後とみられる。

Ｗ－10 号溝跡　（第６・９図、ＰＬ．２・５）

位置：12 区西側部分で検出された。　**重複**：Ｗ－９号溝に切られている。　**規模・形態**：３条の溝が重複して北から南へ走っている。10 ｃ号溝は上幅 40cm 以上・深さ 40cm ほどで、断面形はＵ字形である。　**埋没状態**：埋土中にＡ軽石を少量含む。　**遺物**：なし。　**時期**：埋土の状況から近世以後とみられる。

Ｗ－11 号溝跡　（第６・９図、ＰＬ．２・５）

位置：12 区西側部分で検出された。　**重複**：Ｗ－９号溝に切られている。　**規模・形態**：南北方向の走向で、上幅 74cm・深さ 32cm ほど、断面形はＵ字形である。　**埋没状態**：埋土上部にＡ軽石を少量含む。　**遺物**：なし。　**時期**：埋土の状況から近世以後とみられる。

Ｗ－12 号溝跡　（第５・６・10 図、ＰＬ．２・５）

位置：13 区中央付近で検出された。　**重複**：Ｂ下水田を切り、Ｗ－４号溝に切られている。　**規模・形態**：北から南方向に直線的に走る。上幅 70cm・深さ 32cm ほどで、断面形は逆台形を呈する。　**埋没状態**：下層にＢ軽石を多量に含む。　**遺物**：混入とみられる土師器小片が出土。　**時期**：埋土の状況から平安末から中世にかけてとみられる。

Ｗ－13 号溝跡　（第５図、ＰＬ．２・５）

位置：11 区から 13 区にかけての 13.5 ｍの間で検出された。　**重複**：Ｗ－18 号溝を切り、Ｗ－15 号・16 号溝に切られている。　**規模・形態**：東から西方向に直線的に走り、11 区の東端、Ｗ－16 号溝との重複部分では鍵の手状に小さく折れ、さらに東へ続いている。上幅は 58cm、深さは約 50cm で、断面形は逆台形である。　**埋没状態**：埋土上部にＡ軽石を含む。　**遺物**：なし。　**時期**：埋土の状況から近世以後とみられる。

Ｗ－14 号溝跡　（第５・６・９図、ＰＬ．２・６）

位置：８区中央付近と、延長部にあたる 11 区中央付近で検出。　**重複**：Ｂ下水田面とＷ－４号溝を切っている。**規模・形態**：北から南に走るが、11 区の部分では大きく東へ屈曲して続いていく。上幅約 1.18 ｍ・深さ 50cm で、断面形はＵ字形である。　**埋没状態**：埋土中にＡ軽石をわずかに含む。　**遺物**：なし。　**時期**：埋土の状況から近世以後とみられる。

Ｗ－15 号溝跡　（第５・６・９図、ＰＬ．２・６）

位置：Ｗ－14 号溝の東側に並行するように、８区と 11 区で検出された。　**重複**：Ｂ下水田面とＷ－４号・13 号溝を切っている。　**規模・形態**：北から南の走向で、南側は東へ屈曲している。　**埋没状態**：埋土全体にＡ軽石を少量含む。　**遺物**：内耳塝とみられる小破片（第 24 図－６）のほか、陶器片（第 24 図－７）、混入とみられる須恵器片などが少量出土。　**時期**：埋土の状況から近世以後とみられる。

W－16 号溝跡　（第５・10 図、ＰＬ．２・６）

位置：８区から 11 区北半部で検出された。　**重複**：Ｂ下水田面とＢ混土水田面、Ｗ－13 号・17 号溝を切っている。**規模・形態**：北から南へ向かって 36 ｍ以上続いている。上幅 80cm・深さ 52cm ほどで、断面形はＶ字形に近い。**埋没状態**：上部にＡ軽石を含む。　**遺物**：混入とみられる土師器片・陶器片がわずかに出土している。　**時期**：埋土の状況から近世以後とみられる。

W－17 号溝跡　（第５・10 図、ＰＬ．２・５・６）

位置：11 区の北側で検出された。　**重複**：Ｗ－16 号溝に切られている。　**規模・形態**：北側へ張り出した弧状で、南端はＷ－18 号溝と接続している。上幅 55cm・深さ８cm ほどで、断面形は皿状である。　**埋没状態**：Ｂ軽石を多量に含む埋土である。　**遺物**：なし。　**時期**：埋土の状況から平安末頃とみられる。

W－18 号溝跡　（第５図、ＰＬ．２・５）

位置：11 区北半部で検出された。　**重複**：Ｂ混土水田を切り、Ｗ－13 号溝に切られている。　**規模・形態**：南北に 43 ｍ以上の長さで検出され、ほぼ直線的に走る。上幅 36cm・深さ 6cm ほどと小規模で、Ｂ混土水田の南北畦畔に沿っている。　**埋没状態**：Ｂ軽石を多量に含む埋土である。　**遺物**：なし。　**時期**：埋土の状況から平安末頃とみられる。

W－19 号溝跡　（第６・10 図、ＰＬ．２・６）

位置：11 区南半部で検出された。　**重複**：Ｂ下水田を切り、Ｗ－４号・６号・７号・９号溝に切られている。　**規模・形態**：南北方向に走り、34 ｍほどの長さが検出された。上幅が 38cm、深さは 20cm で、断面形はＵ字状である。**埋没状態**：埋土全体にＢ軽石を多く含む。　**遺物**：なし。　**時期**：埋土の状況から平安末頃とみられる。

W－20 号溝跡　（第６・10 図、ＰＬ．２・６）

位置：11 区南半部で、Ｗ－19 号溝と並行するように検出された。　**重複**：Ｂ下水田を切り、Ｗ－６号・７号・９号溝に切られている。　**規模・形態**：やや屈曲が多く、Ｗ－19 号溝とほぼ同規模である。　**埋没状態**：埋土全体にＢ軽石を多く含む。　**遺物**：なし。　**時期**：埋土の状況から平安末から中世とみられる。

W－21 号溝跡　（第５・６・10 図、ＰＬ．２）

位置：８区と 12 区で検出された。　**重複**：Ｗ－９号溝に切られている。　**規模・形態**：12 区の部分では数条の重複があるとみられる。上幅は 2.86 ｍ、深さは 30cm ほどで、皿状の断面形を呈する。　**埋没状態**：全体的にＢ軽石を多く含む埋土である。　**遺物**：なし。　**時期**：埋土の状況から中世とみられる。

W－22 溝跡　（第５・６・10 図、ＰＬ．２・６）

位置：８区と 12 区で検出された。　**重複**：Ｗ－９号溝に切られ、８区ではＷ－23 ｄ号溝に切られている。　**規模・形態**：上幅 2.6 ｍ・深さ 72cm で、断面は逆台形である。　**埋没状態**：埋土の下部には流砂層が何層か認められ、水路であったとみられる。Ｂ軽石をわずかに含む。　**遺物**：なし。　**時期**：中世以後とみられる。

W－23 号溝跡　（第５・６・10 図、ＰＬ．２・６）

位置：７・12 区と８区で検出された。　**重複**：数条の溝が重複しており、８区では 23 ｄ号がＷ－22 号溝を切っている。23 ｇ号は７区でＷ－25 号・28 号・29 号溝を切っている。　**規模・形態**：23 ｄ号は上幅 1.2 ｍ・深さ 1

mほどで、断面形はU字状を呈する。23 e 号は上幅 1.3 m・深さ 50cm ほどで、断面は幅広のU字状である。23 f 号は上幅 2.12 m・深さ 98cm で、断面はU字状に近い形である。23 g 号は上幅 2.1 m以上、深さは 80cm 以上の規模で、断面形は皿状とみられる。　**埋没状態**：いずれも埋土に少量のB軽石を含む。23 d 号・23 e 号は下部に流砂層が数層認められ、水路の機能があったとみられる。23 f 号については８区では検出されず、その規模や形態からみてW -27 号溝と関連する環濠屋敷跡の西辺部である可能性が強い。　**遺物**：７区の 23 g 号から、軟質陶器鉢の小片（第 24 図－８）、丸瓦片（第 25 図－９）のほか、混入とみられる須恵器小片などが出土している。**時期**：埋土の状況からいずれも中世以後である。

W -24 号溝跡　（第６・11 図、ＰＬ．２・６）

位置：７区の南端付近で検出された。　**重複**：W -26 号溝を切っている。　**規模・形態**：Ｌ字形に、東から南方向にほぼ直角に屈曲しており、走向も直線的である。上幅 72cm・深さ 22cm で、断面形はU字状である。走行位置から、W -27 号溝と関連する可能性がある。　**埋没状態**：洪水層に似た埋土で、B軽石を含む。　**遺物**：なし。**時期**：埋土の状況から中世以後とみられる。

W -25 号溝跡　（第６・11 図、ＰＬ．２・６）

位置：７区の南端付近で検出された。　**重複**：W -23 g 号溝に切られている。　**規模・形態**：南北方向に直線的に 13 mほどの長さまで検出された。上幅 74cm・深さ 20cm ほどで、断面形はU字状を呈する。　**埋没状態**：下部には流砂層が見られ、水路であったと考えられる。上部には多量のB軽石が混入していた。　**遺物**：なし。**時期**：埋土の状況から平安末から中世にかけてとみられる。

W -26 号溝跡　（第５・６・11・20 図、ＰＬ．２・６・７・９・15）

位置：７区で検出された。　**重複**：W -24 号・27 号・28 号・30 号・31 号・32 号溝に切られており、32 号溝とは全体的に重複している。　**規模・形態**：７区内を蛇行気味に北から南へ約 100 mの長さで縦断している。上幅は 1.35 m以上、深さ 30cm ほどの規模で、皿状の断面形を呈する。　**埋没状態**：Ａｓ－Ｂの降下で直接埋没している。　**遺物**：混入とみられる土師器坏の破片（第 25 図－ 10）や須恵器の小片、土錘の破片（第 25 図－ 11）が少量出土している。　**時期**：平安時代末期の溝である。

W -27 号溝跡　（第６・14・17 図、ＰＬ．２・９・12）

位置：７区南側で検出された。延長部がＨｒ－ＦＡ層下調査面の５・６区で検出されており併せて後に記す。

W -28 号溝跡　（第６・11 図、ＰＬ．２・７）

位置：７区南側で検出された。　**重複**：W -26 号・29 号溝に切られている。　**規模・形態**：東西方向に走り、上幅 1.4 m・深さ 53cm で、断面形は逆台形である。　**埋没状態**：埋土の上部にはA軽石をわずかに含む。　**遺物**：土師器小片が数点出土している。　**時期**：埋土の状況から近世以後とみられる。

W -29 号溝跡　（第６・11 図、ＰＬ．２・７）

位置：７区南側で検出された。　**重複**：W -23 g 号・27 号・28 号溝に切られている。　**規模・形態**：南北方向に走るが北端は西方へ大きく屈曲している。上幅 50cm・深さ 20cm ほどで、断面形はU字状である。　**埋没状態**：大半がB混土層で埋没している。　**遺物**：なし。　**時期**：平安末から中世とみられる。

W－30 号溝跡　（第５・12・14・19 図、ＰＬ．２・９・７）

位置：７区北半部から３区南西隅、さらにＨｒ－ＦＡ層下調査面の５区にかけて約57ｍの間で検出された。　**重複**：W－26 号・31 号・32 号溝を切っている。　**規模・形態**：北西から南東方向に走るが、７区から３区にかけての付近では大きく屈曲している。上幅 2.08 ｍ・深さ 64cm ほどで、断面形は大きくは皿状であるが、底面の中央が一段深くなっている。　**埋没状態**：埋土中にＢ軽石をわずかに含んでいる。　**遺物**：３区と５区で土師器・陶器の小片が１点ずつ出土している。　**時期**：埋土の状況から中世以後とみられる。

W－31 号溝跡　（第５・12 図、ＰＬ．２・７）

位置：７区北半部で検出された。　**重複**：W－26 号・32 号溝を切り、W－30 号溝に切られている。　**規模・形態**：西側では２条の重複が見られる。31 ａ号は上幅 78cm・深さ 30cm で、断面形はＵ字状、31 ｂ号は上幅 2.5 ｍ・深さ 44cm ほどで、皿状の断面形である。　**埋没状態**：31 ａ号は埋土中にＡ軽石を含んでいる。31 ｂ号は下部に流砂層がみられ、水路であったとみられる。上部にはＢ軽石を多く含んでいる。　**遺物**：なし。　**時期**：埋土の状況から、31 ａ号は近世以後、31 ｂ号は中世とみられる。

W－32 号溝跡　（第５・６・11 図、ＰＬ．２・６・７）

位置：７区で、W－26 号溝に沿って検出された。　**重複**：大部分でW－26 号溝を切っている。W－27 号・28 号・30 号・31 ｂ号溝には切られている。　**規模・形態**：やや屈曲しながら、北から南へ走る。上幅 1.27 ｍ・深さ 46cm ほどで、断面形は皿状を呈する。　**埋没状態**：埋土下部に流砂層がみられ、水路である。埋土にはＢ軽石を少量含んでいる。　**遺物**：混入とみられる土師器坏の破片（第 25 図－ 14）のほか、土師器・須恵器の小片が１点ずつ出土している。　**時期**：埋土の状況から中世以後とみられる。

W－33 号溝跡　（第５・12 図、ＰＬ．１・７）

位置：３区中央付近で検出された。　**重複**：なし。　**規模・形態**：ほぼ東西方向の直線的な走向である。上幅 94cm・深さ 34cm ほどの規模で、断面形は箱型を呈する。　**埋没状態**：埋土の上部にはＢ軽石が多量に入り、下部はⅨ層のブロック土とＢ軽石が混じっており、人為的に埋め戻された状況であった。　**遺物**：なし。　**時期**：埋土の状況から中世とみられ、W－35 号溝との関係が考えられる。

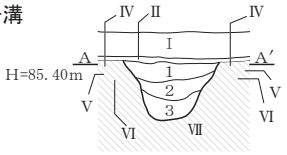
W－34 号溝跡　（第６・12 図、ＰＬ．１）

位置：６区南側で検出された。Ｈｒ－ＦＡ調査面で検出されたW－60 号溝に連続するとみられる。　**重複**：なし。**規模・形態**：鍵の手状に屈曲しつつ東西方向に走る。上幅 79cm・深さ 22cm の規模で、断面形は皿状である。**埋没状態**：埋土全体にＢ軽石が見られる。　**遺物**：なし。　**時期**：埋土から中世とみられる。

W－35 号溝跡　（第６・12・14・20 図、ＰＬ．７）

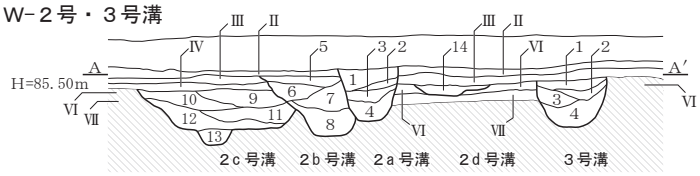
位置：６区南側から、延長部が５区Ｈｒ－ＦＡ層調査面にかけて検出された。　**重複**：６区では 35 ｂ号が重複していた。**規模・形態**：35 ａ号は、西から東方向に直線的に走り、15 ｍの長さまで検出された。上幅が 1.14 ｍ・深さ 30cm、断面形はＵ字状である。35 ｂ号は上幅 58cm・深さは 16cm ほどであった。　**埋没状態**：35 ａ号は上部はＢ軽石を多く含む埋土で、下部はＦＡ層のブロックが多量に入り人為的に埋め戻された状況が見られた。**遺物**：なし。　**時期**：35 ａ号・31 ｂ号とも、埋土の状況から中世とみられる。

W－１号溝

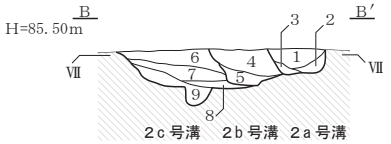


W－１号溝
1　灰黄褐色土　Ａｓ－Ｂφ0.2cm 少量、Ａｓ－Ａφ0.2cm 微量含む。鉄分少量沈着。
2　灰黄褐色土　Ａｓ－Ｂφ0.2cm 少量含む。鉄分少量沈着。
3　灰褐色土　Ａｓ－Ｂφ0.2cm 中量含む。鉄分少量沈着。

W－２号・３号溝



W－２号溝



W－２号溝（A－A′）

2ａ号	1	灰黄褐色土	Ａｓ－Ａφ0.2㎝・Ａｓ－Ｂφ0.2㎝少量、Ｈｒ－ＦＡ軽石φ0.5㎝微量含む。鉄分沈着。
	2	にぶい黄褐色土	Ａｓ－Ｂφ0.2㎝少量、Ａｓ－Ａφ0.2㎝微量含む。
	3	灰黄褐色土	Ａｓ－Ｂφ0.2㎝中量含む。鉄分沈着少量。
	4	灰褐色土	Ａｓ－Ｂφ0.2㎝中量含む。鉄分沈着少量。
2ｂ号	5	灰黄褐色土	Ａｓ－Ａφ0.2㎝・Ａｓ－Ｂφ0.2㎝少量、Ｈｒ－ＦＡ軽石φ0.5㎝・炭化粒・焼土微量含む。
	6	にぶい黄褐色土	Ａｓ－Ｂφ0.2㎝中量、Ａｓ－Ａφ0.2㎝微量含む。鉄分沈着。
	7	灰褐色土	Ａｓ－Ｂφ0.2㎝中量、Ａｓ－Ａφ0.2㎝微量含む。鉄分沈着。
	8	灰褐色土	Ａｓ－Ｂφ0.2㎝中量、Ｈｒ－ＦＡ軽石φ0.2㎝・Ａｓ－Ｃφ0.2㎝微量含む。鉄分沈着。
2ｃ号	9	灰褐色土	Ａｓ－Ｂφ0.2㎝少量、Ｈｒ－ＦＡ軽石φ0.2㎝微量含む。鉄分沈着多量。
	10	灰褐色土	Ａｓ－Ｂφ0.2㎝中量、Ｈｒ－ＦＡ軽石φ0.2～0.5㎝少量、炭化粒微量含む。鉄分沈着多量。
	11	灰褐色土	Ａｓ－Ｂφ0.2㎝中量、Ｈｒ－ＦＡ軽石φ0.2㎝微量含む。鉄分沈着。
	12	灰褐色土	Ａｓ－Ｂφ0.2㎝少量、Ｈｒ－ＦＡ軽石φ0.5㎝微量含む。鉄分沈着。
	13	灰黄褐色土	Ａｓ－Ｂφ0.2㎝多量含む。
2ｄ号	14	にぶい黄褐色土	Ａｓ－Ｂφ0.2㎝中量、Ｈｒ－ＦＡ軽石φ0.5㎝微量含む。

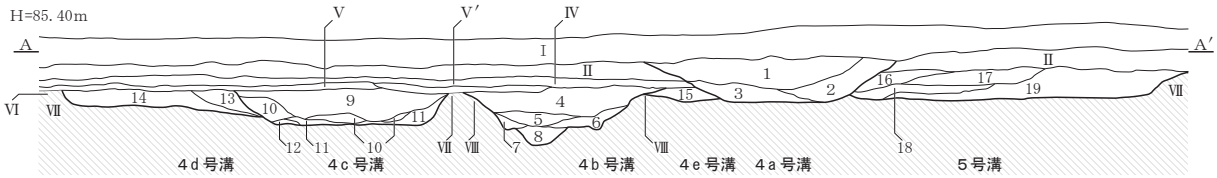
W－２号溝（B－B′）

2ａ	1	灰褐色土	Ａｓ－Ｂφ0.2cm 中量、Ｈｒ－ＦＡ軽石φ0.5cm 微量含む。鉄分沈着。
	2	灰褐色土	Ａｓ－Ｂφ0.2cm 中量、Ｈｒ－ＦＡ軽石φ0.5cm 少量、Ａｓ－Ｃφ0.2cm 微量含む。
	3	灰褐色土	Ａｓ－Ｂφ0.2cm 多量、Ｈｒ－ＦＡ軽石φ0.2cm・Ａｓ－Ｃ0.2cm 微量含む。鉄分の沈着少量。
2ｂ	4	灰褐色土	Ａｓ－Ｂφ0.2cm 中量、Ｈｒ－ＦＡ軽石φ0.5cm・Ｈｒ－ＦＡ洪水土少量含む。鉄分の沈着少量。
	5	灰褐色土	Ａｓ－Ｂφ0.2cm 多量、Ｈｒ－ＦＡ洪水土・Ａｓ－Ｃφ0.2cm 少量、Ｈｒ－ＦＡ軽石φ0.2cm 微量含む。鉄分沈着少量。
2ｃ	6	灰褐色土	Ａｓ－Ｂφ0.2cm 中量、Ｈｒ－ＦＡ軽石φ0.2cm 微量含む。鉄分沈着。
	7	灰褐色土	Ａｓ－Ｂφ0.2cm 中量、Ｈｒ－ＦＡ軽石φ0.2cm・Ａｓ－Ｃφ0.2cm 微量含む。鉄分沈着。
	8	灰褐色土	Ａｓ－Ｂφ0.2cm 多量、Ａｓ－Ｃφ0.2cm 微量含む。鉄分の沈着少量。
	9	暗灰色土	Ａｓ－Ｂφ0.2cm 多量、Ｈｒ－ＦＡ洪水土少量、Ｈｒ－ＦＡ軽石φ0.2cm・Ａｓ－Ｃφ0.2cm 微量含む。鉄分の沈着少量。

W－３号溝

1	灰黄褐色土	Ａｓ－Ｂφ0.2㎝少量、Ａｓ－Ａφ0.2㎝微量含む。
2	灰黄褐色土	Ａｓ－Ｂφ0.2㎝少量、Ａｓ－Ａφ0.2㎝・Ｈｒ－ＦＡ軽石φ0.5㎝微量含む。鉄分の沈着少量。
3	にぶい黄褐色土	Ａｓ－Ｂφ0.2㎝少量含む。鉄分の沈着多量。
4	灰褐色土	Ａｓ－Ｂφ0.2㎝中量、Ｈｒ－ＦＡ軽石φ0.5㎝微量含む。

W－４号・５号溝



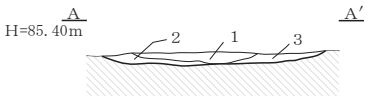
W－４号溝

4ａ号	1	灰黄褐色土	Ａｓ-Ａφ0.2cm・Ａｓ-Ｂφ0.2cm 少量、炭化粒微量含む。
	2	暗灰色土	Ａｓ-Ｂφ0.2cm 少量、Ａｓ-Ａφ0.2cm・Ｈｒ-ＦＡ軽石φ0.5cm 微量含む。
	3	暗灰色土	Ａｓ-Ｂφ0.2cm 中量、Ａｓ-Ａφ0.2cm 微量含む。鉄分沈着少量。
4ｂ号	4	灰黄褐色土	Ａｓ-Ｂφ0.2cm 多量、Ａｓ-Ａφ0.2cm・Ｈｒ-ＦＡ軽石φ1.0cm 微量含む。鉄分沈着。
	5	灰褐色土	Ａｓ-Ｂφ0.2cm 多量、Ａｓ-Ａφ0.2cm・Ｈｒ-ＦＡ軽石φ0.2cm 微量含む。鉄分沈着少量。
	6	暗灰色土	Ａｓ-Ｂφ0.2cm 多量、Ｈｒ-ＦＡ軽石φ0.2cm 微量含む。鉄分沈着少量。
	7	暗灰色土	Ａｓ-Ｂφ0.2cm 多量含む。鉄分沈着少量。
	8	暗灰色土	Ａｓ-Ｂφ0.2cm 中量、Ｈｒ-ＦＡ軽石φ0.2cm・Ａｓ-Ｃφ0.2cm 微量含む。鉄分沈着少量。
4ｃ号	9	灰黄褐色土	Ａｓ-Ｂφ0.2cm 多量、Ａｓ-Ａφ0.2cm 微量含む。鉄分沈着。
	10	灰黄褐色土	Ａｓ-Ｂφ0.2cm 中量含む。鉄分沈着少量。
	11	暗灰色土	Ａｓ-Ｂφ0.2cm 中量含む。
	12	暗灰色土	Ａｓ-Ｂφ0.2cm・Ｈｒ-ＦＡ洪水土多量含む。
4ｄ号	13	灰黄褐色土	Ａｓ-Ｂφ0.2cm 多量、Ａｓ-Ａφ0.2cm 微量含む。鉄分沈着少量。
	14	灰黄褐色土	Ａｓ-Ｂφ0.2cm 多量、Ｈｒ-ＦＡ洪水土ブロックφ0.5～5.0cm 少量含む。鉄分沈着少量。
4ｅ号	15	灰黄褐色土	Ａｓ-Ｂφ0.2cm 中量、Ｈｒ-ＦＡ軽石φ0.5cm 微量含む。鉄分沈着。

W－５号溝

16	灰黄褐色土	Ａｓ-Ｂφ0.2cm・Ａｓ-Ａφ0.2cm 少量含む。鉄分沈着。
17	灰黄褐色土	Ａｓ-Ｂφ0.2cm 多量、Ａｓ-Ａφ0.2cm 微量含む。鉄分沈着。
18	灰黄褐色土	Ａｓ-Ｂφ0.2cm 少量含む。鉄分の少量見。
19	灰黄褐色土	Ａｓ-Ｂφ0.2cm 中量、Ａｓ-Ａφ0.2cm 微量含む。鉄分沈着少量。
Ｖ′	暗褐色土	Ａｓ-Ｂφ0.2cm 中量含む。鉄分沈着少量。

W－５号溝

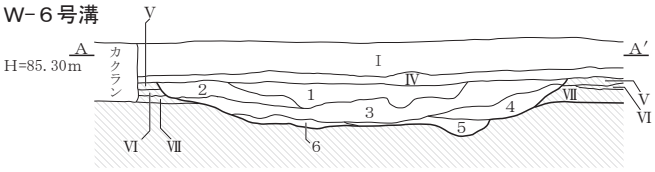


W－５号溝
1　灰黄褐色土　Ａｓ-Ｂφ0.2cm 中量、Ａｓ-Ａφ0.2cm 少量含む。鉄分沈着。
2　灰黄褐色土　Ａｓ-Ｂφ0.2cm 中量、Ａｓ-Ａφ0.2cm 微量含む。鉄分少量沈着。
3　暗灰色土　Ａｓ-Ｂφ0.2cm 少量、Ａｓ-Ａφ0.2cm 微量含む。鉄分少量沈着。

0　1　2m
1:60

第８図　Ｗ－１号～５号溝跡

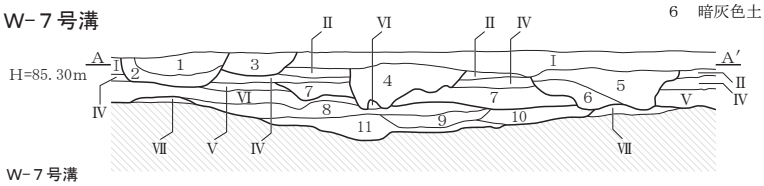
W-６号溝



W-６号溝

1　灰褐色土　Ａｓ-Ｂφ0.2㎝中量、Ａｓ-Ｃφ0.2㎝少量含む。鉄分沈着。
2　灰褐色土　Ａｓ-Ｂφ0.2㎝中量、Ａｓ-Ｃφ0.2㎝少量、Ｈｒ-ＦＡ軽石φ0.2㎝微量含む。鉄分沈着。
3　灰黄褐色土　Ａｓ-Ｂφ0.2㎝中量、Ａｓ-Ｃφ0.2㎝少量含む。鉄分沈着。
4　灰黄褐色土　Ａｓ-Ｂφ0.2㎝中量、Ａｓ-Ｃφ0.2㎝少量、Ｈｒ-ＦＡ洪水土ブロックφ0.5㎝微量含む。鉄分沈着少量。
5　暗灰色土　Ａｓ-Ｂφ0.2㎝多量、Ｈｒ-ＦＡ軽石φ0.2㎝微量含む。
6　暗灰色土　Ａｓ-Ｂφ0.2㎝中量、Ｈｒ-ＦＡ洪水土・Ａｓ-Ｃφ0.2㎝少量含む。

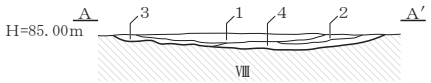
W-７号溝



W-７号溝

カクラン 1　にぶい黄褐色土　Ａｓ-Ｂφ0.2㎝・Ｈｒ-ＦＡ軽石φ0.2㎝少量含む。
2　灰褐色土　Ａｓ-Ｂφ0.2㎝中量、Ａｓ-Ａφ0.2㎝少量含む。鉄分沈着。
3　灰褐色土　Ａｓ-Ｂφ0.2㎝・Ｈｒ-ＦＡ洪水土少量、Ａｓ-Ａφ0.2㎝微量含む。
4　灰褐色土　Ａｓ-Ｂφ0.2㎝中量、Ｈｒ-ＦＡ軽石φ0.5㎝・Ｈｒ-ＦＡ洪水土・Ａｓ-Ｃφ0.2㎝少量含む。
5　にぶい黄褐色土　Ａｓ-Ｂφ0.2㎝中量、Ａｓ-Ａφ0.2㎝少量含む。
6　暗灰色土　Ａｓ-Ｂφ0.2㎝多量、Ａｓ-Ａφ0.2㎝微量含む。
7　灰褐色土　Ａｓ-Ｂφ0.2㎝多量含む。鉄分沈着。
8　灰褐色土　Ａｓ-Ｂφ0.2㎝多量、Ｈｒ-ＦＡ軽石φ0.5㎝微量含む。鉄分沈着少量。
9　灰褐色土　Ａｓ-Ｂφ0.2㎝中量、Ｈｒ-ＦＡ洪水土少量含む。鉄分沈着少量。
10　暗灰色土　Ａｓ-Ｂφ0.2㎝中量、Ｈｒ-ＦＡ洪水土少量含む。鉄分沈着少量。
11　暗灰色土　Ａｓ-Ｂφ0.2㎝中量、Ｈｒ-ＦＡ洪水土少量、Ｈｒ-ＦＡ軽石φ0.5㎝・Ａｓ-Ｃφ0.2㎝微量含む。鉄分沈着。

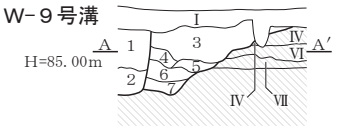
W-８号溝



W-８号溝

1　灰褐色土　Ａｓ-Ｂφ0.2㎝多量、Ｈｒ-ＦＡ軽石φ0.2㎝微量含む。鉄分沈着。
2　暗灰色土　Ａｓ-Ｂφ0.2㎝多量、Ｈｒ-ＦＡ洪水土少量含む。鉄分沈着少量。
3　暗灰色土　Ａｓ-Ｂφ0.2㎝中量、Ａｓ-Ｃφ0.2㎝少量、Ｈｒ-ＦＡ軽石φ0.2㎝微量含む。鉄分沈着少量。
4　灰黄褐色土　Ａｓ-Ｂφ0.2㎝中量、Ｈｒ-ＦＡ軽石φ0.2㎝微量含む。鉄分沈着少量。

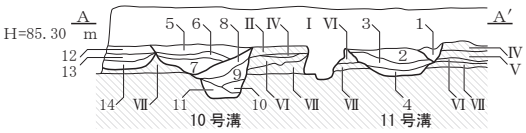
W-９号溝



W-９号溝

9a号 1　灰黄褐色土　Ａｓ-Ｂφ0.2㎝・Ｈｒ-ＦＡ洪水土中量、Ｈｒ-ＦＡ軽石φ0.2㎝微量含む。
2　暗褐色土　Ｈｒ-ＦＡ洪水土中量、Ａｓ-Ｂφ0.2㎝微量含む。
9b号 3　灰黄褐色土　Ａｓ-Ｂφ0.2㎝・Ｈｒ-ＦＡ洪水土中量含む。
4　黄褐色土　Ｈｒ-ＦＡ洪水土多量、Ａｓ-Ｂφ0.2㎝少量、Ｈｒ-ＦＡ軽石φ0.2㎝微量含む。
5　黄褐色土　Ａｓ-Ｂφ0.2㎝・Ｈｒ-ＦＡ洪水土中量含む。鉄分沈着。
6　灰黄褐色土　Ａｓ-Ｂφ0.2㎝少量含む。鉄分沈着。
7　暗灰褐色土　Ａｓ-Ｂφ0.2㎝少量含む。鉄分沈着少量。

W-10 号・11 号溝



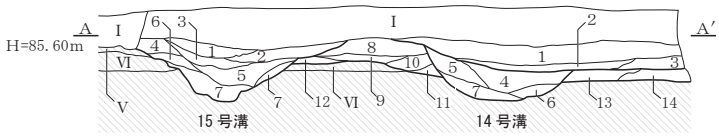
W-10 号溝

10a号 5　灰褐色土　Ａｓ-Ｂφ0.2㎝中量、Ａｓ-Ａφ0.2㎝・Ｈｒ-ＦＡ軽石φ0.2㎝微量含む。鉄分沈着。
6　灰黄褐色土　Ａｓ-Ｂφ0.2㎝中量含む。鉄分沈着。
7　灰褐色土　Ａｓ-Ｂφ0.2㎝中量、Ｈｒ-ＦＡ軽石φ0.2㎝微量含む。鉄分沈着少量。
10c号 8　灰褐色土　Ａｓ-Ｂφ0.2㎝少量含む。
9　灰褐色土　Ａｓ-Ｂφ0.2㎝中量、Ａｓ-Ａφ0.2㎝微量含む。鉄分沈着。
10　暗灰色土　Ａｓ-Ｂφ0.2㎝多量含む。粘性やや弱。鉄分沈着。
11　暗灰色土　Ａｓ-Ｂφ0.2㎝多量、Ａｓ-Ｃφ0.2㎝微量含む。
10b号 12　灰褐色土　Ａｓ-Ｂφ0.2㎝少量含む。鉄分沈着少量。
13　灰褐色土　Ａｓ-Ｂφ0.2㎝中量含む。鉄分沈着少量。
14　暗褐色土　Ａｓ-Ｂφ0.2㎝多量含む。※Ⅵ層とほぼ同じ。

W-11 号溝

1　灰黄褐色土　Ａｓ-Ａφ0.2㎝・Ａｓ-Ｂφ0.2㎝少量含む。鉄分沈着。
2　灰黄褐色土　Ａｓ-Ｂφ0.2㎝中量、Ａｓ-Ａφ0.2㎝少量含む。鉄分沈着。
3　灰褐色土　Ａｓ-Ｂφ0.2㎝中量含む。鉄分沈着少量。
4　灰褐色土　Ａｓ-Ｂφ0.2㎝中量含む。　鉄分沈着。

W-14 号・15 号溝



W-14 号溝

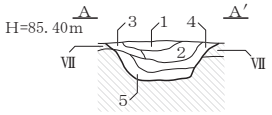
14a号 1　灰褐色土　Ａｓ－Ｂφ0.2㎝中量、Ａｓ－Ａφ0.2㎝・Ｈｒ－ＦＡφ0.5㎝微量含む。鉄分沈着。
2　灰褐色土　Ａｓ－Ｂφ0.2㎝多量、Ａｓ－Ａφ0.2㎝少量、Ｈｒ－ＦＡφ0.5㎝微量含む。鉄分沈着。
3　灰褐色土　Ａｓ－Ｂφ0.2㎝中量、Ａｓ－Ａφ0.2㎝少量含む。鉄分沈着。
14b号 4　灰黄褐色土　Ａｓ－Ｂφ0.2㎝・Ｈｒ－ＦＡ洪水土少量、Ａｓ－Ａφ0.2㎝・炭化粒微量含む。鉄分沈着。
5　灰黄褐色土　Ａｓ－Ｂφ0.2㎝中量、Ａｓ－Ａφ0.2㎝・Ｈｒ－ＦＡφ0.2㎝・炭化粒微量含む。鉄分沈着。
6　暗灰色土　Ａｓ－Ｂφ0.2㎝・Ｈｒ－ＦＡ洪水土中量、炭化粒少量、Ａｓ－Ａφ0.2㎝微量含む。粘性あり。鉄分沈着。
7　暗灰色土　Ａｓ－Ｂφ0.2㎝・Ｈｒ－ＦＡ洪水土中量、Ａｓ－Ａφ0.2㎝微量含む。粘性あり。鉄分沈着。
14c号 8　黒褐色土　Ａｓ－Ｂφ0.2㎝多量、Ｈｒ－ＦＡ洪水土少量、Ｈｒ－ＦＡφ0.5㎝微量含む。粘性やや弱。盛土。
9　灰褐色土　Ａｓ－Ｂφ0.2㎝中量含む。粘性やや弱。鉄分沈着少量。盛土？
10　灰黄褐色土　Ａｓ－Ｂφ0.2㎝中量含む。粘性やや弱。鉄分沈着。盛土？
11　灰褐色土　Ａｓ－Ｂφ0.2㎝少量含む。粘性ややあり。鉄分沈着。盛土？
12　灰黄褐色土　Ａｓ－Ｂφ0.2㎝中量含む。粘性やや弱。鉄分沈着。盛土？
13　灰褐色土　Ａｓ－Ｂφ0.2㎝中量、Ｈｒ－ＦＡφ0.2㎝微量含む。鉄分沈着。
14　灰褐色土　Ａｓ－Ｂφ0.2㎝中量、Ｈｒ－ＦＡ洪水土・Ｈｒ－ＦＡφ0.2㎝微量含む。鉄分沈着少量。

W-15 号溝

1　灰褐色土　Ａｓ－Ａφ0.2㎝中量、Ａｓ－Ｂφ0.2㎝少量含む。粘性やや弱。鉄分沈着。
2　灰褐色土　Ａｓ－Ａφ0.2㎝・Ａｓ－Ｂφ0.2㎝少量、炭化粒微量含む。鉄分沈着。
3　灰褐色土　Ａｓ－Ａφ0.2㎝・Ａｓ－Ｂφ0.2㎝少量含む。鉄分沈着少量。
4　灰褐色土　Ａｓ－Ａφ0.2㎝・Ａｓ－Ｂφ0.2㎝・Ｈｒ－ＦＡ洪水土少量含む。鉄分沈着少量。
5　灰褐色土　Ａｓ－Ｂφ0.2㎝中量、Ａｓ－Ａφ0.2㎝少量、Ｈｒ－ＦＡφ0.5㎝微量含む。鉄分沈着少量。
6　暗灰色土　Ａｓ－Ｂφ0.2㎝少量、Ａｓ－Ａφ0.2㎝・炭化粒微量含む。
7　暗灰色土　Ａｓ－Ｂφ0.2㎝中量、Ｈｒ－ＦＡ洪水土少量、Ａｓ－Ａφ0.2㎝微量含む。鉄分沈着少量。
8　暗灰色土　Ａｓ－Ｂφ0.2㎝少量、Ａｓ－Ａφ0.2㎝微量含む。鉄分沈着少量。

第９図　Ｗ－６号～11号、14号・15号溝跡

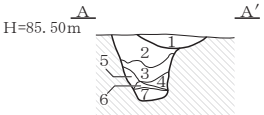
W-12 号溝



W-12 号溝

1　灰褐色土　Ａｓ－Ｂφ0.2cm 中量、Ｈｒ－ＦＡ洪水土少量含む。粘性やや弱。
2　灰褐色土　Ａｓ－Ｂφ0.2cm 少量、Ｈｒ－ＦＡ軽石φ0.2cm 微量含む。
3　灰褐色土　Ａｓ－Ｂφ0.2cm・Ｈｒ－ＦＡ洪水土中量含む。
4　暗灰色土　Ａｓ－Ｂφ0.2cm 多量、Ｈｒ－ＦＡ洪水土少量含む。粘性やや弱。
5　暗灰色土　Ａｓ－Ｂφ0.2cm 多量、Ｈｒ－ＦＡ洪水土中量含む。粘性やや弱。

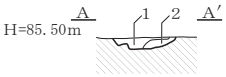
W-16 号溝



W-16 号溝

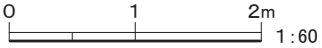
1　灰黄褐色土　Ａｓ－Ａφ0.2㎝中量、Ａｓ－Ｂφ0.2㎝少量、Ｈｒ－ＦＡ洪水土微量含む。
2　灰黄褐色土　Ａｓ－Ａφ0.2㎝中量、Ａｓ－Ｂφ0.2㎝・Ｈｒ－ＦＡ洪水土・黒褐色粘質土含む。
3　灰褐色土　Ａｓ－Ｂφ0.2㎝中量、Ｈｒ－ＦＡ洪水土微量含む。
4　暗灰色土　Ａｓ－Ｂφ0.2㎝中量含む。粘性やや弱。
5　にぶい黄褐色土　Ｈｒ－ＦＡ洪水土多量、Ａｓ－Ｂφ0.2㎝少量、Ｈｒ－ＦＡφφ0.2㎝微量含む。
6　灰黄褐色土　Ａｓ－Ｂφ0.2㎝・Ｈｒ－ＦＡ洪水土少量含む。
7　黒褐色土　黒色粘質土多量、Ｈｒ－ＦＡ洪水土中量、Ａｓ－Ｂφ0.2㎝・Ａｓ－Ｃφ0.2㎝少量、Ｈｒ－ＦＡφ0.2㎝微量含む。粘性あり。

W-17 号溝

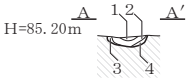


W-17 号溝

1　灰黄褐色土　Ａｓ－Ｂφ0.2㎝少量、Ｈｒ－ＦＡφ0.2㎝微量含む。
2　灰黄褐色土　Ａｓ－Ｂφ0.2㎝中量、炭化粒微量含む。



W-19 号溝



W-19 号・20 号溝

W-19 号溝（A-A′）

1　灰褐色土　Ａｓ－Ｂφ0.2cm 中量含む。鉄分沈着。
2　灰褐色土　Ａｓ－Ｂφ0.2cm 中量、炭化粒微量含む。鉄分沈着。
3　暗灰色土　Ａｓ－Ｂφ0.2cm 少量、Ｈｒ－ＦＡ軽石φ0.2cm 微量含む。粘性あり。
4　暗灰色土　Ａｓ－Ｂφ0.2cm 多量含む。しまり弱。粘性弱。掘削時の崩落土。

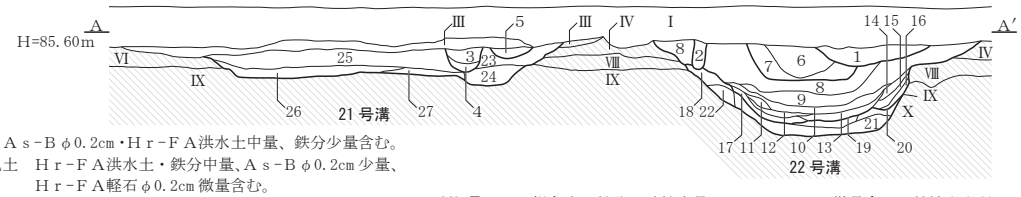
W-19 号溝（B-B′）

1　暗灰色土　Ａｓ－Ｂφ0.2cm 中量、Ｈｒ－ＦＡφ0.2cm 微量含む。鉄分の沈着顕著。
2　暗灰色土　Ａｓ－Ｂφ0.2cm 中量含む。鉄分沈着。
3　灰褐色土　Ａｓ－Ｂφ0.2cm 中量含む。鉄分沈着少量。
4　灰黄褐色土　Ｈｒ－ＦＡ洪水土中量、Ａｓ－Ｂφ0.2cm 少量、Ｈｒ－ＦＡ軽石φ0.2cm 微量含む。粘性あり。鉄分沈着。

W-20 号溝

5　灰黄褐色土　Ａｓ－Ｂφ0.2cm 中量、Ｈｒ－ＦＡ洪水土少量、Ｈｒ－ＦＡ軽石φ0.2cm 微量含む。鉄分沈着。
6　暗灰色土　Ａｓ－Ｂφ0.2cm 中量、Ｈｒ－ＦＡ洪水土・Ｈｒ－ＦＡ軽石φ0.5cm 微量含む。

W-21 号・22 号溝



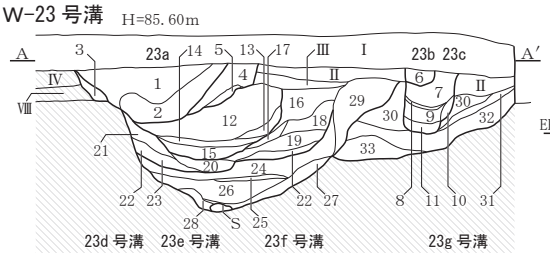
W-21 号溝

21a 号　3　灰黄褐色土　Ａｓ－Ｂφ0.2cm・Ｈｒ－ＦＡ洪水土中量、鉄分少量含む。
　　4　にぶい黄褐色土　Ｈｒ－ＦＡ洪水土・鉄分中量、Ａｓ－Ｂφ0.2cm 少量、Ｈｒ－ＦＡ軽石φ0.2cm 微量含む。
21b 号　5　灰黄褐色土　Ａｓ－Ｂφ0.2cm・鉄分中量、Ａｓ－Ａφ0.2cm・Ｈｒ－ＦＡ洪水土微量含む。
21c 号　23　灰黄褐色土　Ｈｒ－ＦＡ洪水土中量、Ａｓ－Ｂφ0.2cm 少量、Ｈｒ－ＦＡ軽石φ0.5cm 微量含む。
　　24　灰黄褐色土　Ａｓ－Ｂφ0.2cm・Ｈｒ－ＦＡ洪水土少量、Ｈｒ－ＦＡ軽石φ0.2cm 微量含む。粘性あり。
21d 号　25　灰黄褐色土　Ａｓ－Ｂφ0.2cm・Ｈｒ－ＦＡ軽石φ0.5cm・Ｈｒ－ＦＡ洪水土少量含む。粘性あり。
　　26　暗灰色土　Ｈｒ－ＦＡ洪水土中量、Ａｓ－Ｂφ0.2cm・Ｈｒ－ＦＡ軽石φ0.5cm 少量含む。粘性あり。
　　27　暗灰色土　Ａｓ－Ｂφ0.2cm・Ｈｒ－ＦＡ洪水土・黒色粘質土少量、Ｈｒ－ＦＡ軽石φ0.2cm 微量含む。粘性あり。

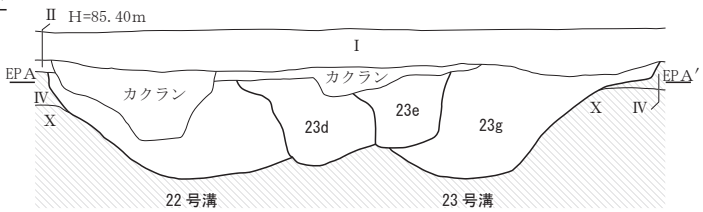
W-22 号溝

22a 号　1　暗褐色土　Ｈｒ－ＦＡ洪水土中量、Ｈｒ－ＦＡ軽石φ0.5cm 少量、Ａｓ－Ｂφ0.2cm・Ａｓ－Ｃφ0.2cm 微量含む。
22b 号　6　灰褐色土　鉄分・砂粒中量、Ａｓ－Ｂφ0.2cm 少量含む。粘性やや弱。
22b 号　7　灰褐色土　鉄分・砂粒中量、Ａｓ－Ｂφ0.2cm 微量含む。粘性やや弱。
22c 号　8　灰褐色土　鉄分中量、砂粒少量、Ａｓ－Ｂφ0.2cm 微量含む。
　　9　暗灰色土　鉄分中量、砂粒少量、Ａｓ－Ｂφ0.2cm 微量含む。
　　10　暗灰色土　鉄分・砂粒中量、黒色粘質土少量、Ａｓ－Ｂφ0.2cm 微量含む。
　　11　灰黄褐色土　砂粒多量、鉄分少量含む。粘性弱。
　　12　暗灰色土　砂粒中量、鉄分・黒色粘質土少量含む。
　　13　暗灰色土　Ｈｒ－ＦＡ洪水土・鉄分・砂粒・黒色粘質土少量含む。
　　14　灰褐色土　鉄分多量、砂粒中量含む。粘性弱。
　　15　灰褐色土　鉄分多量、砂粒中量、黒色粘性土少量、Ａｓ－Ｂφ0.2cm 微量含む。
　　16　灰褐色土　鉄分・砂粒中量含む。粘性弱。
　　17　暗灰色土　鉄分・砂粒少量含む。
　　19　灰褐色土　砂粒多量、鉄分中量、Ａｓ－Ｂφ0.2cm 少量含む。粘性弱。
　　20　暗灰色土　鉄分・砂粒中量、Ｈｒ－ＦＡ洪水土少量含む。
　　21　灰褐色土　Ｈｒ－ＦＡ洪水土・鉄分・砂粒・黒色粘質土少量含む。
22d 号　18　灰褐色土　Ａｓ－Ｂφ0.2cm・Ｈｒ－ＦＡ洪水土・砂粒・黒色粘質土少量含む。
　　22　暗灰色土　Ａｓ－Ｂφ0.2cm・Ｈｒ－ＦＡ洪水土少量、Ｈｒ－ＦＡ軽石φ0.2cm・Ａｓ－Ｃφ0.2cm 微量含む。粘性あり。

W-23 号溝



W-22 号・23 号溝エレベーション（８区）

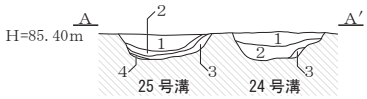


W-23 号溝

1　カクラン
2　カクラン
23a　3　灰褐色土　Ａｓ－Ｂφ0.2cm・Ｈｒ－ＦＡ洪水土・鉄分・黒色粘質土少量含む。
　　4　灰褐色土　鉄分・砂粒少量、Ａｓ－Ｂφ0.2cm 微量含む。
　　5　灰黄褐色土　鉄分・砂粒中量含む。粘性弱。
23b　6　灰黄褐色土　Ａｓ－Ｂφ0.2cm 多量、砂粒中量、鉄分少量含む。粘性弱。
23c　7　灰褐色土　Ｈｒ－ＦＡ洪水土・鉄分・砂粒少量、Ａｓ－Ｂφ0.2cm 微量含む。
　　8　灰褐色土　砂粒中量、Ｈｒ－ＦＡ洪水土・鉄分少量含む。粘性弱。
　　9　灰褐色土　鉄分中量、砂粒少量、Ａｓ－Ｂφ0.2cm 微量含む。
　　10　灰黄褐色土　鉄分・砂粒中量含む。粘性弱。
　　11　暗灰色土　鉄分・砂粒少量、Ａｓ－Ｂφ0.2cm 微量含む。
23d　12　灰褐色土　鉄分多量、砂粒少量、Ａｓ－Ｂφ0.2cm・Ｈｒ－ＦＡ洪水土微量含む。
　　13　灰褐色土　鉄分・砂粒中量含む。
　　14　灰褐色土　Ａｓ－Ｂφ0.2cm・鉄分・砂粒中量含む。粘性やや弱。
　　15　灰褐色土　鉄分・砂粒中量、Ａｓ－Ｂφ0.2cm 少量、炭化粒微量含む。
23e　16　灰褐色土　砂粒中量、鉄分少量、Ａｓ－Ｂφ0.2cm・Ｈｒ－ＦＡ洪水土微量含む。粘性やや弱。
　　17　灰黄褐色土　砂粒多量、Ａｓ－Ｂφ0.2cm 微量含む。粘性弱。
23e　18　灰褐色土　Ａｓ－Ｂφ0.2cm・Ｈｒ－ＦＡ洪水土・鉄分・砂粒少量含む。
　　19　灰黄褐色土　鉄分・砂粒中量含む。粘性やや弱。
　　20　暗灰色土　Ａｓ－Ｂφ0.2cm・砂粒中量、鉄分少量含む。粘性弱。
　　21　灰黄褐色土　鉄分・砂粒中量、Ｈｒ－ＦＡ洪水土少量含む。粘性やや弱。
　　22　灰黄褐色土　Ａｓ－Ｂφ0.2cm・Ｈｒ－ＦＡ洪水土・鉄分・砂粒少量含む。
　　23　暗灰色土　砂粒中量、鉄分少量含む。粘性やや弱。
23f　24　暗灰色土　鉄分中量、砂粒少量、Ａｓ－Ｂφ0.2cm 微量含む。
　　25　灰褐色土　砂粒多量、Ａｓ－Ｂφ0.2cm・鉄分中量含む。粘性弱。W23f 溝。
　　26　灰褐色土　砂粒中量、Ａｓ－Ｂφ0.2cm・鉄分少量含む。しまりあり。粘性やや弱。
　　27　暗灰色土　砂粒少量、Ａｓ－Ｂφ0.2cm 微量含む。
　　28　暗灰色土　Ａｓ－Ｂφ0.2cm・砂粒多量含む。粘性弱。
　　29　灰褐色土　鉄分中量、Ｈｒ－ＦＡ洪水土・砂粒少量、Ａｓ－Ｂφ0.2cm 微量含む。
23g　30　灰褐色土　鉄分・砂粒・黒色粘質土少量、Ａｓ－Ｂφ0.2cm 微量含む
　　31　灰褐色土　鉄分・砂粒少量含む。
　　32　暗灰色土　鉄分中量、Ｈｒ－ＦＡ洪水土・砂粒少量、Ａｓ－Ｂφ0.2cm 微量含む。
　　33　灰褐色土　Ａｓ－Ｂφ0.2cm・鉄分・砂粒少量含む。

第 10 図　Ｗ－12 号・16 号・17 号、19 号～ 23 号溝跡

W-24 号・25 号溝



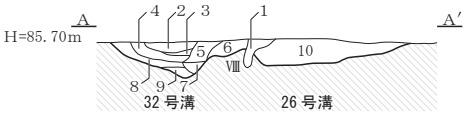
W-24 号溝

1　灰褐色土　　鉄分少量、Ａｓ－Ｂφ0.2cm 微量含む。しまりやや弱。粘性弱。
2　暗灰褐色土　鉄分少量、Ａｓ－Ｂφ0.2cm 微量含む。しまりややあり。粘性弱。
3　暗黄褐色土　しまり弱。粘性やや弱。

W-25 号溝

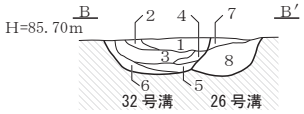
1　暗褐色土　　Ａｓ－Ｂφ0.2cm 多量含む。しまりやや弱。粘性なし。Ａｓ－Ｂ混土層。
2　灰褐色土　　砂粒多量含む。しまりややあり。粘性弱。
3　暗灰褐色土　砂粒多量、Ａｓ－Ｃφ0.2cm 微量含む。しまりややあり。粘性弱。
4　褐色土　　Ｈｒ－ＦＡ洪水土微量含む。しまりややあり。粘性やや弱。

W-26 号・32 号溝



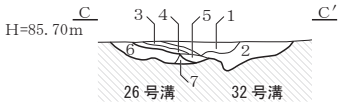
W-26 号・32 号溝（A-A′）

1　カクラン
2　黒褐色土　　Ａｓ－Ｂφ0.2cm・砂粒・鉄分少量含む。しまり弱。粘性なし。W-32。
3　褐色土　　Ａｓ－Ｂφ0.2cm 微量含む。しまり弱。粘性なし。W-32。
4　暗褐色土　　Ａｓ－Ｂφ0.2cm・砂粒・鉄分少量含む。しまり弱。粘性なし。W-32。
5　灰褐色土　　鉄分中量含む。しまりやや弱。粘性なし。W-32。
6　灰茶褐色土　鉄分少量含む。しまりやや弱。粘性弱。W-32。
7　暗茶褐色土　Ａｓ－Ｂφ0.2cm・砂粒・鉄分中量含む。しまりややあり。粘性弱。W-32。
8　暗灰褐色土　Ａｓ－Ｂφ0.2cm 中量、砂粒少量含む。しまり弱。粘性弱。W-32。
9　灰褐色土　　しまりややあり。粘性弱。W-32。
10　褐灰色土　　Ａｓ－Ｂφ0.2cm 多量含む。しまりなし。粘性なし。Ａｓ－Ｂ一次堆積層。W-26。



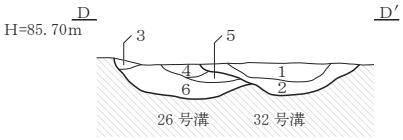
W-26 号・32 号溝（B-B′）

1　暗茶褐色土　Ａｓ－Ｂφ0.2cm 微量含む。しまりやや弱。粘性なし。W-32。
2　暗褐色土　　しまりやや弱。粘性弱。W-32。
3　褐色土　　Ａｓ－Ｂφ0.2cm 少量含む。しまり弱。粘性なし。W-32。
4　灰褐色土　　粘性弱。W-32。
5　灰茶褐色土　鉄分中量、砂粒少量、Ａｓ－Ｂφ0.2cm 微量含む。しまりややあり。粘性弱。W-32。
6　灰褐色土　　しまりややあり。粘性弱。W-32。
7　茶褐色土　　W-26。
8　褐灰色土　　Ａｓ－Ｂφ0.2㎝多量含む。しまりなし。粘性なし。Ａｓ－Ｂ一次堆積層。W-26。



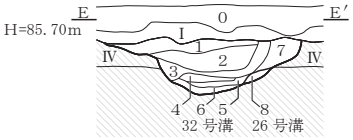
W-26 号・32 号溝（C-C′）

1　褐色土　　砂粒・鉄分中量、Ａｓ－Ｂφ0.2cm 少量含む。しまりややあり。粘性弱。W-32。
2　灰褐色土　　鉄分中量、Ａｓ－Ｂφ0.2cm 少量含む。しまりややあり。粘性弱。W-32。
3　暗灰褐色土　砂粒・鉄分少量、Ａｓ－Ｂφ0.2cm 微量含む。しまりやや弱。粘性なし。W-32。
4　灰褐色土　　砂粒少量含む。しまりやや弱。粘性なし。W-32。
5　暗褐色土　　砂粒中量含む。W-32。
6　褐灰色土　　Ａｓ－Ｂφ0.2cm 多量含む。しまりなし。粘性なし。Ａｓ－Ｂ一次堆積。W-26。
7　暗灰褐色土　砂粒中量含む。しまりなし。粘性なし。W-26。



W-26 号・32 号溝（D-D′）

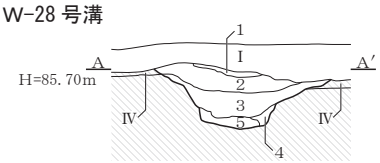
1　暗灰褐色土　Ａｓ－Ｂφ0.2cm 中量、Ｈｒ－ＦＡ軽石・鉄分微量含む。しまりやや弱。粘性なし。W-32。
2　灰褐色土　　Ａｓ－Ｂφ0.2cm・砂粒・鉄分少量含む。しまりややあり。粘性やや弱。W-32。
3　暗茶褐色土　Ａｓ－Ｂφ0.2cm 中量含む。しまりややあり。粘性やや弱。W-26。
4　茶褐色土　　Ａｓ－Ｂφ0.2cm 多量、鉄分少量含む。しまりやや弱。粘性なし。Ａｓ－Ｂ混土層。W-26。
5　暗茶褐色土　Ａｓ－Ｂφ0.2cm 中量含む。しまりやや弱。粘性なし。Ａｓ－Ｂ混土層。W-26。
6　褐灰色土　　Ａｓ－Ｂφ0.2cm 多量含む。しまり弱。粘性なし。Ａｓ－Ｂ一次堆積層。上部にアッシュ。W-26。



W-26 号・32 号溝（E-E′）

1　灰茶褐色土　鉄分中量、Ａｓ－Ｂφ0.2cm 微量含む。しまりややあり。粘性ややあり。W-。
2　暗灰褐色土　鉄分少量、Ａｓ－Ｂφ0.2cm・Ｈｒ－ＦＡ軽石・砂粒微量含む。しまりややあり。粘性やや弱。W-32。
3　暗灰褐色土　砂粒少量、Ｈｒ－ＦＡ軽石・鉄分微量含む。しまりやや弱。粘性やや弱。W-32。
4　灰褐色土　　砂粒中量含む。しまりやや弱。粘性弱。W-32。
5　黒褐色土　　Ａｓ－Ｂφ0.2cm 少量含む。しまりややあり。粘性やや弱。W-32。
6　灰褐色土　　Ａｓ－Ｂφ0.2cm 多量、砂粒中量、Ｈｒ－ＦＡ軽石微量含む。しまりややあり。粘性なし。W-32。
7　褐色土　　Ａｓ－Ｂφ0.2cm・黒色粘質土・鉄分微量含む。しまりやや弱。粘性弱。W-32。
8　褐灰色　　Ａｓ－Ｂφ0.2cm 多量含む。しまりやや弱。粘性なし。W-26。

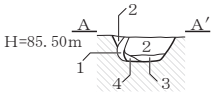
W-28 号溝



W-28 号溝

1　暗灰褐色土　　Ａｓ－Ａφ0.2cm・Ａｓ－Ｂφ0.2cm・鉄分微量含む。しまりやや弱。粘性弱。
2　暗褐色土　　鉄分少量、Ａｓ－Ａφ0.2cm・Ａｓ－Ｂφ0.2cm 微量含む。しまり弱。粘性なし。
3　暗灰褐色土　Ａｓ－Ｂφ0.2cm・鉄分少量含む。しまりやや弱。粘性弱。
4　灰黄褐色土　Ｈｒ－ＦＡ洪水土多量、鉄分少量、Ａｓ－Ｂφ0.2cm 微量含む。しまりやや弱。粘性なし。
5　暗灰黄褐色土　鉄分少量、Ａｓ－Ｂφ0.2cm・Ｈｒ－ＦＡ軽石微量含む。しまりやや弱。粘性弱。

W-29 号溝



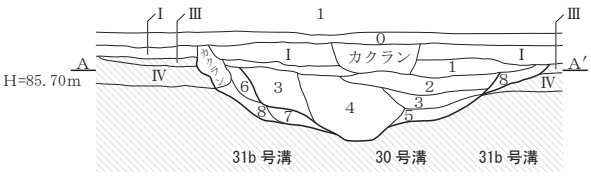
W-29 号溝

1　灰黄褐色土　　Ａｓ－Ｂφ0.2cm・黒色粘質土微量含む。しまりやや弱。粘性弱。木根痕。
2　暗灰褐色土　　Ａｓ－Ｂφ0.2cm 中量、鉄分少量、Ａｓ－Ａφ0.2cm・黒色粘質土微量含む。
　しまりやや弱。粘質弱。
3　灰褐色土　　Ａｓ－Ｂφ0.2cm 微量含む。しまりややあり。粘性やや弱。
4　灰黄褐色土　　鉄分微量含む。しまりややあり。粘性弱。

0　1　2m
1:60

第 11 図　Ｗ－24 号～ 26 号、28 号・29 号・32 号溝跡

W-30 号・31 号溝



W-30 号溝

1	褐色土	Ｈｒ－ＦＡ軽石・鉄分微量含む。しまりややあり。粘性ややあり。
2	灰褐色土	鉄分多量含む。しまりあり。粘性ややあり。
3	暗褐色土	鉄分少量、Ａｓ－Ｂφ0.2cm・黒色粘質土微量含む。しまりややあり。粘性ややあり。
4	暗灰褐色土	鉄分中量、黒色粘質土少量、Ａｓ－Ｂφ0.2cm 微量含む。しまりややあり。粘性弱。
5	灰褐色土	黒色粘質土中量含む。しまりあり。粘性ややあり。

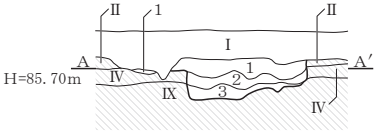
W-31 号溝（A-A’）

6	褐色土	Ａｓ－Ｂφ0.2cm・Ｈｒ－ＦＡ軽石微量含む。しまりやや弱。粘性弱。
7	暗茶褐色土	黒色粘質土少量、Ａｓ－Ｂφ0.2cm 微量含む。しまりあり。粘性ややあり。
8	灰茶褐色土	黒色粘質土少量、Ａｓ－Ｂφ0.2cm 微量含む。しまりあり。粘性やや弱。

W-31 号溝（B-B’）

51a 号	1	暗灰褐色土	Ａｓ－Ｂφ0.2cm・鉄分少量、Ａｓ－Ａφ0.2cm 微量含む。しまりややあり。粘性やや弱。
	2	灰茶褐色土	黒色粘質土中量、Ｈｒ－ＦＡ洪水土少量、Ａｓ－Ａφ0.2cm・Ａｓ－Ｂφ0.2cm 微量含む。しまりややあり。粘性やや弱。
	3	暗灰褐色土	Ａｓ－Ｂφ0.2cm・Ｈｒ－ＦＡ洪水土・黒色粘質土微量含む。しまり弱。粘性弱。
31b 号	4	暗茶褐色土	Ａｓ－Ｂφ0.2cm 中量、Ｈｒ－ＦＡ洪水土・鉄分微量含む。しまりやや弱。粘性弱。
	5	暗灰茶褐色土	Ａｓ－Ｂφ0.2cm・鉄分少量、黒色粘質土微量含む。しまり弱。粘性なし。
	6	灰茶褐色土	Ａｓ－Ｂφ0.2cm・砂粒・鉄分微量含む。しまりややあり。粘性やや弱。
	7	暗灰褐色土	Ａｓ－Ｂφ0.2cm・鉄分少量、Ｈｒ－ＦＡ軽石微量含む。しまりやや弱。粘性弱。
	8	暗灰褐色土	鉄分少量、Ａｓ－Ｂφ0.2cm・黒色粘質土微量含む。しまりややあり。粘性やや弱。
	9	灰褐色土	砂粒多量、鉄分微量含む。しまり弱。粘性なし。
	10	灰褐色土	砂粒中量、Ａｓ－Ｂφ0.2cm 微量含む。しまりややあり。粘性なし。
	11	灰褐色土	砂粒少量、鉄分微量含む。しまりやや弱。粘性やや弱。

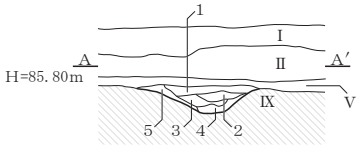
W-33 号溝



W-33 号溝

1	暗茶褐色土	鉄分多量、Ａｓ－Ｂφ0.2cm 中量含む。しまりやや弱。粘性弱。
2	灰褐色土	Ａｓ－Ｂφ0.2cm 多量含む。しまりやや弱。粘性なし。人為的埋め土。
3	灰黄褐色土	Ａｓ－Ｂφ0.2cm 中量含む。しまりやや弱。粘性なし。Ⅸ層ブロック中にＡｓ－Ｂ混入。人為的埋め土。

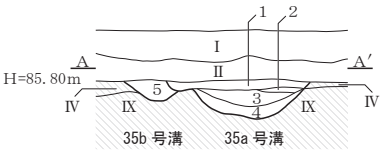
W-34 号溝



W-34 号溝

1	灰褐色土	Ａｓ－Ｂφ0.2cm・鉄分少量、Ａｓ－Ａφ0.2cm 微量含む。しまりややあり。
2	灰褐色土	Ａｓ－Ｂφ0.2cm・鉄分少量、Ａｓ－Ａφ0.2cm 微量含む。しまりやや弱。粘性弱。
3	暗灰黄褐色土	Ｈｒ－ＦＡ洪水土多量、鉄分少量、Ａｓ－Ｂφ0.2cm 微量含む。しまりやや弱。粘性やや弱。
4	暗灰褐色土	Ａｓ－Ｂφ0.2cm 微量含む。しまりあり。粘性やや弱。
5	灰黄褐色土	Ｈｒ－ＦＡ洪水土少量、Ａｓ－Ｂφ0.2cm 微量含む。しまりあり。粘性やや弱。

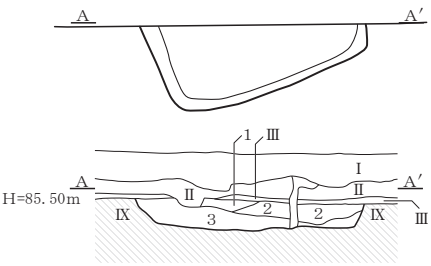
W-35 号溝



W-35 号溝

1	暗茶褐色土	鉄分多量、Ａｓ－Ｂφ0.2cm 中量、Ａｓ－Ｃφ0.2cm 微量含む。粘性弱。W-35a。
2	暗灰褐色土	Ａｓ－Ｂφ0.2cm 中量、鉄分少量含む。粘性弱。W-35a。
3	黄褐色土	Ｈｒ－ＦＡ洪水土多量、Ａｓ－Ｂφ0.2cm 少量、鉄分微量含む。しまりあり。粘性やや弱。W-35a。
4	暗褐色土	Ｈｒ－ＦＡ洪水土・砂粒少量、Ａｓ－Ｂφ0.2cm・Ａｓ－Ｃφ0.2cm 微量含む。しまりあり。粘性ややあり。W-35a。
5	暗灰褐色土	Ａｓ－Ｂφ0.2cm・鉄分少量、Ｈｒ－ＦＡ洪水土・Ａｓ－Ｃφ0.2cm 微量含む。しまりあり。粘性ややあり。W-35b。

D－１土坑



D－１号土坑

1	暗黄褐色土	Ａｓ－Ｂφ0.2cm・Ｈｒ－ＦＡ洪水土中量含む。しまりやや弱。粘性弱。人為的な埋め土？
2	暗灰黄褐色土	Ａｓ－Ｂφ0.2cm 多量、Ｈｒ－ＦＡ洪水土中量、炭化物少量含む。しまりややあり。粘性なし。人為的な埋め土？
3	灰黄褐色土	Ｈｒ－ＦＡ洪水土多量、Ａｓ－Ｂφ0.2cm・炭化物少量含む。しまりややあり。粘性弱。人為的な埋め土？

0　1　2m　1:60

第 12 図　W -30 号・31 号、33 号～ 35 号溝跡、Ｄ－１号土坑

３　土　坑

Ｄ－１号土坑　（第６・12図、ＰＬ．７）

位置：６区南側で検出された。　**重複**：なし。　**規模・形態**：平面形は南北に長い長方形とみられる。南北1.65ｍ、東西は90cmほどまで検出された。深さは24cmを計る。　**埋没状態**：上部はＢ軽石を多く含む埋土で、下部はＦＡ層のブロックが多量に入り、人為的に埋め戻されたような状況が見られた。　**遺物**：なし。　**時期**：埋土の状況から中世とみられる。

２　Ｈｒ－ＦＡ層下面の調査

１　Ｈｒ－ＦＡ層下畠跡　（第13・15図、ＰＬ．８・10・11）

位置：１区で検出された。　**重複**：Ｗ-36号～39号溝に切られている。　**地形**：他の調査区との標高差はほとんどない。ＦＡ層の下部はほぼ平坦なXI層の黒褐色土層で、一部にＣ軽石の混じるＸ層の薄い堆積層が残る部分も認められた。　**区画**：調査区南端の攪乱部を除きほぼ全面に検出されたが、中央北寄りの38号溝が重複する部分と、南寄りの39号溝が重複する部分の南側には畝痕が空白の部分が見られた。また、38号溝の北側と南側では微妙に畝の方向が異なっており、これらの部分は畠の境界になる可能性も考えられる。　**畝痕**：南半の畝の走向は、座標北から95～99度ほど東偏しており、北半の畝は93～95度の偏りである。埋土はＦＡ洪水土であるが、純層に近いものと黒褐色土のブロックを少量含む新しい時期のものとに区分された。畝の幅は40cm前後で、深さは新しい畝では10cm以上の深いものが多い。畝間の距離はばらつきがあるが、新しいものが35～75cm、古い時期が40～85cmほどを計る。　**遺物**：中央付近の古い畝の底から土師器器台（Ｐ１、第25図畠跡出土遺物１）と、甕の破片３点がまとまって出土したほか、各所から土師器の小破片が出土し、弥生土器の破片も出土している（第25図畠跡出土遺物２・３）。

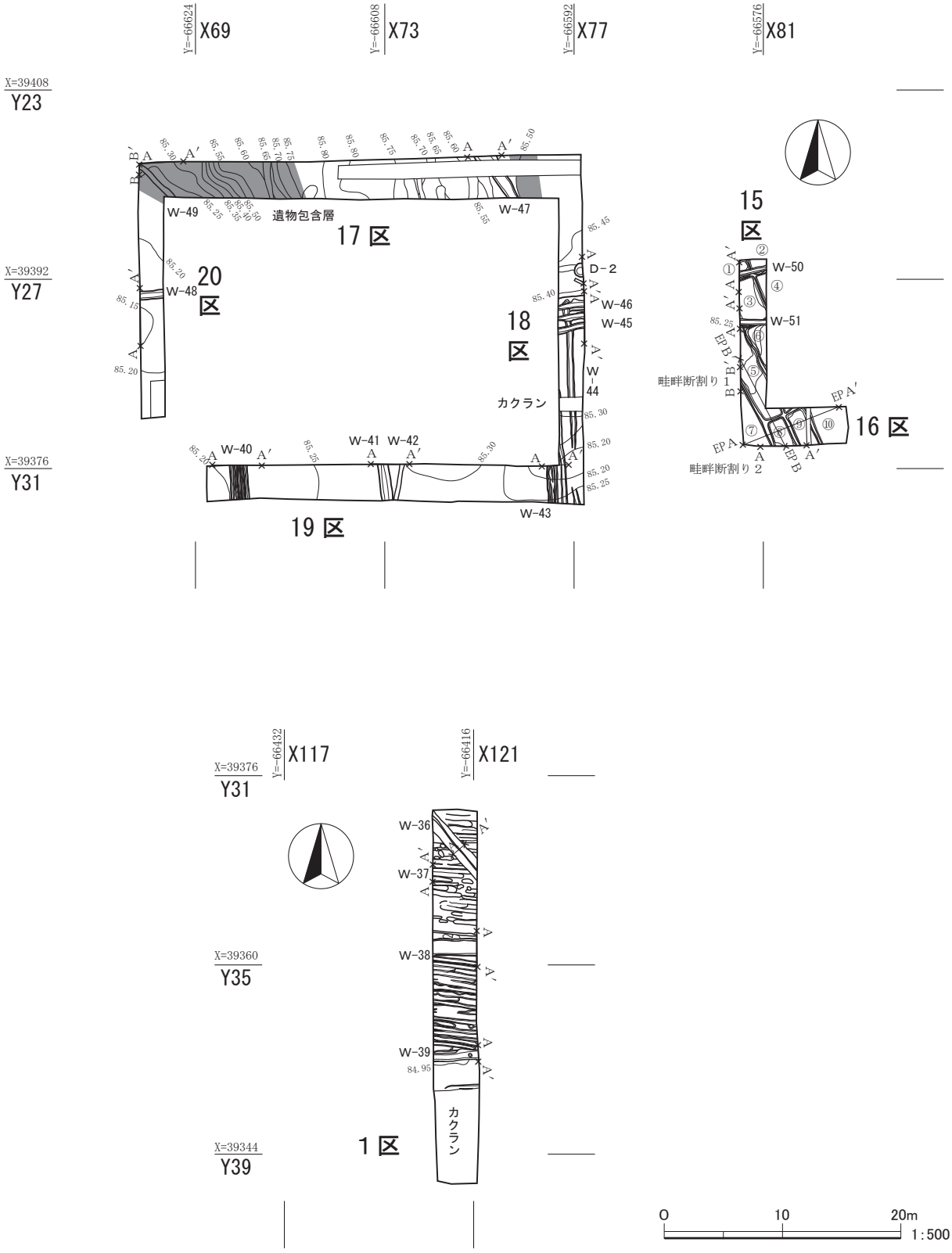
２　Ｈｒ－ＦＡ層下水田跡　（第13・14・16図、ＰＬ．９・10・11・12）

位置：３区、５・６区、７区、15・16区で検出された。　**重複**：５・６区ではＷ-30号溝に、７区ではＷ-26号・62号溝に、15・16区でもＷ-50号・51号溝に切られている。　**地形**：全体的に北東から南西に緩やかに傾斜しており、ＦＡ層の堆積が層として認められる地点は少なかったため、水田跡の遺存状況も全体的には良くなかった。しかし、15・16区についてはＦＡ層が10cmほどの厚さに残っており、畦畔全体が埋没して良好に遺存していた。　**区画**：全体が判明したものは少ないが、推定も含めて2.3㎡から7.8㎡ほどの面積で、いわゆる極小区画水田である。区画の設定はいずれも南北軸の畦畔を基準になされているようで、南北の軸線は座標北に対して最少で３度から最大30度の角度で西偏するが、その中でも20～25度の傾きが大部分である。南北軸の間は２ｍ前後の間隔で、区画の平面形は南北方向に長い長方形が主である。水田面には特に目立った耕具痕や足跡などは認められなかった。　**畦畔**：15・16区で良好に残り、最高部は南北畦畔の9.2cm、下端の最大幅が南北畦畔の60cmであり、総じて南北畦畔の規模が大きい。水田面と畦畔は、Ｃ軽石混じりで鉄分の沈着した灰色気味の黒褐色土層であった。　**水口**：検出されなかった。　**遺物**：なし。

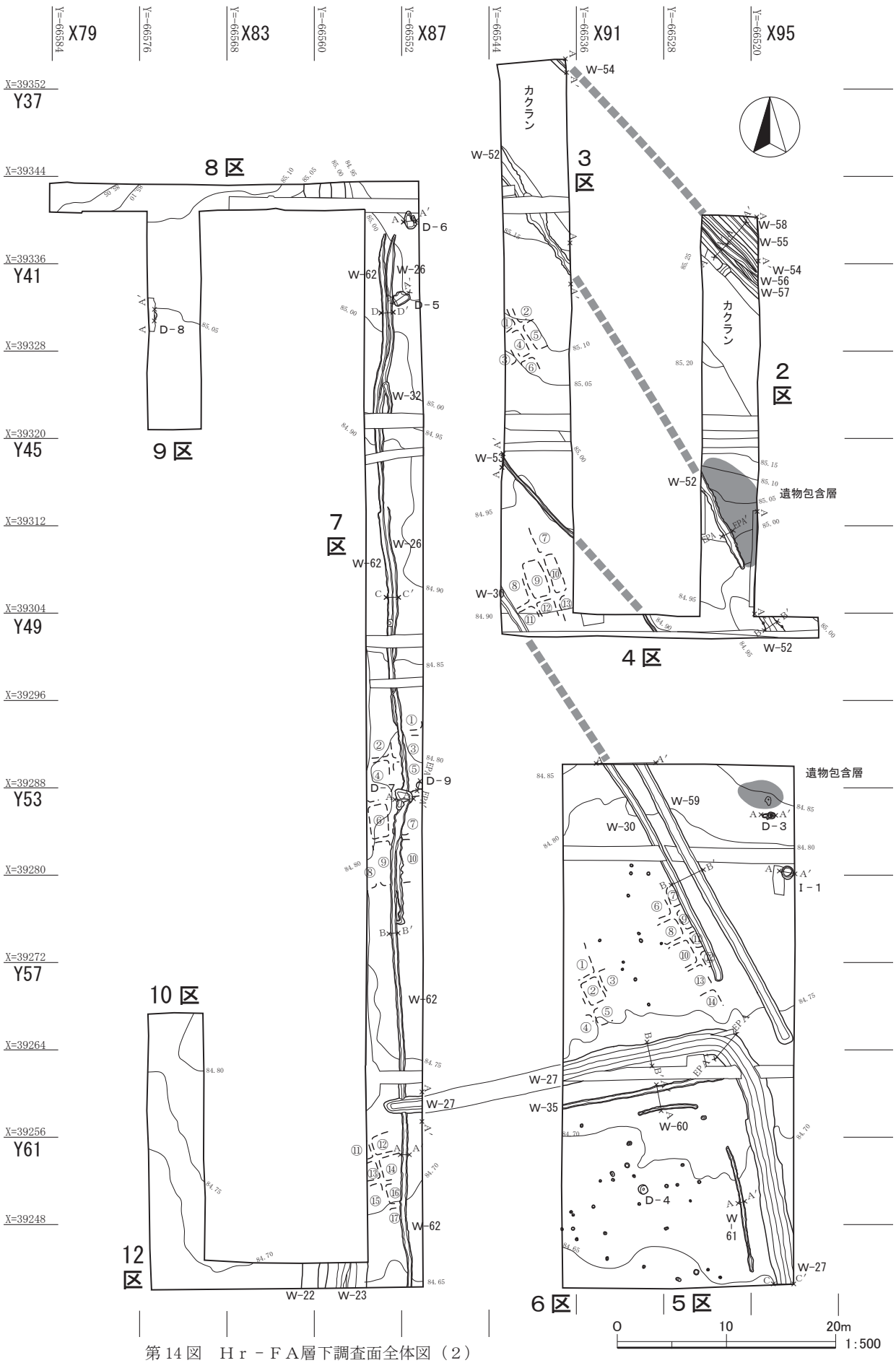
３　溝　跡

Ｗ-27号溝跡　（環濠屋敷跡）（第６・14・17図、ＰＬ．２・９・12）

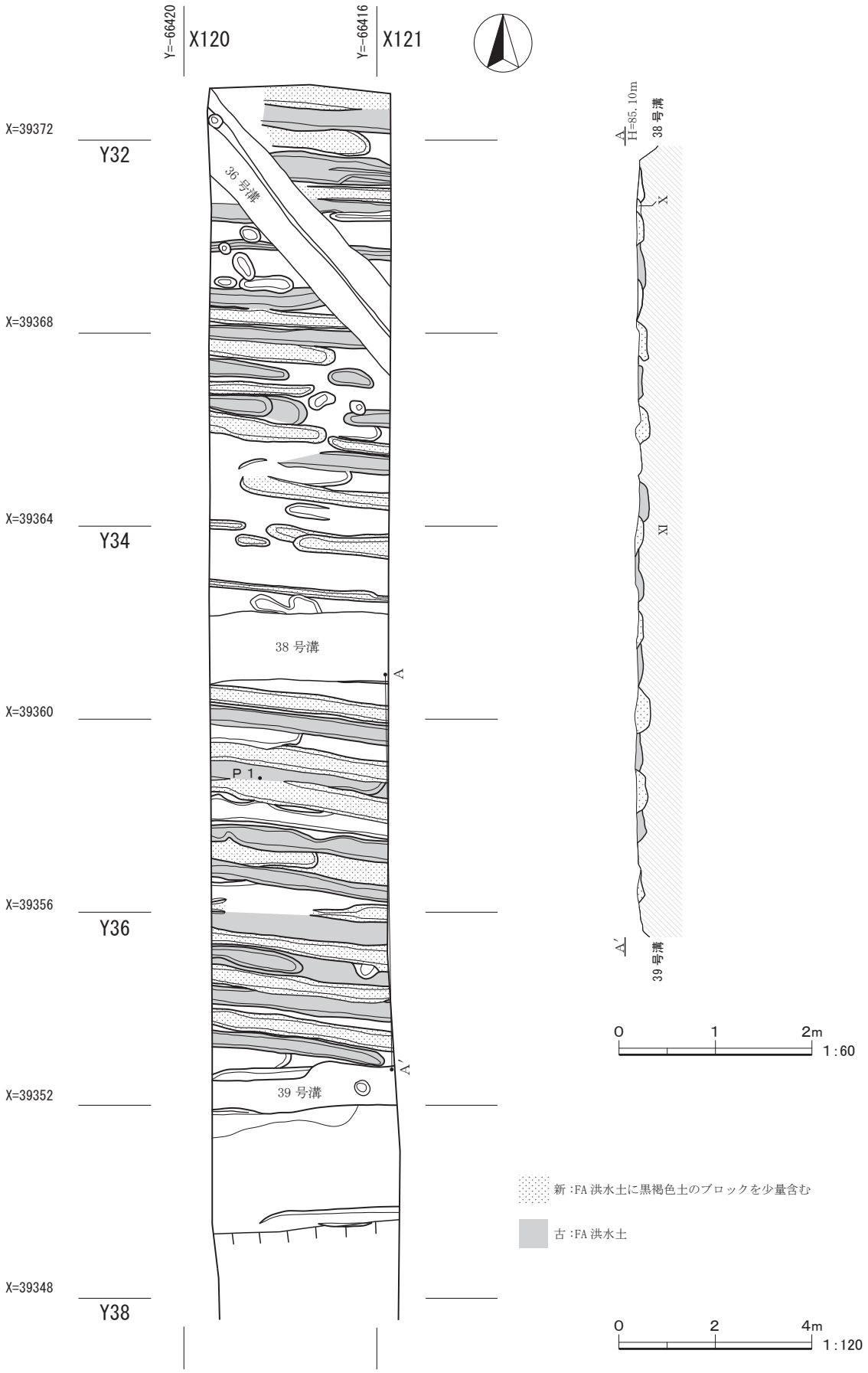
位置：５・６区南半、及び７区南側のＡs-Ｂ層下調査面で検出された。　**重複**：Ｗ-26号・29号・62号溝を切っている。　**規模・形態**：環濠屋敷跡の一部とみられ、７区の西端部から５区の東端付近まで続き、南にほぼ直角に折れて調査区外へ続いている。北辺部の長さが約34ｍ、東辺部は22ｍまで、延長56ｍほどが検出され



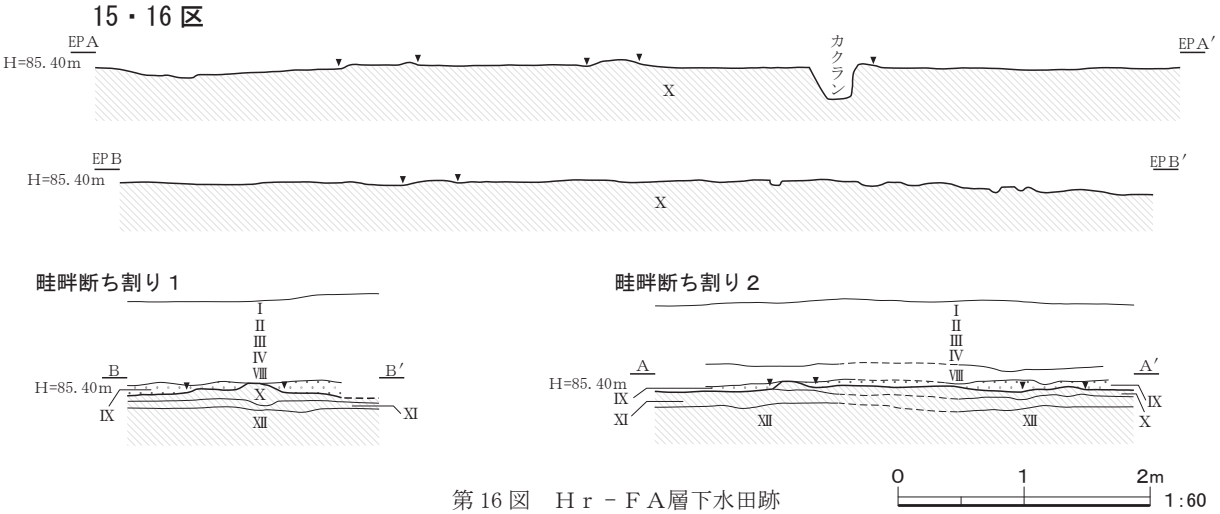
第 13 図　Ｈｒ－ＦＡ層下調査面全体図（1）



第14図　Ｈｒ－ＦＡ層下調査面全体図（２）



第 15 図　Ｈｒ－ＦＡ層下畠跡



第16図　Ｈｒ－ＦＡ層下水田跡

第３表　Ｈｒ－ＦＡ層下水田跡区画計測表

面積は畦畔下端線の範囲、田面比高は同一区画内の最大値、畦畔高は田面と畦畔の比高を示す。
南北畦畔は区画の西側に、東西畦畔は区画の北側に位置するものを指す。（ ）は推定又は残存値。

調査区	区画No.	面積（㎡）	南北軸（m）	東西軸（m）	田面中央標高（m）	田面比高（cm）	南北畦畔高（cm）	南北畦畔上端幅（cm）	南北畦畔下端幅（cm）	東西畦畔高（cm）	東西畦畔上端幅（cm）	東西畦畔下端幅（cm）	備考
3	①	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
3	②	—	—	—	—	—	—	—	(38～50)	—	—	—	
3	③	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
3	④	2.5	2.77	1.45	85.0	—	—	—	(43～48)	—	—	(35～46)	
3	⑤	—	2.90	—	(85.1)	—	—	—	43～63	—	—	(33～40)	
3	⑥	—	—	(1.68)	—	—	—	—	—	—	—	36～41	
3	⑦	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
3	⑧	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
3	⑨	5.6	3.80	2.06	84.9	—	—	—	(32～52)	—	—	—	
3	⑩	3.6	3.93	1.37	84.9	—	—	—	(39～59)	—	—	—	
3	⑪	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	(30～48)	
3	⑫	—	—	1.95	—	—	—	—	(24～30)	—	—	40～47	
3	⑬	—	—	—	—	—	—	—	(38～50)	—	—	(42～50)	
5・6	①	—	—	(2.10)	—	—	—	—	—	—	—	—	
5・6	②	6.9	2.59	2.01	84.7	—	—	—	(36～40)	—	—	36～42	
5・6	③	—	—	—	—	—	—	—	(28～34)	—	—	—	
5・6	④	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
5・6	⑤	(2.3)	(2.00)	(1.90)	—	—	—	—	(32～36)	—	—	(42～44)	
5・6	⑥	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
5・6	⑦	—	2.34	—	—	—	—	—	(29～40)	—	—	—	
5・6	⑧	(3.2)	(2.33)	(1.90)	84.7	—	—	—	—	—	—	(43～50)	
5・6	⑨	—	2.37	—	—	—	—	—	(33～40)	—	—	—	
5・6	⑩	(3.7)	(2.64)	(2.15)	84.7	—	—	—	—	—	—	(35～45)	
5・6	⑪	—	2.00	—	—	—	—	—	(37～42)	—	—	—	
5・6	⑫	—	1.93	—	—	—	—	—	(36～50)	—	—	—	
5・6	⑬	—	—	—	(84.7)	—	—	—	—	—	—	(35～41)	
5・6	⑭	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
7	①	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
7	②	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
7	③	—	—	—	—	—	—	—	(35～38)	—	—	—	
7	④	(7.7)	(3.87)	(2.66)	84.8	—	—	—	—	—	—	(31～47)	
7	⑤	—	—	—	—	—	—	—	(37～40)	—	—	—	
7	⑥	4.9	3.42	2.05	84.8	—	—	—	—	—	—	(40～42)	
7	⑦	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
7	⑧	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
7	⑨	(5.9)	4.33	(1.98)	84.8	—	—	—	—	—	—	35～43	
7	⑩	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	(42～48)	
7	⑪	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
7	⑫	—	(2.03)	—	(84.7)	—	—	—	32～34	—	—	—	
7	⑬	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	(33～38)	
7	⑭	—	(2.45)	—	84.70	—	—	—	31～38	—	—	(33～43)	
7	⑮	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	(42～51)	
7	⑯	—	(2.19)	—	—	—	—	—	(35～37)	—	—	—	
7	⑰	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
15・16	①	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
15・16	②	—	—	—	—	—	(2.8)	(6～19)	(29～41)	—	—	—	
15・16	③	(7.8)	(4.10)	(2.54)	85.3	—	(5.7)	(6～14)	(31)	(4.9)	(4～13)	(24～31)	
15・16	④	—	—	—	—	—	(6.7)	(9～10)	(33～36)	(4.4)	(6～19)	(26～30)	
15・16	⑤	—	—	—	—	(85.3)	(5.7)	(13～25)	(35～50)	—	(7～12)	(25)	
15・16	⑥	—	7.94	—	—	—	(9.2)	(7～21)	(31～45)	(6.8)	(7～12)	(24～28)	
15・16	⑦	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
15・16	⑧	—	—	1.97	—	—	(2.1)	(18～37)	(41～60)	3.8	12～18	34～40	
15・16	⑨	—	—	1.88	—	—	(4.5)	(19～26)	(42～50)	3.5	(14～26)	(35～46)	
15・16	⑩	—	—	—	—	—	(3.4)	(13～23)	(35～42)	—	—	—	

た。７区の最大部分での規模は、上幅 2.5 m・深さ 80cm で、断面形は幅広のＶ字形を呈する。西端部は溝が切れており、土橋状の通路部であったと考えられる。西辺部にあたる溝は明確にはならなかったが、Ｗ-23 ｆ号溝が位置や規模からみて該当すると考えられる。この場合、溝内側の東西距離は 38 m前後となる。区画内部ではピットがいくつか検出されたが、建物や柵跡などは明確にならなかった。なお、Ｗ-60 号・61 号溝は 27 号溝の区画内に沿うように走っており、屋敷内の施設であった可能性がある。また、北東隅部から北へ 14 mほど離れてＩ－１号井戸が検出されており、環濠の外側になるがやはり関連するものとみられる。　**埋没状態**：溝の埋土中には全体的にＢ軽石を多く含んでいた。　**遺物**：東辺部から軟質陶器鉢の小片、北辺部から砥石片（第 25 図－ 12・13）が出土したほか、土師器片・陶器片が少量出土している。　**時期**：埋土の状況から中世とみられる。

Ｗ-36 号溝跡　（第 13・17 図、ＰＬ．８・10・13）

位置：１区の北側で検出された。　**重複**：２条が並行し、36 ａ号が 36 ｂ号を切り、両溝ともＦＡ層埋没の畠跡を切っている。　**規模・形態**：北西～南東の走向で、36 ａ号は上幅 54cm・深さ 14cm で、断面形はＵ字状である。36 ｂ号は上幅 60cm 以上で、深さは 12cm、断面形は皿状を呈する。　**埋没状態**：36 ａ号は底に流砂層が堆積しており水路とみられ、ＦＡ洪水土も多量に含む。36 ｂ号はＦＡ洪水土に黒色粘質土を含む埋土であった。　**遺物**：36 ｂ号の肩部から、土師器壷の破片が出土しているほか、土師器小片が数点出土している。　**時期**：埋土の状況から、両溝とも古墳後期とみられる。

Ｗ-37 号溝跡　（第 13・17 図、ＰＬ．８・13）

位置：1 区の北側で検出された。　**重複**：Ｗ-36 号溝とＦＡ下畠跡を切っている。　**規模・形態**：東西方向に走り、上幅 68cm・深さ 7cm で、皿状の断面形である。　**埋没状態**：埋土中にわずかにＢ軽石を含んでいる。　**遺物**：混入の古墳後期の土師器坏の小片が出土している。　**時期**：埋土の状況から中世以降とみられる。

Ｗ-38 号溝跡　（第 13・17 図、ＰＬ．８）

位置：１区の中央付近で検出された。　**重複**：ＦＡ下畠跡を切っている。　**規模・形態**：東西の走向で、上幅は 1.58 m・深さ 54cm ほど、断面形は箱型である。　**埋没状態**：埋土上部にはＡ軽石をわずかに含む。　**遺物**：混入とみられる土師器破片数点のほか、釘状の鉄製品が出土。　**時期**：近代以後とみられる。

Ｗ-39 号溝跡　（第 13・17 図、ＰＬ．８・13）

位置：１区の南半側で検出された。　**重複**：ＦＡ下畠跡を切っている。　**規模・形態**：東から西に走り、上幅は 78cm、深さは 16cm を計る。断面形は箱型を呈し、底面には凹凸が目立つ。　**埋没状態**：Ⅸ層のＦＡブロックとＸ層の黒褐色土のブロックの混じった埋土で、人為的に埋め戻されたとみられる。　**遺物**：なし。　**時期**：埋土の状況から古墳後期頃とみられる。

Ｗ-40 号溝跡　（第 13・17 図、ＰＬ．10・13）

位置：19 区の西側で検出された。　**重複**：なし。　**規模・形態**：南北方向に走る。断面形は二段の箱型のような形態で、重複の可能性がある。上部の規模は、上幅 3.44 m、深さは 55cm と大規模で、下部は上幅 1.7 m・深さ 25cm ほどである。底面は耕具の痕跡が目立つ。　**埋没状態**：Ｂ軽石を少量含む埋土であった。　**遺物**：なし。　**時期**：埋土の状況から中世以降とみられる。

W－41 号溝跡　（第 13・17 図、ＰＬ．10・13）

位置：19 区中央部で検出された。　**重複**：なし。　**規模・形態**：南北方向の走向で、上幅 1.85 m・深さ 58cm を計り、断面形はＵ字状である。　**埋没状態**：埋土中にはＡ及びＢ軽石を少量含む。　**遺物**：なし。　**時期**：埋土の状況から近世以降とみられる。

W－42 号溝跡　（第 13・17 図、ＰＬ．10・13　）

位置：19 区中央部で検出された。　**重複**：なし。　**規模・形態**：南北方向の走向で、上幅 40cm・深さ 14cm を計る。　**埋没状態**：埋土は、Ⅸ′層に似たＦＡ粒の混じる灰褐色粘質土である。　**遺物**：なし。　**時期**：埋土の状況から、奈良時代頃とみられる。

W－43 号溝跡　（第 13・18 図、ＰＬ．10）

位置：19 区東側から 18 区にかけて検出された。　**重複**：なし。　**規模・形態**：南北方向に走り、上幅 1.8 m以上、深さが 52cm ほどである。断面形は箱型状で、底面には耕具痕が目立つ。走行方向や規模・形態からみて 14 区W－２号溝に連続する可能性が高い。　**埋没状態**：埋土中にはＢ軽石を少量含む。　**遺物**：なし。　**時期**：埋土の状況から中世以降とみられる。

W－44 号溝跡　（第 13 図、ＰＬ．10　）

位置：18 区南半で検出された。　**重複**：W－45 号・46 号溝に切られている。　**規模・形態**：北から南方向に走り、17 m以上の長さが検出された。上幅 58cm・深さ 35cm ほどの規模で、断面はＵ字状である。　**埋没状態**：Ｂ軽石を多量に含む埋土であった。　**遺物**：なし。　**時期**：埋土から平安時代末から中世とみられる。

W－45 号溝跡　（第 13・18 図、ＰＬ．10・13）

位置：18 区中央部で検出された。　**重複**：W－44 号溝を切っている。　**規模・形態**：東西方向の走向で、上幅 70cm・深さ 43cm を計る。断面形はＵ字状である。走向や形態から、15 区W－51 号溝と連続するとみられる。**埋没状態**：埋土全体にやや多くＢ軽石を含んでいる。　**遺物**：なし。　**時期**：中世とみられる。

W－46 号溝跡　（第 13・18 図、ＰＬ．10・14）

位置：18 区中央部で検出された。　**重複**：W－44 号溝を切っている。　**規模・形態**：東西方向の走向で、上幅 2.22 m・深さ 42cm を計る。断面形は箱型で、底面中央付近は一段深くなる。底面には耕具痕の凹凸が目立つ。走向や形態から、15 区W－50 号溝と連続するとみられる。　**埋没状態**：埋土全体にＢ軽石を少量含んでいる。　**遺物**：なし。　**時期**：埋土の状況から中世以降とみられる。

W－47 号溝跡　（第 13・18 図、ＰＬ．10）

位置：17 区東側で検出された。　**重複**：なし。　**規模・形態**：北西から南東方向に走る。上幅 2.16 m・深さ 38cm の規模で、断面形は皿状を呈する。　**埋没状態**：埋土の上部にＡ軽石を少量含んでいる。　**遺物**：なし。　**時期**：埋土の状況から近世以降とみられる。

W－48 号溝跡　（第 13・18 図、ＰＬ．10）

位置：20 区中央部で検出された。　**重複**：なし。　**規模・形態**：東西方向の走向で、上幅が 1.25 m・深さ 25cm の規模で、断面形は皿状を呈する。　**埋没状態**：埋土中にはＢ軽石を少量含んでいる。　**遺物**：混入とみられる

土師器高坏と坏の小片が出土している。　**時期**：埋土の状況から中世以降とみられる。

W −49 号溝跡　（第 13・18 図、ＰＬ．10・14）

位置：17 区と 20 区の境で検出された。　**重複**：なし。　**規模・形態**：北東の微高地から南西側の緩傾斜地に変換する地点を、北西から南東方向に走っている。規模は上幅 52cm、深さ 14cm で、断面形はＵ字状である。　**埋没状態**：Ｈｒ－ＦＡ層が直接全体を覆っており、さらに上部にも厚く堆積していた。　**遺物**：なし。　**時期**：古墳後期である。

W −50 号溝跡　（第 13・18 図、ＰＬ．10・14）

位置：15 区の北辺部で検出された。　**重複**：ＦＡ埋没の水田跡を切っている。　**規模・形態**：東西方向に走る。検出面がⅨ層であったため小規模に見えるが、本来は上幅 2.02 ｍ・深さ 52cm ほどある。断面形は箱型の底面中央に一段深く溝が走る形である。形態や規模などから、W −46 号溝と連続するものとみられる。　**埋没状態**：最上部にＡ軽石を含む埋土である。　**遺物**：なし。　**時期**：埋土から近世以降とみられる。

W −51 号溝跡　（第 13・18 図、ＰＬ．10・14）

位置：15 区の北側で検出された。　**重複**：ＦＡ埋没の水田跡を切っている。　**規模・形態**：東西方向に走り、上幅は 85cm、深さは 50cm ほどで、断面形はＵ字状である。走向や規模・形態から、W −45 号溝と連続するとみられる。　**埋没状態**：埋土全体にＢ軽石を含んでいる。　**遺物**：なし。　**時期**：中世とみられる。

W −52 号溝跡　（第 14・19 図、ＰＬ．９・14）

位置：３区北半部から、２区南半部、４区東端付近にかけて 51 ｍの間で検出された。　**重複**：なし。　**規模・形態**：北西から南東方向に走る。北東側がＸ層の地形が高くなっており、北西側の緩傾斜面に移行する変換点を走っている。形状は不整形であるが走行はほぼ直線的である。最大規模は、上幅 1.4 ｍ、深さ 14cm で、断面形も不整な浅い皿状である。　**埋没状態**：Ｈｒ－ＦＡ層で直接埋没しており、さらに上部にもその堆積が見られた。　**遺物**：なし。　**時期**：古墳後期である。

W −53 号溝跡　（第 14・19 図、ＰＬ．９・14）

位置：３区南半から４区中央付近にかけて、21 ｍの間で検出された。　**重複**：なし。　**規模・形態**：北西から南東方向に走る。規模は上幅 35cm・深さ 16cm で、断面形はＵ字状である。　**埋没状態**：埋土はＦＡ粒をわずかに含む暗灰褐色土であった。　**遺物**：なし。　**時期**：埋土の状況から奈良時代頃とみられる。

W −54 号溝跡　（第 14・19 図、ＰＬ．９・14・15）

位置：３区北端部から２区の北辺にかけて 26 ｍほどの間で検出された。　**重複**：W −56 号溝に切られている。　**規模・形態**：北西～南東の走向　で、規模は上幅 68cm・深さ 38cm である。断面は逆台形を呈する。　**埋没状態**：埋土中にＡ軽石を含む。　**遺物**：混入とみられる土師器小型甕の破片（第 25 図－ 15）が埋土上部から出土したほか、高坏裾部の小片が出土している。　**時期**：埋土の状況から近世以降とみられる。

W −55 号溝跡　（第 14・19 図、ＰＬ．９・14）

位置：２区北辺部分で検出された。　**重複**：W −58 号溝を切っている。　**規模・形態**：北西から南東に走り、規模は上幅 56cm・深さ 38cm で、断面形は逆台形である。　**埋没状態**：埋土の上部にはＡ軽石を少量含んでいる。

下部には水成の堆積層が認められ、水路とみられる。　**遺物**：なし。　**時期**：近世以後とみられる。

W－56 号溝跡　（第 14・19 図、ＰＬ．９・14・15）

位置：２区北辺部分で検出された。　**重複**：W－54 号・57 号溝を切っている。　**規模・形態**：北西～南東の走向で、上幅は 60cm ほどあったとみられ、深さは 44cm を計る。断面形はU字状に二段掘りになり、重複の可能性もある。　**埋没状態**：埋土上部にA軽石を少量含んでいる。　**遺物**：最上層から馬の顎骨が出土したほか、混入とみられる土師器の破片数点が出土している。　**時期**：近世以後とみられる。

W－57 号溝跡　（第 14・19 図、ＰＬ．９・14・15）

位置：２区北辺部分で検出された。　**重複**：W－56 号溝に切られている。　**規模・形態**：北西～南東の走向で、上幅は 70cm ほど、深さは 36cm を計る。断面形はU字状である。中央部で南側へ直角に伸びる枝溝が検出され、内部には人頭大ほどの礫が２点落ち込んでいた。枝溝の先は大規模な攪乱で失われていた。　**埋没状態**：埋土の最下層はＦＡ洪水土で、途中にも多量に含まれている。　**遺物**：埋土中から土師器鉢の破片（第 25 図－ 16）と、高坏脚部の小片が出土している。　**時期**：埋土の状況から古墳後期とみられる。

W－58 号溝跡　（第 14・19 図、ＰＬ．９・14）

位置：２区北端部で検出された。　**重複**：W－55 号溝に切られている。　**規模・形態**：北西～南東方向の走向で、一部分のみの検出のため本来の規模は不明である。検出部分からは、上幅が１m以上・深さ 50cm 以上の規模であることが知られた。　**埋没状態**：ＦＡ洪水層で直接覆われている。　**遺物**：なし。　**時期**：古墳後期である。

W－59 号溝跡　（第 14・19 図、ＰＬ．９・12）

位置：５区の北半で検出された。　**重複**：ＦＡ下水田跡を切っている。　**規模・形態**：北西から南東方向に直線的に走る。最大部で上幅が 2.2 m、深さは 72cm の規模で、断面形は皿状である。　**埋没状態**：底面上には互層状に流砂層がみられ、水路であったとみられる。埋土上部にはB軽石を多量に含んでいる。　**遺物**：なし。　**時期**：埋土の状況から中世とみられる。

W－60 号溝跡　（第 14・20 図、ＰＬ．９・15）

位置：５区南半付近で検出された。　**重複**：なし。　**規模・形態**：東西方向にやや弧状に走る。走向からみて、６区B下調査面で検出されたW－34 号溝の連続部分とみられる。また、同形・同規模のW－61 号溝とも関連があるとみられる。規模は、上幅 40cm で、深さは３cm ほどの残存状況であった。断面形は皿状である。　**埋没状態**：底面付近のみであるが、B軽石が多量に見られる。　**遺物**：なし。　**時期**：中世とみられる。

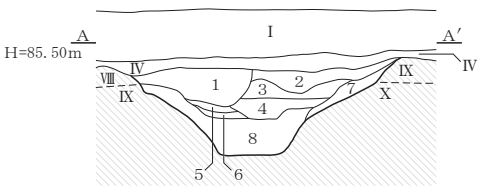
W－61 号溝跡　（第 14・20 図、ＰＬ．９・15）

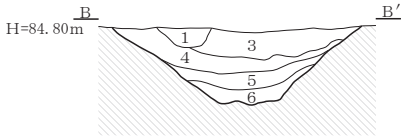
位置：５区南側で検出された。　**重複**：なし。　**規模・形態**：南北方向の走向で、W－27 号溝の東辺と並行する。規模は上幅 40cm・深さ７cm ほどで、断面形は皿状に近い。　**埋没状態**：W－60 号溝と同じで、B軽石が多量に含まれる。　**遺物**：なし。　**時期**：中世とみられる。

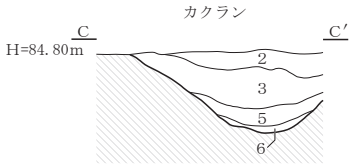
W－62 号溝跡　（第 14・20 図、ＰＬ．９・15）

位置：７区を南北に縦断するように 96.5 mの距離で検出された。　**重複**：W－26 号溝がほぼ全体に重複し、W－27 号溝、D－７号土坑にも切られている。　**規模・形態**：北から南方向に走る。北端部は掘削が深過ぎたため

W-27 号溝







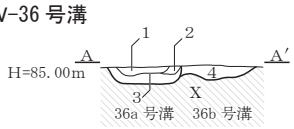
W-27 号溝

1　灰褐色土　　Ａｓ－Ｂφ0.2㎝中量、Ａｓ－Ａφ0.2cm・鉄分少量含む。しまり弱。粘性弱。
2　灰黄褐色土　鉄分中量、Ａｓ－Ａφ0.2cm・Ａｓ－Ｂφ0.2cm少量含む。しまりややあり。粘性弱。
3　暗灰褐色土　Ｈｒ－ＦＡ洪水土中量、Ａｓ－Ｂφ0.2cm・鉄分少量含む。しまりやや弱。粘性弱。
4　暗灰褐色土　鉄分多量、Ａｓ－Ｂφ0.2cm少量、Ａｓ－Ａφ0.2cm微量含む。しまりややあり。
　　粘性やや弱。
5　灰黄褐色土　Ｈｒ－ＦＡ洪水土多量、鉄分少量、Ａｓ－Ｂφ0.2cm微量含む。しまりやや弱。粘性弱。
6　暗灰褐色土　鉄分多量、Ａｓ－Ｂφ0.2cm微量含む。しまりやや弱。粘性弱。
7　灰褐色土　　鉄分中量、Ａｓ－Ｂφ0.2cm微量含む。しまり強。粘性ややあり。
8　灰褐色土　　鉄分少量、Ａｓ－Ａφ0.2cm・Ａｓ－Ｂφ0.2cm微量含む。しまりあり。粘性やや弱。

W27- 号溝（B-B′・C-C′）

1　暗灰褐色土　Ａｓ－Ｂφ0.2cm・Ｈｒ－ＦＡ洪水土少量含む。しまり・粘性ややあり。
2　灰褐色土　　Ａｓ－Ｂφ0.2cm・砂粒中量含む。しまりやや弱。粘性なし。
3　暗茶褐色土　Ａｓ－Ｂφ0.2cm少量、Ａｓ－Ｃφ0.2cm微量含む。しまり・粘性やや弱。
　　Ⅳ層ブロックとＡｓ－Ｂ混土ブロック。
4　暗褐色土　　Ａｓ－Ｂφ0.2cm多量、砂粒中量、Ｈｒ－ＦＡ洪水土・Ａｓ－Ｃφ0.2cm・
　　黒色粘質土微量含む。しまりややあり。粘性やや弱。
5　灰褐色土　　鉄分多量含む。しまりあり。粘性強。
6　暗灰褐色土　鉄分中量、Ａｓ－Ｂφ0.2cm微量含む。しまり・粘質強。

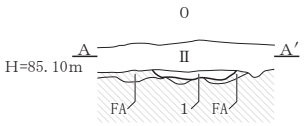
W-36 号溝



W-36 号溝

1　灰黄褐色土　Ｈｒ－ＦＡ洪水土・砂粒中量、Ｈｒ－ＦＡ軽石微量含む。しまりややあり。粘性ややあり。W-36a。
2　暗灰褐色土　黒色粘質土多量、Ｈｒ－ＦＡ洪水土中量、Ａｓ－Ｃφ0.2cm微量含む。しまりややあり。粘性やや弱。W-36a。
3　灰褐色土　　砂粒多量、Ｈｒ－ＦＡ洪水土中量含む。しまりやや弱。粘性ややあり。W-36a。
4　灰褐色土　　Ｈｒ－ＦＡ洪水土多量、黒色粘質土中量、Ｈｒ－ＦＡ軽石少量含む。しまりややあり。粘性やや弱。W-36b。

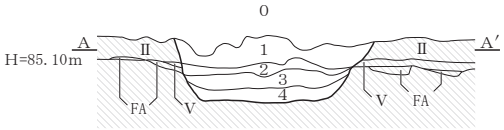
W-37 号溝



W-37 号溝

1　暗灰褐色土　Ｈｒ－ＦＡ洪水土中量、Ａｓ－Ｂφ0.2cm・
　　Ｈｒ－ＦＡ軽石微量含む。しまりややあり。粘性弱。

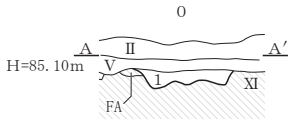
W-38 号溝



W-38 号溝

1　黒褐色土　　黒色粘質土多量、Ｈｒ－ＦＡ洪水土中量、Ａｓ－Ａφ0.2cm・Ａｓ－Ｂφ0.2cm・
　　Ａｓ－Ｃφ0.2cm微量含む。しまりあり。粘性あり。
2　灰褐色土　　Ａｓ－Ｃφ0.2cm多量、Ｈｒ－ＦＡ軽石少量、Ａｓ－Ａφ0.2cm・鉄分微量含む。
　　しまりややあり。粘性ややあり。
3　灰褐色土　　Ａｓ－Ｂφ0.2cm中量、Ｈｒ－ＦＡ軽石少量含む。しまりややあり。粘性弱。
4　暗灰褐色土　Ｈｒ－ＦＡ軽石・Ａｓ－Ｃφ0.2cm少量含む。しまり弱。粘性弱。

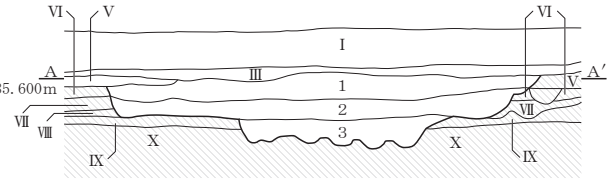
W-39 号溝



W-39 号溝

1　暗灰褐色土　Ｈｒ－ＦＡ洪水土ブロック・黒色粘質土多量、Ａｓ－Ｃφ0.2cm中量含む。
　　しまり弱。粘性弱。人為的埋め戻し？

W-40 号溝



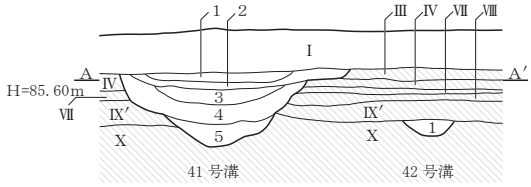
W-40 号溝

1　暗灰褐色土　Ａｓ－Ｂφ0.2cm・黒色粘質土・鉄分少量含む。
　　しまりややあり。粘性弱。
2　灰褐色土　　Ａｓ－Ｂφ0.2cm・鉄分少量含む。しまりややあり。
　　粘性やや弱。
3　暗灰褐色土　Ｈｒ－ＦＡ洪水土中量、Ａｓ－Ｂφ0.2cm・黒色粘質土・
　　鉄分少量含む。しまりあり。粘性やや弱。

W-41 号溝

1　暗灰褐色土　Ａｓ－Ｂφ0.2cm・鉄分少量、Ａｓ－Ａφ0.2cm微量含む。しまりあり。
　　粘性ややあり。
2　灰黄褐色土　Ａｓ－Ｂφ0.2cm・鉄分中量含む。しまりややあり。粘性やや弱。
3　灰褐色土　　鉄分少量、Ａｓ－Ａφ0.2cm・Ａｓ－Ｂφ0.2cm・Ａｓ－Ｃφ0.2cm・
　　黒色粘質土微量含む。しまりやや弱。粘性やや弱。
4　暗灰褐色土　黒色粘質土中量、Ａｓ－Ｂφ0.2cm・Ｈｒ－ＦＡ軽石微量含む。
　　しまりややあり。粘性ややあり。
5　灰茶褐色土　Ｈｒ－ＦＡ洪水土少量、Ａｓ－Ｂφ0.2cm・黒色粘質土微量含む。
　　しまりややあり。粘性ややあり。

W-41・42 号溝



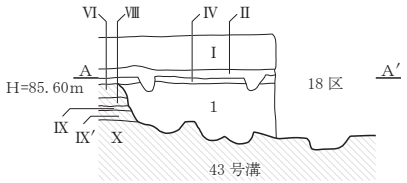
W-42 号溝

1　灰茶褐色土　Ｈｒ－ＦＡ洪水土少量、Ａｓ－Ｃφ0.2cm・黒色粘質土微量含む。しまりあり。
　　粘性ややあり。

0　1　2m
1:60

第 17 図　W -27 号、36 号～ 42 号溝跡

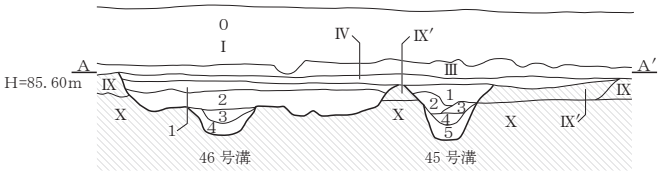
W-43 号溝



W-43 号溝

1　灰褐色土　Ａｓ－Ｂφ0.2cm 中量、黒色粘質土・鉄分少量、Ｈｒ－ＦＡ洪水土・Ａｓ－Ｃφ0.2cm・砂粒微量含む。しまりややあり。粘性ややあり。

W-45・46 号溝



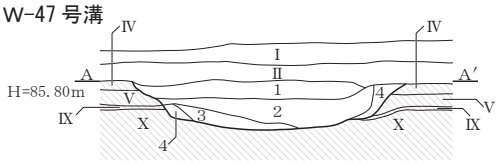
W-45 号溝

1　暗灰褐色土　Ａｓ－Ｂφ0.2cm・Ｈｒ－ＦＡ洪水土中量、Ａｓ－Ｃφ0.2cm・黒色粘質土・鉄分微量含む。しまりやや弱。粘性やや弱。
2　暗褐灰色土　Ａｓ－Ｂφ0.2cm 多量、Ｈｒ－ＦＡ洪水土少量含む。しまり弱。粘性なし。
3　褐灰色土　Ａｓ－Ｂφ0.2cm 中量、Ｈｒ－ＦＡ洪水土少量含む。しまり弱。粘性弱。
4　灰茶褐色土　Ａｓ－Ｂφ0.2cm・Ｈｒ－ＦＡ洪水土微量含む。しまりややあり。粘性ややあり。
5　暗灰茶褐色土　Ｈｒ－ＦＡ洪水土・鉄分少量、Ａｓ－Ｂφ0.2cm・Ａｓ－Ｃφ0.2cm 微量含む。しまりあり。粘性あり。

W-46 号溝

1　暗灰褐色土　鉄分中量、Ａｓ－Ｂφ0.2cm 少量、Ｈｒ－ＦＡ洪水土微量含む。しまりややあり。粘性あり。
2　灰褐色土　Ａｓ－Ｂφ0.2cm・Ｈｒ－ＦＡ洪水土・黒色粘質土微量含む。しまりあり。粘性あり。
3　暗灰褐色土　Ａｓ－Ｂφ0.2cm 中量、Ｈｒ－ＦＡ洪水土・Ａｓ－Ｃφ0.2cm 微量含む。しまりやや弱。粘性やや弱。
4　暗褐色土　Ｈｒ－ＦＡ洪水土少量、Ａｓ－Ｂφ0.2cm 微量含む。しまりあり。粘性ややあり。

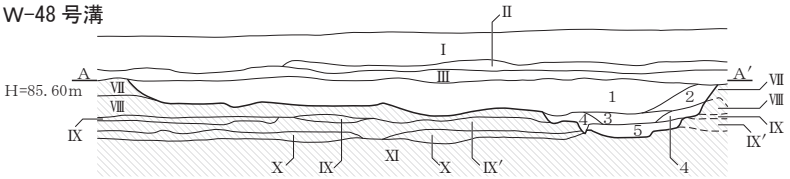
W-47 号溝



W-47 号溝

1　灰茶褐色土　鉄分中量、Ａｓ－Ａφ0.2cm・Ａｓ－Ｂφ0.2cm 微量含む。しまり・粘性ややあり。
2　灰褐色土　Ａｓ－Ｂφ0.2cm・鉄分少量含む。しまり・粘性ややあり。
3　灰褐色土　鉄分中量、Ａｓ－Ｂφ0.2cm・Ｈｒ－ＦＡ洪水土・黒色粘質土微量含む。しまりやや弱。粘性ややあり。
4　暗灰褐色土　Ａｓ－Ｂφ0.2cm・Ｈｒ－ＦＡ洪水土・黒色粘質土微量含む。しまり・粘性やや弱。

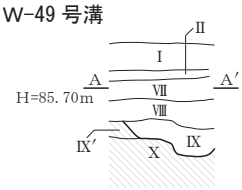
W-48 号溝



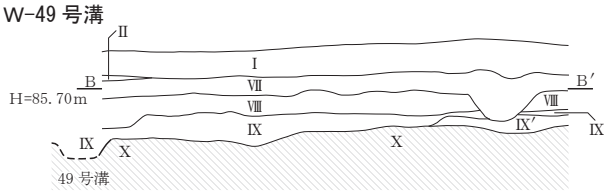
W-48 号溝

1　灰褐色土　Ａｓ－Ｂφ0.2cm・鉄分少量、黒色粘質土微量含む。しまり・粘性ややあり。
2　暗褐色土　Ａｓ－Ｂφ0.2cm 多量、Ｈｒ－ＦＡφ洪水土微量含む。しまりやや弱。粘性なし。
3　暗灰黄褐色土　Ａｓ－Ｂφ0.2cm 少量、Ｈｒ－ＦＡ洪水土・黒色粘質土微量含む。しまり・粘性ややあり。
4　暗茶褐色土　Ｈｒ－ＦＡ洪水土中量、Ａｓ－Ｂφ0.2cm 微量含む。しまりやや弱。粘性ややあり。
5　暗灰褐色土　Ｈｒ－ＦＡ洪水土中量、Ａｓ－Ｂφ0.2cm 微量含む。しまり・粘性ややあり。

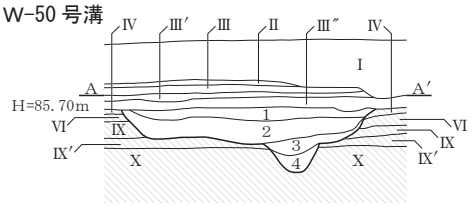
W-49 号溝



W-49 号溝



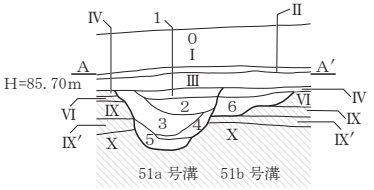
W-50 号溝



W-50 号溝

1　灰黄褐色土　Ａｓ－Ａφ0.2cm 微量含む。しまり・粘性やや弱。Ⅳ層土多量。
2　灰褐色土　Ｈｒ－ＦＡ洪水土少量、Ａｓ－Ｂφ0.2cm・鉄分微量含む。しまり・粘性ややあり。
3　暗灰褐色土　Ａｓ－Ｂφ0.2cm・Ｈｒ－ＦＡ洪水土少量含む。しまり・粘性ややあり。
4　暗灰褐色土　Ａｓ－Ｂφ0.2cm・Ｈｒ－ＦＡ軽石微量含む。しまり・粘性あり。

W-51 号溝



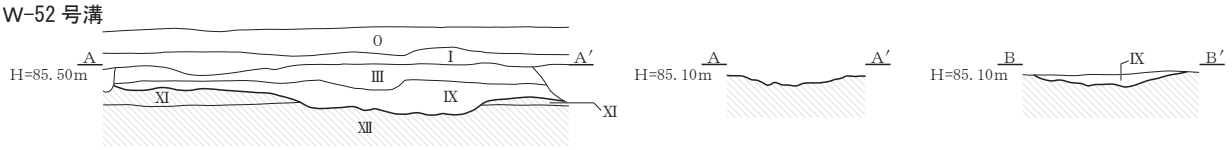
W-51 号溝

1　灰黄褐色土　Ａｓ－Ｂφ0.2cm 中量含む。しまりやや弱。粘性弱。W-51a。
2　灰褐色土　Ａｓ－Ｂφ0.2cm 中量、Ｈｒ－ＦＡ洪水土・黒色粘質土微量含む。しまりややあり。粘性弱。W-51a。
3　灰褐色土　Ａｓ－Ｂφ0.2cm 中量、Ｈｒ－ＦＡ洪水土少量含む。しまりややあり。粘性やや弱。W-51a。
4　暗灰黄褐色土　Ａｓ－Ｂφ0.2cm 中量含む。しまり・粘性やや弱。W51a 溝。
5　灰茶褐色土　Ｈｒ－ＦＡ洪水土多量、黒色粘質土中量、Ａｓ－Ｂφ0.2cm 少量含む。しまり・粘性ややあり。W-51a。
6　黒褐色土　Ａｓ－Ｂφ0.2cm 少量、黒色粘質土微量含む。しまり・粘性あり。W-51ｂ。

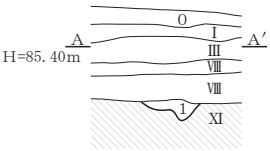
0　1　2m
1:60

第 18 図　W -43 号、45 号～ 51 号溝跡

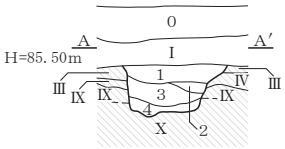
W-52 号溝



W-53 号溝



W-54 号溝



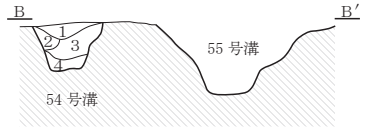
W-53 号溝

1　暗灰褐色土　黒色粘質土・鉄分少量、Ａｓ－Ｂφ0.2cm・Ｈｒ－ＦＡ洪水土微量含む。しまり・粘性あり。

W-54 号溝（A-A′）

1　灰黄褐色土　Ａｓ－Ｂφ0.2cm・Ｈｒ－ＦＡ洪水土微量含む。しまりやや弱。粘性ややあり。
2　灰褐色土　Ａｓ－Ｂφ0.2cm微量含む。しまり・粘性やや弱。
3　暗灰黄褐色土　Ａｓ－Ｂφ0.2cm・Ｈｒ－ＦＡ洪水土微量含む。しまり・粘性ややあり。
4　暗灰黄褐色土　Ｈｒ－ＦＡ洪水土少量、黒色粘質土微量含む。しまりあり。粘性ややあり。

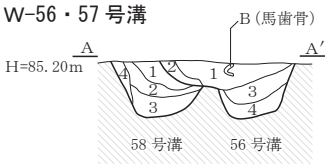
W-54 号・55 号溝



W-54 号溝（B-B′）

1　灰黄褐色土　Ａｓ－Ａφ0.2cm・Ｈｒ－ＦＡ洪水土・黒色粘質土微量含む。しまりややあり。粘性やや弱。
2　暗灰褐色土　黒色粘質土少量含む。しまりややあり。粘質やや弱。
3　灰茶褐色土　Ｈｒ－ＦＡ洪水土・鉄分少量、Ａｓ－Ａφ0.2cm・Ｈｒ－ＦＡ軽石・黒色粘質土微量含む。しまりあり。粘性ややあり。
4　灰褐色土　しまり・粘性あり。

W-56・57 号溝



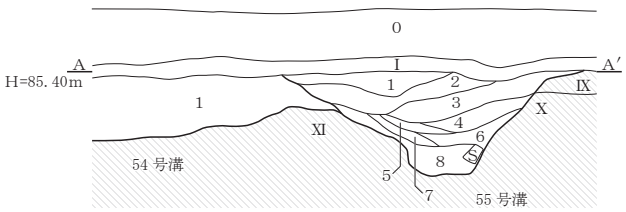
W-56 号溝

1　暗灰褐色土　Ａｓ－Ａφ0.2cm・Ｈｒ－ＦＡ軽石・黒色粘質土微量含む。しまりややあり。粘性やや弱。別の溝か？
2　暗灰黄褐色土　黒色粘質土少量、Ａｓ－Ａφ0.2cm・Ｈｒ－ＦＡ軽石微量含む。しまりややあり。粘性やや弱。別の溝か？
3　暗灰褐色土　Ｈｒ－ＦＡ洪水土少量、Ａｓ－Ｃφ0.2cm・黒色粘質土・鉄分微量含む。しまりあり。粘性ややあり。
4　明褐色土　Ｈｒ－ＦＡ洪水土・軽石中量、Ａｓ－Ｃφ0.2cm少量含む。しまり・粘性あり。

W-57 号溝

1　暗茶褐色土　Ｈｒ－ＦＡ洪水土多量、黒色粘質土少量、Ａｓ－Ｃφ0.2cm微量含む。しまり・粘性ややあり。
2　灰褐色土　Ｈｒ－ＦＡ洪水土中量、Ａｓ－Ｃφ0.2cm少量含む。しまりややあり。粘性あり。
3　灰白色土　Ｈｒ－ＦＡ洪水土中にＡｓ－Ｃφ0.2cm微量含む。しまりあり。粘性なし。
4　暗灰褐色土　黒色粘質土多量、Ｈｒ－ＦＡ軽石微量含む。しまりあり。粘性やや弱。

W-55・58 号溝



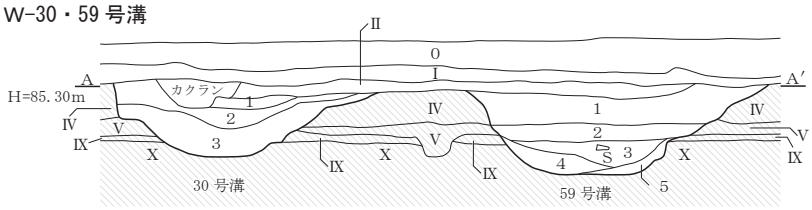
W-55 号溝

1　灰茶褐色土　Ｈｒ－ＦＡ洪水土少量、Ａｓ－Ａφ0.2cm・Ａｓ－Ｂφ0.2cm微量含む。しまりややあり。粘性やや弱。
2　灰褐色土　Ａｓ－Ａφ0.2cm少量、Ａｓ－Ｂφ0.2cm・Ｈｒ－ＦＡ軽石・黒色粘質土微量含む。　しまりややあり。粘質やや弱。
3　暗灰褐色土　Ａｓ－Ａφ0.2cm・Ａｓ－Ｃφ0.2cm・黒色粘質土少量、Ｈｒ－ＦＡ軽石微量含む。しまりややあり。粘質やや弱。
4　暗灰茶褐色土　鉄分少量、Ａｓ－Ｃφ0.2cm微量含む。しまり・粘性ややあり。
5　灰褐色土　鉄分少量含む。しまり・粘性あり。
6　黒褐色土　Ａｓ－Ｃφ0.2cm少量、Ｈｒ－ＦＡ軽石微量含む。しまりあり。粘性ややあり。
7　灰褐色土　Ｈｒ－ＦＡ軽石少量、鉄分微量含む。しまり・粘性あり。
8　灰黄褐色土　Ｈｒ－ＦＡ洪水土・鉄分中量含む。黒色粘質土少量含む。しまり・粘性あり。

W-58 号溝

1　灰褐色土　Ｈｒ－ＦＡ洪水土多量、黒色粘質土微量含む。しまりややあり。粘性弱。Ｈｒ－ＦＡ二次堆積土。

W-30・59 号溝



W-30 号溝

1　青灰褐色土　Ａｓ－Ａφ0.2cm・Ａｓ－Ｂφ0.2cm・鉄分微量含む。しまり・粘性やや弱。
2　暗灰褐色土　鉄分少量、Ａｓ－Ａφ0.2cm・Ａｓ－Ｂφ0.2cm・Ｈｒ－ＦＡ洪水土微量含む。しまりあり。粘性ややあり。
3　灰褐色土　鉄分多量、Ｈｒ－ＦＡ洪水土・Ａｓ－Ｃφ0.2cm・黒色粘質土微量含む。しまり・粘性あり。

W-59 号溝（A-A′）

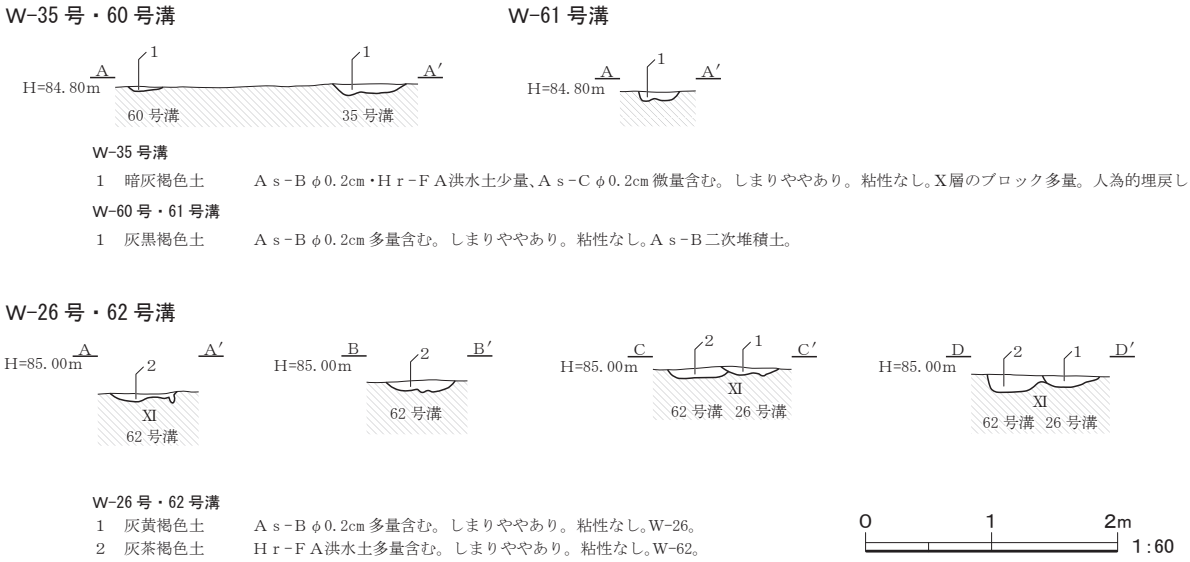
1　青灰褐色土　Ａｓ－Ｂφ0.2cm多量、鉄分中量、Ａｓ－Ａφ0.2cm微量含む。しまりややあり。粘性やや弱。
2　暗灰褐色土　Ａｓ－Ｂφ0.2cm・鉄分多量含む。しまりあり。粘性やや弱。
3　暗灰褐色土　鉄分中量、Ａｓ－Ｂφ0.2cm少量含む。しまりあり。粘性ややあり。
4　褐色土　Ａｓ－Ｂφ0.2cm・Ｈｒ－ＦＡ洪水土・砂粒・鉄分中量、黒色粘質土微量含む。しまりあり。粘性やや弱。
5　暗茶褐色土　Ｈｒ－ＦＡ洪水土多量、黒色粘質土少量、Ａｓ－Ｂφ0.2cm微量含む。しまり・粘性あり。

W-59 号溝（B-B′）

1　灰褐色土　鉄分少量含む。しまりややあり。粘性やや弱。
2　褐色土　Ａｓ－Ｂφ0.2cm多量、砂粒少量、鉄分微量含む。しまりあり。粘性やや弱。
3　黒褐色土　Ａｓ－Ｂφ0.2cm・Ｈｒ－ＦＡ洪水土・砂粒中量、鉄分微量含む。しまりあり、粘性やや弱。
4　暗灰黄褐色土　Ｈｒ－ＦＡ洪水土多量、砂粒中量、Ａｓ－Ｂφ0.2cm・黒色粘質土・鉄分少量含む。しまりあり。粘性ややあり。

0　1　2m
1:60

第 19 図　Ｗ－30 号、52 号～ 59 号溝跡



第 20 図　Ｗ -26 号、35 号、60 号～ 62 号溝跡

失われているが、調査区北壁でさらに北へ連続することを確認している。最大部の上幅 98cm・深さ 18cm で、断面形はU字状である。　**埋没状態**：ＦＡ洪水土を主とする埋土である。　**遺物**：なし。　**時期**：古墳後期から奈良時代頃とみられる。

４　土　坑

Ｄ－２号土坑　（第 13・21 図、ＰＬ．15）

位置：18 区北半部で検出された。　**重複**：なし。　**規模・形態**：南北に長い楕円形とみられ、長径が 1.83 ｍ、短径は１ｍ以上であったとみられる。深さは 44cm ほどで、断面形は擂り鉢状である。　**埋没状態**：底面には拳大前後の礫が、多量の砂粒とともに流れ込んだ状況で検出された。Ｂ軽石の混入も認められた。　**遺物**：混入とみられる土師器・須恵器・陶器の細片が少量出土している。　**時期**：埋土の状況から中世以後とみられる。

Ｄ－３号土坑　（第 14・22 図、ＰＬ．９・15）

位置：５・６区の北東部分で検出された。　**重複**：なし。　**規模・形態**：東西に長い楕円形で、上部がさらに西側に張り出す。長径は 1.15 ｍ、深さ 40cm で、断面形は円錐形状を呈する。　**埋没状態**：Ⅷ層に黒色粘質土が混じる埋土で、ＦＡ粒の混入が見られた。　**遺物**：土師器坏の半欠品（第 25 図土坑出土遺物１）が出土している。**時期**：埋土や出土遺物から奈良時代頃とみられる。

Ｄ－４号土坑　（第 14・22 図、ＰＬ．９）

位置：５・６区の南側で検出された。　**重複**：なし。　**規模・形態**：径 90cm ほどの円形で、深さは 40cm を計る。断面形は円錐形である。　**埋没状態**：Ⅷ層由来の灰褐色粘質土で埋没している。　**遺物**：なし。　**時期**：埋土やＤ－３号土坑とほぼ同形・同規模であることから、奈良時代頃とみられる。

Ｄ－５号土坑　（第 14・22 図、ＰＬ．９・16）

位置：７区北側で検出された。　**重複**：なし。　**規模・形態**：平面・断面形とも不定形で、規模は最長部で 1.57 ｍ、最深部が 20cm ほどを計り、皿状の断面形である。　**埋没状態**：埋土はＦＡ洪水土に由来するとみられる灰

黄褐色砂質土であった。　**遺物**：土師器・須恵器の細片が少量出土している。　**時期**：埋土の状況から古墳時代後期頃とみられる。

Ｄ－６号土坑　（第 14・22 図、ＰＬ．９・16）

位置：７区北端付近で検出された。　**重複**：なし。　**規模・形態**：平面・断面形とも不定形で、最長部が 1.65 m、最深部は 25cm を計る。　**埋没状態**：埋土はＦＡ洪水土や砂粒などを多量に含んでいた。　**遺物**：なし。　**時期**：埋土の状況から古墳時代後期頃とみられる。

Ｄ－７号土坑　（第 14・22 図、ＰＬ．９・16）

位置：７区の中央部で検出された。　**重複**：Ｗ－62 号溝を切っている。　**規模・形態**：平面形はやや不定形な楕円状で、長径が 1.75 m、深さは 26cm ほどである。断面形も不定形な皿状である。　**埋没状態**：埋土はＦＡ洪水土に砂粒が多量に混入した層のみであった。　**遺物**：土師器の細片が少量出土している。　**時期**：埋土の状況から古墳時代後期頃とみられる。

Ｄ－８号土坑　（第 14・22 図）

位置：９区中央部で検出された。　**重複**：なし。　**規模・形態**：平面形は径 70cm ほどの円形とみられる。断面形は円錐形である。　**埋没状態**：ＦＡ粒をわずかに含むⅧ層由来の灰褐色粘質土で埋没している。　**遺物**：なし。　**時期**：埋土や形態はＤ－３号・４号土坑と同様であり、奈良時代頃とみられる。

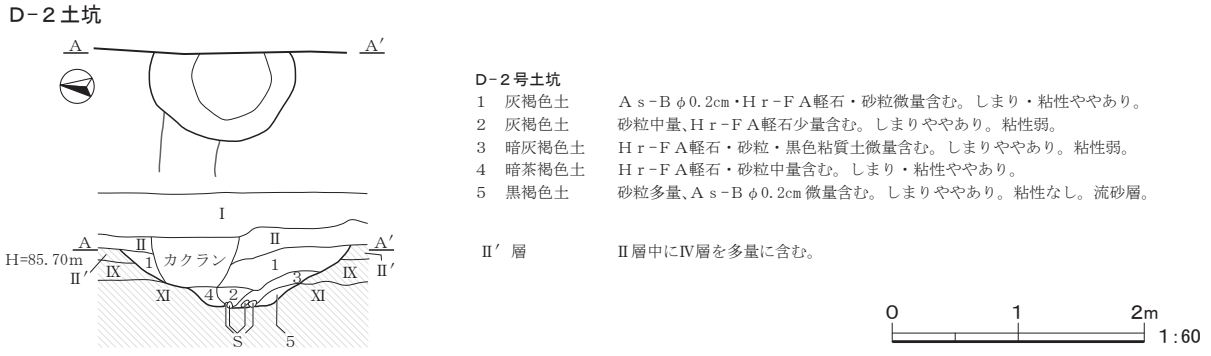
Ｄ－９号土坑　（第 14・22 図）

位置：７区中央部で検出された。　**重複**：なし。　**規模・形態**：平面は、長径が 66cm ほどの楕円形で、深さ 30cm を計る。断面形は円錐形を呈する。　**埋没状態**：Ⅷ層由来の灰褐色粘質土で埋没している。　**遺物**：なし。　**時期**：埋土や形態から、Ｄ－３号・４号・８号土坑と同じく奈良時代頃とみられる。

５　井戸跡

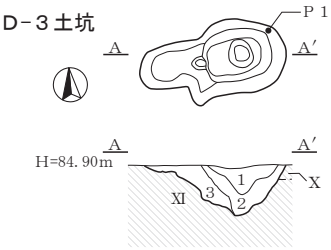
Ｉ－１号井戸跡　（第 14・22 図、ＰＬ．９・16）

位置：５・６区北東部分で検出された。　**重複**：なし。　**規模・形態**：直径 1.1 ～ 1.2 m、深さは 1.3 m弱の小規模な素掘りの井戸である。底面は平坦で、灰白色の粘土層中まで掘り込まれていた。　**埋没状態**：埋土中にはいずれもＢ軽石が混入している。またＦＡ層のブロックも多く、埋め戻されたとみられる状況であった。　**遺物**：底面から木片が出土している。　**時期**：埋土の状況から中世とみられ、南西に検出されたＷ－27 号溝（環濠屋敷跡）との関連が考えられる。



第 21 図　Ｄ－２号土坑

D－３土坑



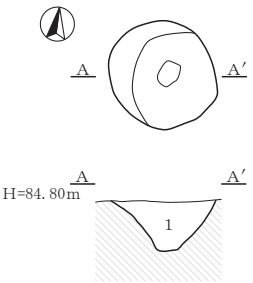
D－３号土坑

1　灰褐色土　鉄分中量、黒色粘質土少量、Ｈｒ－ＦＡ軽石微量含む。しまり・粘性あり。

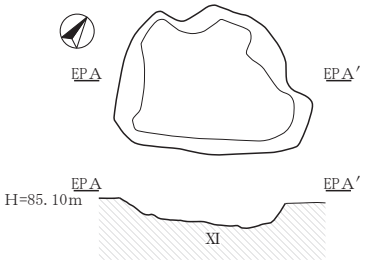
2　暗灰褐色土　１層のブロック多量、黒色粘質土ブロック中量、Ａｓ－Ｃφ0.2cm少量、Ｈｒ－ＦＡ軽石微量含む。しまりあり。粘性ややあり。

3　黒褐色土　黒色粘質土ブロック多量、１層少量、Ｈｒ－ＦＡ洪水土・Ａｓ－Ｃφ0.2cm微量含む。しまり・粘性あり。

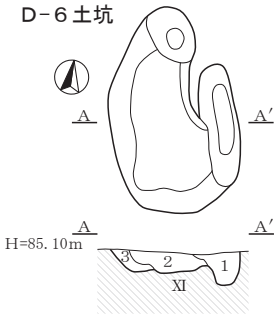
D－４土坑



D－５土坑



D－６土坑



D－４号土坑

1　灰褐色粘質土　鉄分中量、黒色粘質土少量、Ｈｒ－ＦＡ軽石微量含む。しまり・粘性強い。

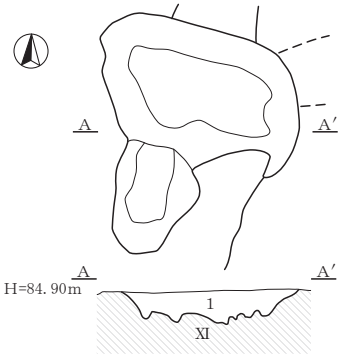
D－６号土坑

1　暗茶褐色土　Ｈｒ－ＦＡ洪水土多量含む。しまりあり。粘性あり。

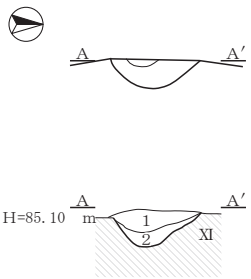
2　灰褐色土　砂粒・黒色粘質土・鉄分中量、Ｈｒ－ＦＡ洪水土少量含む。しまりややあり。粘性弱。

3　灰褐色土　砂粒多量含む。しまりあり。粘性なし。

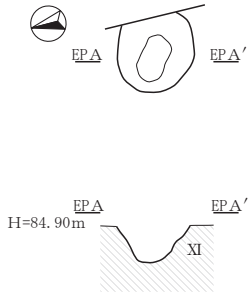
D－７土坑



D－８土坑



D－９土坑



D－７号土坑

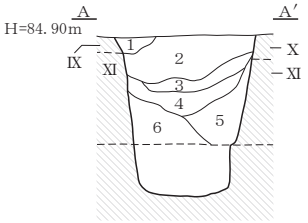
1　暗灰褐色土　Ｈｒ－ＦＡ洪水土多量、砂粒・鉄分中量含む。しまりややあり。粘性なし。

D－８号土坑

1　灰褐色土　Ａｓ－Ｃφ0.2cm・鉄分少量、Ｈｒ－ＦＡ微量含む。しまりあり。粘性ややあり。

2　青灰褐色土　黒色粘質土少量、Ａｓ－Ｃφ0.2cm微量含む。しまり・粘性ややあり。

Ｉ－１



Ｉ－１号井戸

1　灰黄褐色土　Ｈｒ－ＦＡ洪水土多量、黒色粘質土ブロック少量含む。しまり・粘性やや弱。

2　灰褐色土　Ａｓ－Ｂφ0.2cm中量、Ｈｒ－ＦＡ洪水土ブロック少量含む。しまり・粘性ややあり。

3　灰褐色土　Ａｓ－Ｂφ0.2cm・Ｈｒ－ＦＡ洪水土ブロック少量含む。しまり・粘性ややあり。

4　暗灰褐色土　Ｈｒ－ＦＡ洪水土ブロック少量、Ａｓ－Ｂφ0.2cm微量含む。しまり・粘性あり。

5　暗灰褐色土　Ａｓ－Ｂφ0.2cm・Ｈｒ－ＦＡ洪水土少量含む。しまり・粘性あり。

6　褐色土　Ｈｒ－ＦＡ洪水土ブロック多量、Ａｓ－Ｂφ0.2cm中量含む。しまりあり。粘性ややあり。

0　1　2m
1:60

第22図　Ｄ－３号～９号土坑、Ｉ－１号井戸

６　遺物包含層

２区（古墳時代中期）（第 14・23 図、ＰＬ．14）

２区では、北半部でＸ層（Ａｓ－Ｃ混黒褐色土層）の面が微高地状に高く、南半部にかけて緩やかに傾斜している地形であった。南半部にはⅨ層（Ｈｒ－ＦＡ層）とＸ層との間に 20cm 弱ほどの厚さで、鉄分の沈着が顕著な黒褐色土層が見られ、この層中から土器片がまとまって出土した。第 25 図包含層出土遺物１～４はこの黒褐色土層中からの出土であり、５・６は北のＸ層上面での出土である。

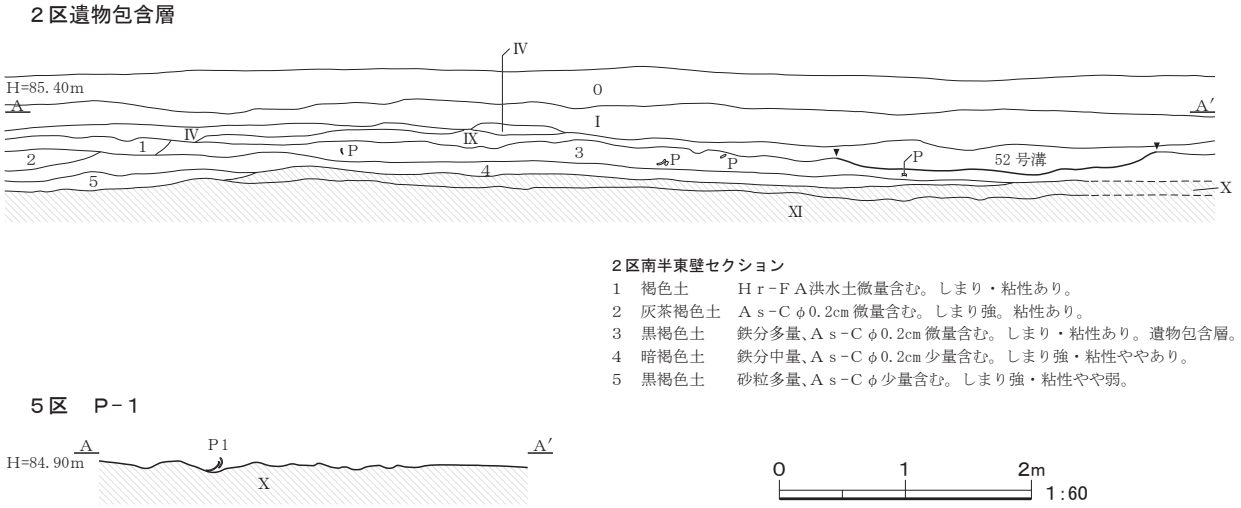
17 区（古墳時代中期）（第 13 図、ＰＬ．16）

17 ～ 20 区の調査区では、Ⅸ層と、Ｘ層あるいは XI 層（黒褐色土層）との間に洪水堆積層とみられるⅨ′層（灰褐色粘質土層）の堆積が認められた。17 区の中央部は表土層直下がＸ層となっていて、北側からの微高地地形が続いており、この東側と西側は傾斜面となっていた。Ⅸ′層は 17 ～ 20 区の調査区でのみ認められ、特に 17 区の西側傾斜面では土器片が多量に出土した。土器はいずれも破片で、完形に復元できるものはなかった。また、17 区以外ではⅨ′層からの土器の出土はなかった。これらの土器はＸ層の面が微高地状に残る 17 区中央部、及びその北方からの流れ込みと考えられた。なお、17 区中央部の調査範囲内では住居跡などの遺構は認められなかった。

第 26 図７～ 14 の土器は西側斜面から、15 は中央部のＸ層上面からの出土である。16 は東側斜面からで、ここではⅨ′層の下部は XI 層（黒褐色土層）となっていた。17 は 18 区Ｄ－２号土坑の南から出土した。

５区（奈良時代）（第 14・23 図、ＰＬ．16）

北東隅部で検出された。Ⅷ層とみられる灰褐色の粘質土層中から第 26 図 18 の土師器坏の完形品が出土した。周辺一帯はⅨ層上面に凹凸が目立ち、本遺物もこの中のやや大きめのくぼみから出土している。南に近接してＫ－３号土坑が存在し、やはり土師器坏の破片が出土していることもあり、周囲を含め精査したがほかに遺構や遺物は確認されなかった。Ⅷ層で直接埋没している状況であった。



第 23 図　２区、５区包含層

第４表　平安時代末期以降の溝跡一覧

遺構No.	調査区	走行	規模（m）				断面型	掘込・検出面	切合い	備考
			上幅	下幅	深さ	検出長			新 ＞ 旧	
W-１	14	東西	0.75	0.22	0.45	6.0	逆台形	Ⅳより上	２ ＞ １	13区W-13と連続か？近世以後
W-２a	８・14	北→南	0.48	0.20	0.40	(17.5)	U字	Ⅱ	４a ＞ ４b	12区W-10・19区W-43と連続か。
W-２b	８・14	北→南	(1.00)	0.26	0.48	26.4	逆台形	Ⅲ	４a＞４b＞４c	２a・２b号、近世以後。
W-２c	８・14	北→南	(1.40)	0.80	0.44	43.4	箱型	Ⅵより上	４b ＞ ４c	
W-２d	8	北→南	0.60	0.22	0.10	3.4	皿状	Ⅵより上		
W-３	8	南北	0.56	0.16	0.38	2.5	U字	Ⅵより上		近世以後。
W-４a	11・13・14	東西	1.74	0.76	0.36	(25.0)	皿状	Ⅱ	４a ＞ ４e・５	近世以後。
W-４b	11・13・14	東→西	1.62	0.74	0.44	(25.0)	逆台形	Ⅶより上	４b ＞ ４e	近世以後。
W-４c	11・13・14	東→西	1.71	1.10	0.28	(25.0)	皿状	Ⅵより上	４c ＞ ４d	水路？近世以後。
W-４d	11・13・14	東→西	1.60+ α	1.50+ α	0.22+ α	(25.0)	皿状	Ⅵ	４c ＞ ４d	近世以後。
W-４e	11・13・14	東西	？	？	？		？	Ⅶより下	４a・４b ＞ ４e	
W-５	14	北→南	1.78	1.34	0.27	25.6	皿状	Ⅳより上	４a ＞ ５	近世以後。
W-６	11・13・14	東→西	3.25	1.56	0.44	(25.8)	皿状	Ⅳより上		中世
W-７	11・13・14	東→西	3.95	1.80	0.32	(25.8)	皿状	Ⅶ	８ ＞ ７	中世
W-８	14	北→南	2.16	1.94	0.14	10.0	皿状	Ⅶより上	８ ＞ ７	中世
W-９	12	東→西	1.66+ α	？	0.60	34.4	逆台形？	Ⅱ？	９ ＞ ８・10・11	３条以上の重複。近世？
W-10	12	北→南	0.40+ α	0.20	0.40	2.3	U字	Ⅱ		W-２と連続か？近世
W-11	12	北→南	0.74	0.30	0.32	1.2	U字	Ⅱ		W-３と連続か？近世
W-12	13	南北	0.70	0.44	0.32	43.6	逆台形	Ⅶより上？	４ ＞ 12	埋土B多量。平安末～中世
W-13	11・13	東→西	0.58	0.25	≒0.50	(18.5)	逆台形	Ⅴより上	15・16 ＞13＞18	14区W-１と連続か。近世
W-14	８・11	北→南	(1.18)	0.33	0.50	85.0	U字	Ⅱ？	14 ＞ ４	近世
W-15	８・11	北→南	1.70+ α	0.30	0.50	84.0	逆台形	Ⅱ？	15 ＞ 13	近世
W-16	８・11	北→南	0.80	0.21	0.52	(36.0)	V字	Ⅱの上？	16 ＞ 13・17	近世以後
W-17	11	南北	0.55	0.23	0.08	16.0	皿状	Ⅶの上？	16 ＞ 17	埋土B一次に近い。平安末
W-18	11	南北	0.36	0.13	0.06	43.8	皿状	Ⅶの上？	16 ＞ 18	埋土B一次に近い。平安末
W-19	11	南北	0.38	0.20	0.20	34.4	U字	Ⅶの上？	４・９ ＞ 19	埋土B一次に近い。平安末
W-20	11	北→南	0.36	0.17	0.21	23.5	U字	Ⅶの上？	６・９ ＞ 20	埋土B多量。平安末～中世
W-21	12	南北	2.86	2.10	0.30	3.7	皿状	Ⅳより上		中世
W-22	12	南北	2.60	0.76	0.72	3.8	逆台形	Ⅳより上	23d ＞ 22	水路。中世以後。
W-23d	８・12	南北	1.20	0.55	1.00	3.9	U字	Ⅲより下	23d>23e>23f>23g	水路。中世以後。
W-23e	８・12	南北	1.30	0.75	0.50	3.9	U字	Ⅲより下	23d>23e>23f>23g	水路。中世以後。
W-23f	12	南北	2.12	0.67	0.98	2.4	U字	Ⅳより上	23d>23e>23f>23g	中世以後。環濠か？
W-23g	８・12	南北	？	0.45	(0.80)	(60.9)	皿状？	Ⅲより上	23f>23g>25・28・29	中世以後。
W-24	7	⊔形	0.72	0.40	0.22	10.0	U字	？		W-27と関連か？中世以後。
W-25	7	北→南	0.74	0.40	0.20	13.0	U字	Ⅶ？	23g ＞ 25	水路。B多量。平安末～中世
W-26	7	北→南	(1.35)	(1.00)	0.30	101.0	皿状？	Ⅷ？	27・28・30・31・32>26	Bで直接埋没。平安末
W-27	５・６・７	⊔形	2.30	0.52	0.80	(53.4)	V字	Ⅳより下	27 ＞ 26・29・62	環濠屋敷跡。中世
W-28	7	東西	1.40	0.45	0.53	(5.3)	逆台形	Ⅳより上	28 ＞ 26・32・29	近世以後
W-29	7	⊔形？	0.50	0.32	0.20	(7.6)	U字	Ⅵより下？	23g ＞ 27・28 ＞ 29	埋土B多量。平安末～中世
W-30	３・７・５	北西→南東	2.08	0.20	0.64	57.0	皿状	Ⅲより上	30 ＞ 31b ＞ 26・32	中世以後
W-31a	7	東西？	0.78	0.20	0.30		U字	Ⅲより上	31a ＞ 31b	近世以後
W-31b	7	東西	(2.50)	0.46	0.44	5.3	皿状	Ⅲより上	30 ＞ 31b ＞ 26・27	水路。中世
W-32	7	北→南	1.27	0.60	0.46	101.0	U字	Ⅳ	27・28・30・31>32>26	水路。W-26に重複。中世
W-33	3	東西	0.94	0.82	0.34	6.6	箱型	Ⅱ		人為的埋戻し。中世
W-34	6	東西	0.79	0.12	0.22	6.5	皿状	Ⅵより上		５区W-60と連続。中世
W-35a	５・６	西→東	1.14	0.38	0.30	3.2	U字	Ⅳより上	35a ＞ 35b	人為埋戻し？中世
W-35b	（５）・６	東西	0.58	0.38	0.16	(15.0)	U字	Ⅳより上	35a ＞ 35b	中世
W-37	1	東西	0.68	0.43	0.07	3.7	皿状？	Ⅸより上	37 ＞ 36・畠跡	中世以後
W-38	1	東西	1.58	1.00	0.54	3.6	箱型	Ⅱ		カクラン　近代
W-40	19	南北	3.44	1.28	0.55	2.8	箱型？	Ⅴより上		W-43と同型。中世以後
W-41	19	南北	1.85	0.18	0.58	3.1	U字	Ⅲ		近世以後
W-43	18・19	南北	(1.78)	1.38	0.52	9.7	箱型？	Ⅴ or Ⅵ		W-２と連続か？中世以後
W-44	18	北→南	0.58	0.30	0.35	17.3	U字		45・46 ＞ 44	B多量。平安末～中世
W-45	18	東西	0.70	0.19	0.43	2.3	U字	Ⅳより下	45 ＞ 44	W-51と連続か。中世
W-46	18	東西	2.22	1.65	0.42	2.2	箱型	Ⅳより下	46 ＞ 44	W-50と連続。中世以後
W-47	17	北西→南東	2.16	1.30	0.38	2.2	皿状	Ⅲ～Ⅳ		近世以後
W-48	20	東西	1.27	0.30	0.25	2.0	皿状	Ⅳ～Ⅶ		中世以後
W-50	15	東西	2.02	1.48	0.52	2.4	箱型	Ⅳより上		W-46と連続。近世以後
W-51	15	東西	0.85	0.20	0.50	2.2	U字	Ⅳより上		W-45と連続か。中世
W-54	２・３	北西～南東	0.68	0.20	0.38	26.4	逆台形	Ⅲ	56 ＞ 54	埋土Aを含む。近世以後
W-55	2	北西→南東	0.56	0.24	0.38	5.2	逆台形	Ⅲより上	55 ＞ 58	埋土Aを含む。水路。近世以後
W-56	2	北西～南東	(0.60)	0.36	(0.44)	7.1	U字	Ⅰより下	56 ＞ 54・57	埋土Aを含む。近世以後
W-59	5	北西→南東	(2.20)	0.52	0.72	29.2	皿状？	Ⅳ		水路。中世
W-60	5	東西	0.40	0.16	0.03	5.5	皿状	Ⅴ or Ⅵ		W-34と連続か。B多量。中世
W-61	5	南北	0.40	0.23	0.07	11.7	皿状？	Ⅴ or Ⅵ		W-60と関連か。B多量。中世

注）上幅や深さの規模については、土層断面で上位での掘り込みが確認できたものはその数値としたため、平面図の規模と一致しない部分があり。（　）書きは全体が不明の場合、確認できる部分の数値。

第５表　古墳時代から平安時代の溝跡一覧

遺構No.	調査区	走行	規模（m）				断面型	掘込・検出面	切合い	備考
			上幅	下幅	深さ	検出長			新 ＞ 旧	
W-36a	1	北西～南東	0.54	0.40	0.14	6.7	U字	Ⅸより上	36a ＞ 36b	水路。古墳後期
W-36b	1	北西～南東	(0.55)	(0.45)	0.12	6.1	皿状？	Ⅹ	36a ＞ 36b	埋土FA多量。古墳後期
W-39	1	東→西	0.78	0.56	0.16	3.8	箱型	Ⅸ		人為的埋戻し。古墳後期
W-42	19	南北	0.40	0.14	0.14	3.1	U字	Ⅸ′		奈良？
W-49	17	北西→南東	0.52	0.26	0.14	4.2	U字？	Ⅸ′		FAで埋没。古墳後期
W-52	2・3・4	北西→南東	1.40	0.80	0.14	51.0	皿状	Ⅹ		FAで埋没。古墳後期
W-53	3・4	北西→南東	0.35	0.20	0.16	21.2	U字？	Ⅷ		奈良？
W-57	2	北西～南東	(0.70)	0.26	0.36	7.6	U字	Ⅰより下	56 ＞ 57	下部FA層，南に枝溝。古墳後期？
W-58	2	北西～南東	(1.00)	(0.76)	(0.50)	2.3	皿状	Ⅸより下	55 ＞ 58	FAで埋没。古墳後期
W-62	7	北→南	0.98	0.73	0.18	96.5	U字？	Ⅸ？	27・D７>26 ＞ 62	FA多量。古墳後期～奈良？

注）上幅や深さの規模については、土層断面で上位での掘り込みが確認できたものはその数値としたため、平面図の規模と一致しない部分があり。（　）書きは全体が不明の場合、確認できる部分の数値。

Ⅵ　出土遺物

１　溝跡出土遺物　（第 24・25 図、ＰＬ．17）

埋土中の出土で小破片が多く、明確に遺構に伴うといえる遺物はなかったが、混入品とみられる 10・11 及び 14・15 以外はおよその遺構の時期を示していると考えられる。

２　土坑出土遺物　（第 25 図、ＰＬ．17）

５区３号土坑出土の土師器坏のみである。平底に近く、口縁部は屈曲しながら立ち上がり、端部は内側に丸く肥厚気味である。奈良時代から平安時代初め頃とみられる。

３　１区畠跡出土遺物　（第 25 図、ＰＬ．17）

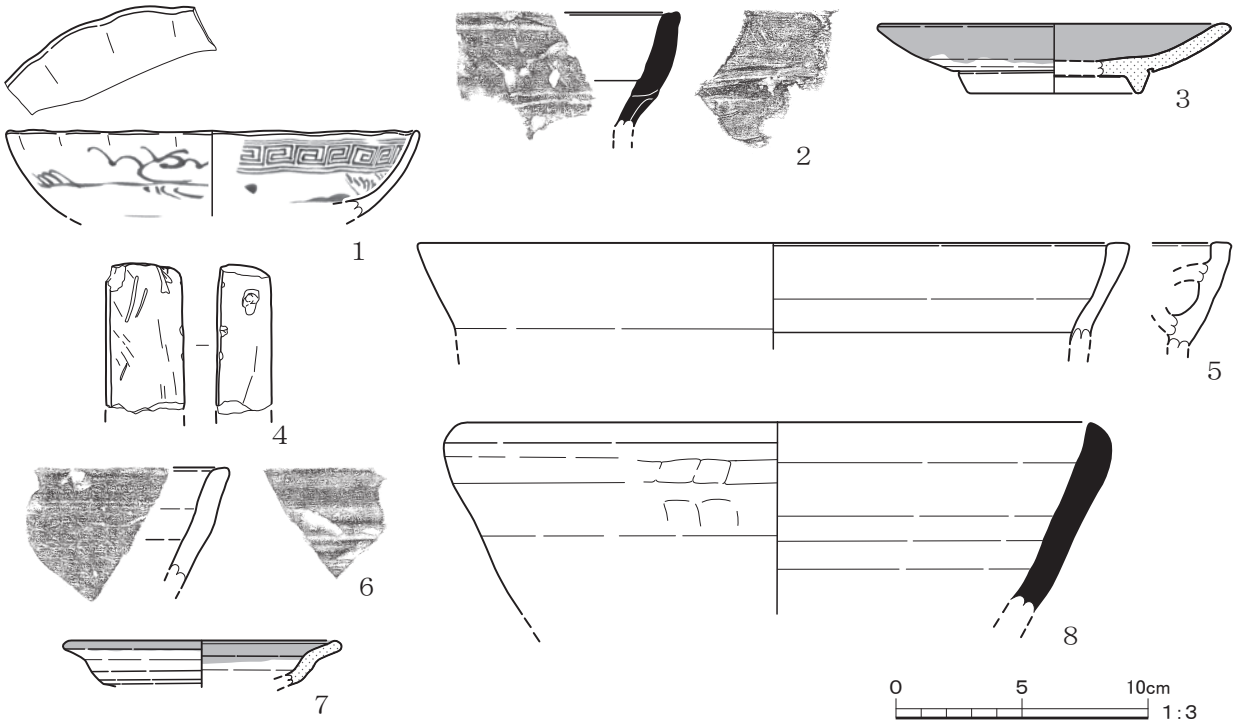
１はＸ層上面の出土で、古墳時代前期の器台である。２もＸ層上面の出土で、縄文の施文された吉ヶ谷式系の土器である。３はＸ層内の出土で、形態や調整からみて樽式系の鉢である。土師器器台やその他の土師器片の内容からみて、時期的には古墳時代前期と考えられる。

４　包含層出土遺物　（第 25・26 図、ＰＬ．17・18）

５・６は２区中央付近のＸ層上面での出土である。櫛描波状文や簾状文が施されている。樽式土器の終末期とみられるが、時期的には１区畠跡と同様に古墳時代前期に入るものと考えられる。

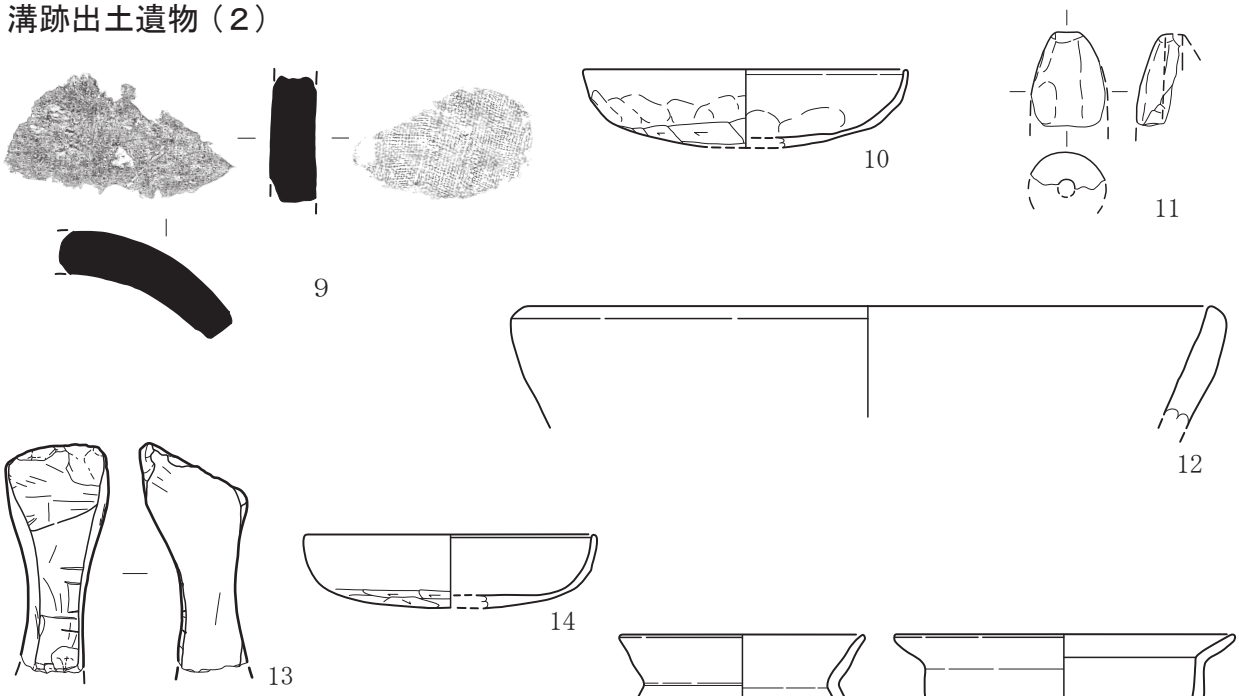
そのほか、１～４の２区南半部褐色土層からの出土土器と、７～ 17 の 17 区出土土器は、甕や壷・坩・鉢・高坏などの形態から、全体に古墳時代中期前半の様相を示している。

18 の土師器坏は、５区北東部のⅨ層上部の灰褐色粘質土層中の出土で、平底気味の底部から内湾気味に立ち上がる口縁部の様子から、奈良時代とみられる。

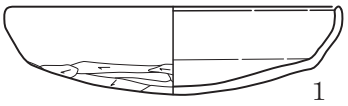


第 24 図　溝跡出土遺物（１）

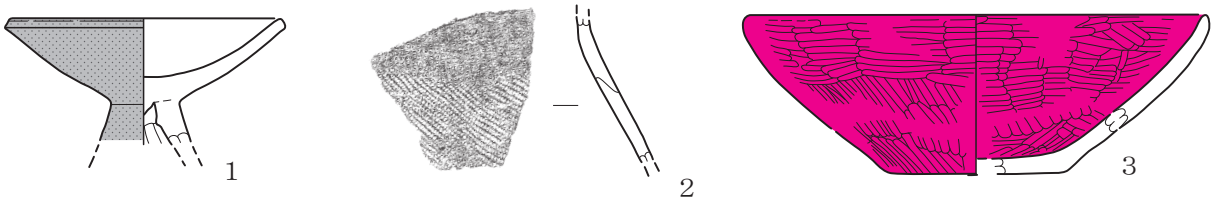
溝跡出土遺物（2）



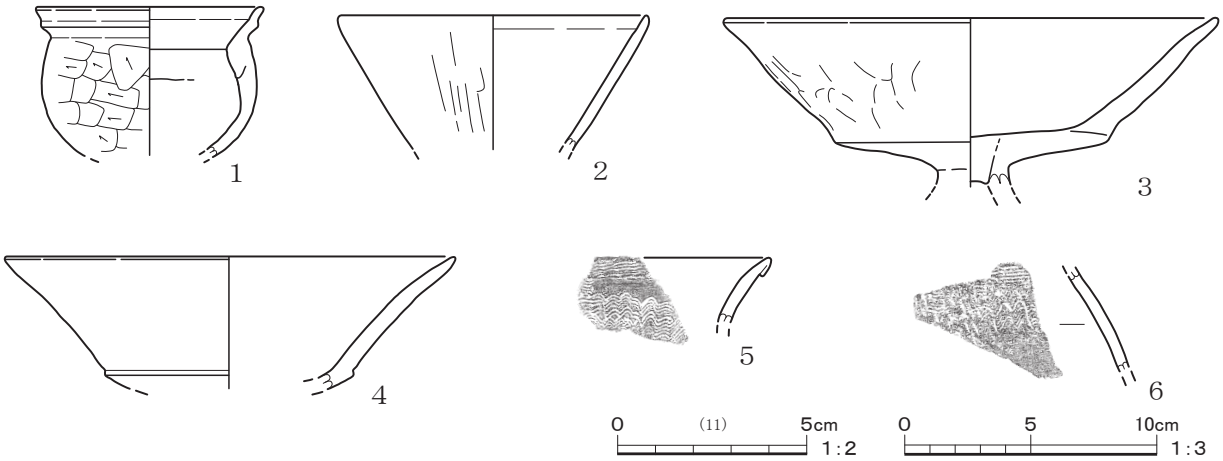
土坑出土遺物



畠跡出土遺物

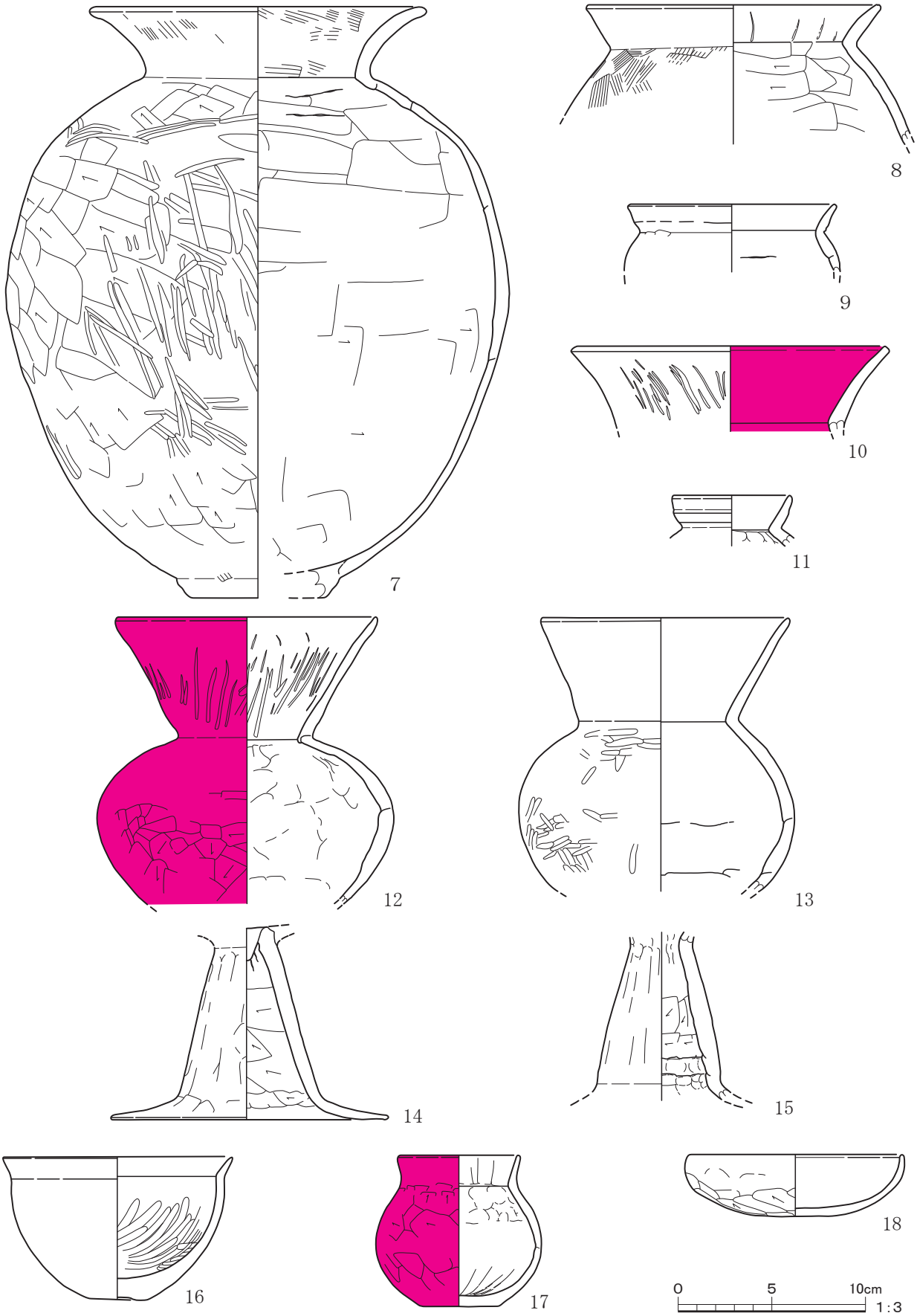


包含層出土遺物（1）



第 25 図　溝跡出土遺物（2）、土坑出土遺物、畠跡出土遺物、包含層出土遺物（1）

包含層出土遺物（２）



第 26 図　包含層出土遺物（２）

第６表　溝跡出土遺物観察表

№.	遺構名	器　種	法量（cm）	①胎土 ②焼成 ③色調	成・整形技法等	備　考
1	Ｗ－４ａ	陶磁器 皿	口径：(16.4) 器高：< 3.3>	①緻密　②堅緻　③灰白	透明釉。染付。内面に雷文。　外面：ロクロ調整。 内面：ロクロ調整。	口縁～体部 1/6 瀬戸系輪花皿
2	Ｗ－５	軟質陶器 内耳堝	器高：< 4.6>	①細砂粒・赤色粒 ②還元焔　③黄灰	外面：ロクロ調整。 内面：ロクロ調整。	口縁部片
3	〃	陶　器 皿	口径：(14.0) 底径：(6.8) 器高：< 2.7>	①細砂粒・石英 ②還元焔　③灰	灰釉。口縁部外面から内面全体に施釉。 外面：ロクロ調整。 内面：ロクロ調整。　見込部に重ね焼き痕。	1/5
4	Ｗ－６	砥　石	長さ：< 6.0> 幅　：　3.1 厚さ：　2.2	③灰黄	石材：凝灰岩。 形状：直方体。 重さ：(76.9g)	1/2 ？　提砥。 4 側面に使用痕。 鉄分銹着。
5	Ｗ－７	軟質陶器 内耳堝	口径：(27.8) 器高：< 4.0>	①細砂粒・白色粒 ②還元焔　③灰	外面：ロクロ調整。 内面：ロクロ調整。内耳貼付。	口縁部 1/9
6	Ｗ-15	軟質陶器 内耳堝	器高：< 4.8>	①細砂粒　②還元焔 ③褐灰	外面：ロクロ調整。 内面：ロクロ調整。	口縁部片
7	〃	陶　器 稜皿	口径：(10.4) 器高：< 1.8>	①黒色粒　②還元焔 ③黄灰	灰釉。口唇部外面から口縁部内面のみ施釉。 外面：ロクロ調整。　内面：ロクロ調整。	口縁～体部 1/6
8	Ｗ-23 ｇ 南半部	軟質陶器 鉢	口径：(25.2) 器高：< 7.6>	①細砂粒・赤色粒・石英 ②還元焔　③灰黄	外面：口縁部ロクロ調整。体部ヘラナデ後、ロクロ調整。　内面：ロクロ調整。	口縁～胴部 1/8
9	〃	丸　瓦	長さ：< 5.0> 幅　：< 7.4> 厚さ：　1.8	①細砂粒・白色粒 ②還元焔　③灰	外面：ナデ。 内面：布目。	破片
10	Ｗ-26 北半部	土師器 坏	口径：(12.8) 器高：　3.1	①細砂粒・角閃石 ②酸化焔　③橙	外面：口縁部ヨコナデ。体部下半ヘラケズリ。 内面：口縁部ヨコナデ。体部ナデ。	1/4
11	〃 南半部	土　錘	長さ：< 2.5> 径　：(2.3)	①細砂粒・チャート ②酸化焔　③明褐	形状：紡錘形。　孔径：(0.4cm)。 重さ：< 5.0 ｇ >。　外面：ナデ。	1/4 鉄分多量に銹着。
12	Ｗ-27 東辺部	軟質陶器 鉢	口径：(27.0) 器高：< 4.8>	①細砂粒・石英 ②還元焔　③にぶい黄	外面：ロクロ調整。 内面：ロクロ調整。	口縁部 1/9
13	〃 北辺部	砥　石	長さ：< 9.1> 幅　：　4.0 厚さ：　3.9	③灰白	石材：凝灰岩。 形状：不整直方体。 重さ：(138.3g)	1/2 ？　提砥。 大きく砥ぎ減り。 鉄分銹着。
14	Ｗ-32	土師器 坏	口径：(11.4) 器高：　2.9	①細砂粒・赤色粒 ②酸化焔　③にぶい黄橙	外面：口縁部ヨコナデ。体部ヘラケズリ。 内面：口縁部ヨコナデ。体部ナデ。	口縁～体部 1/2 鉄分銹着。
15	Ｗ-54	土師器 小型甕	口径：(9.8) 底径：　3.6 器高：　8.4	①細砂粒・赤色粒 ②酸化焔　③明黄褐	外面：口縁部ヨコナデ。胴下部部分的にヘラケズリ。底部ヘラケズリ。　内面：口縁部ヨコナデ。胴上部ヘラナデ。胴下部～底部指ナデ。	1/2 口縁部～胴上部外面に炭化物付着。
16	Ｗ-57	土師器 鉢	口径：(13.6) 底径：　4.0 器高：　6.5	①細砂粒・赤色粒 ②酸化焔　③橙	外面：口縁部ヨコナデ。胴部～底部ナデ。 内面：口縁部ヨコナデ。胴上半ナデ。胴下部～底部ヘラナデ。	1/3

第７表　土坑出土遺物観察表

№.	遺構名	器　種	法量（cm）	①胎土 ②焼成 ③色調	成・整形技法	備　考
1	Ｄ－３	土師器 坏	口径：(13.4) 器高：　3.5	①細砂粒・角閃石・チャート　②酸化焔　③橙	外面：口縁部ヨコナデ。体部ヘラケズリ。 内面：口縁部ヨコナデ。体部ヘラナデ。	1/2 Ｐ１

第８表　畠跡出土遺物観察表

№.	遺構名	器　種	法量（cm）	①胎土 ②焼成 ③色調	成・整形技法	備　考
1	１区 畠跡	土師器 器　台	口径：(10.6) 器高：< 4.9>	①細砂粒 ②酸化焔 ③明赤褐	外面：口縁部ヨコナデ。体部ヘラミガキ？脚部縦位ヘラミガキ。外面全体を黒色塗彩。　内面：口縁部ヨコナデ。体部ヘラミガキ。脚部シボリ目。	口縁～脚部 1/2 畠跡№.１
2	〃	弥生土器 甕	器高：< 5.8>	①細砂粒　②酸化焔 ③にぶい黄橙	外面：肩部ＲＬの縄文。 内面：横位ヘラミガキ。	肩部破片。 内外面に炭化物。 吉ヶ谷系
3	〃	弥生土器 鉢	口径：(18.0) 底径：(7.0) 器高：(6.3)	①細砂粒・石英・白色粒 ②酸化焔 ③にぶい赤褐	外面：口縁部横位ヘラミガキ。体部縦位ヘラミガキ。底部以外を赤色塗彩。底部ヘラミガキ。 内面：横位ヘラミガキ。全体を赤色塗彩。	1/5　２片 樽系

第９表　包含層出土遺物観察表

№.	遺構名	器　種	法量（cm）	①胎土 ②焼成 ③色調	成・整形技法	備　考
1	２区南半部 黒褐色土層	土師器 小型甕	口径：(9.0) 器高：< 5.9>	①細砂粒・赤色粒 ②酸化焔　③にぶい橙	外面：口縁部ヨコナデ。胴部ヘラケズリ。 内面：口縁部ヨコナデ。胴部横位ナデ。	口縁～胴部 1/4 Ｓ字口縁
2	〃	土師器 坩	口径：(12.2) 器高：< 5.3>	①細砂粒・白色粒 ②酸化焔　③明赤褐	外面：口縁部ヨコナデ後、縦位ヘラミガキ。 内面：口縁部ヨコナデ後、ヘラミガキ。	口縁部 1/2
3	〃	土師器 高　坏	口径：(19.6) 器高：< 6.7>	①細砂粒　②酸化焔 ③橙	外面：口縁部ヨコナデ。体部～底部ヘラナデ。 内面：口縁部ヨコナデ。体部ヘラミガキ？	坏部 1/2
4	〃	土師器 高　坏	口径：(17.8) 器高：< 4.8>	①細砂粒　②酸化焔 ③明赤褐	外面：ヨコナデ。 内面：ヨコナデ後、横位ヘラミガキ。	口縁部 1/5
5	２区中央部 Ｘ層上面	弥生土器 甕	口径：―― 器高：< 2.6>	①細砂粒・赤色粒・角閃石　②酸化焔 ③にぶい黄橙	折返し口縁。 外面：櫛描波状文。櫛歯９㎜幅に６条。 内面：クシメ後、横位ヘラミガキ。	口縁部破片。樽系６と同一個体か。
6	〃	弥生土器 甕	器高：< 3.9>	①細砂粒・赤色粒 ②酸化焔　③にぶい橙	外面：頸部櫛描横線文、肩部櫛描波状文。胴部横位ヘラミガキ。櫛歯９㎜幅に６条。 内面：横位ヘラミガキ。	肩部破片。樽系。５と同一個体か。
7	17 区西端部 Ⅸ′ 層	土師器 甕	口径：(17.4) 底径：(7.2) 器高：(31.5)	①細砂粒・白色粒・石英 ②酸化焔　③にぶい赤褐	外面：口縁部ハケ目後、ヨコナデ。胴部ヘラケズリ後、ヘラナデ。 内面：口縁部ハケ目後、ヨコナデ。胴上部横位ナデ。胴下部横位ヘラケズリ。	1/2
8	17 区 西側 Ⅸ′ 層	土師器 甕	口径：(15.5) 器高：< 7.4>	①細砂粒・白色粒・赤色粒　②酸化焔 ③にぶい黄橙	外面：口縁部ヨコナデ。肩部ハケ目後、ナデ。 内面：口縁部ヘラケズリ後、ヨコナデ。肩部横位ヘラケズリ。	口縁～肩部 3/4
9	〃	土師器 小型甕	口径：(11.0) 器高：< 3.6>	①細砂粒　②酸化焔 ③にぶい黄橙	外面：口縁部ヨコナデ。肩部ナデ。 内面：口縁部ヨコナデ。肩部ナデ。	口縁～肩部 1/3
10	〃	土師器 壷	口径：(16.4) 器高：< 4.6>	①細砂粒　②酸化焔 ③にぶい黄橙	外面：ヨコナデ後、縦位ヘラミガキ。 内面：ヨコナデ。口縁部内面赤彩。	口縁部 1/5
11	〃	土師器 小型壷	口径：　6.2 器高：< 2.7>	①細砂粒・赤色粒 ②酸化焔　③にぶい黄橙	外面：ヨコナデ。 内面：口縁部ヨコナデ。肩部指頭痕。	口縁部 鉄分銹着。
12	〃	土師器 坩	口径：(13.8) 器高：<15.3>	①細砂粒・赤色粒 ②酸化焔　③にぶい赤褐	外面：口縁部ヨコナデ後、縦位ヘラミガキ。胴上部ナデ。胴下部ヘラケズリ。外面全体を赤彩。 内面：口縁部ヨコナデ後、縦位ヘラミガキ。胴部ユビナデ。	口縁部 3/4 胴部 1/3
13	〃	土師器 坩	口径：(13.2) 器高：<14.6>	①細砂粒・石英・チャート　②酸化焔　③明赤褐	外面：口縁部ヨコナデ。胴部ヘラミガキ。 内面：口縁部ヨコナデ。胴部ナデ。	口縁部 1/6 胴 3/4
14	〃	土師器 高　坏	裾径：(14.6) 器高：<10.3>	①細砂粒　②酸化焔 ③にぶい黄橙	外面：脚柱部ナデ。裾部ヨコナデ。 内面：脚柱部シボリ目、横位ヘラケズリ。裾部ヨコナデ。	脚部 1/2
15	17 区中央部 Ｘ層上面	土師器 高　坏	器高：< 9.0>	①細砂粒・石英 ②酸化焔　③赤褐	外面：脚柱部ナデ。裾部ヨコナデ。 内面：シボリ目。輪積み痕。横位ヘラケズリ。	脚柱部 7/8
16	17 区 東側 XI 層上面	土師器 鉢	口径：(12.2) 底径：　7.7 器高：　3.1	①細砂粒・石英・チャート　②酸化焔 ③にぶい赤褐	外面：口縁部ヨコナデ。体部ナデ。凹底。 内面：口縁部ヨコナデ。体部斜位ヘラミガキ。	1/2 外面に多量の煤。
17	18 区 XI 層上面	土師器 小型壷	口径：(6.3) 底径：　4.0 器高：　8.1	①細砂粒・角閃石 ②酸化焔　③にぶい黄橙	外面：口縁部ヨコナデ。胴部ヘラケズリ。底部ヘラケズリ。外面赤色塗彩。 内面：口縁部横位ヘラケズリ後、ヨコナデ。肩部輪積み痕。底部ヘラナデ。	3/4
18	５区 Ⅷ層	土師器 坏	口径：11.6 器高：　3.3	①細砂粒・角閃石 ②酸化焔　③橙	外面：口縁部ヨコナデ。体部ヘラケズリ。 内面：口縁部ヨコナデ。体部ヘラナデ。	口縁一部欠 ５区Ｐ１

Ⅶ　まとめ

Ａs- Ｂ層下面で検出した遺構は平安時代末期以降のみであるが、Ｈｒ－ＦＡ層下面での検出遺構は古墳時代以降の全ての時代の遺構が混在していた。

このため遺構間の位置関係などを明確にするため、全ての検出遺構を古墳時代から平安時代の時期と、平安時代末期以降の二時期に区分・整理した遺構位置図（第 27 図）を掲載しておく。なお１区の調査区については省略した。

１　古墳時代から平安時代

古墳時代から平安時代については遺構はやや少なかったが、１区のＨr- ＦＡ層下の畠跡の検出が注目される。本遺跡や周辺ではこれまでＦＡ層下の水田跡の検出例は多数に上るが、畠跡の発見は初例である。この畠跡検出部分は他の調査区のＦＡ層下の水田跡とほとんど標高差もなく、微高地のような地形とはみられない。他の地点に比べて土器の小片が比較的多く出土しているところからみて付近に居住域が存在し、その周囲に小規模に営まれた畠ではないかと考えられる。畝痕は埋土の違いから二時期に分けられ、ＦＡ層で埋没した後にあまり時間をおかずに復旧されたとみられる。また畝の底面から出土した土師器片などからみて、この畠跡は古墳時代前期から継続していた可能性が高いと思われる。

ＦＡ層下の水田跡は、北の 15・16 区から７区全体、３区南から５・６区全体と、北東から南東にかけての広い範囲に連続して存在していたものとみられる。しかし、17 ～ 20 区にかけてや、２区から３区の北半部などは北側の微高地からの緩傾斜地であり、もとから水田は存在しなかった可能性がある。逆に９区や10 区の南西部は、ＦＡ層がほとんど残存していないため、本来は水田域であったものの遺構が遺存していないものとも考えられる。水田区画は極小区画で、南北軸は大きく北から西に傾いており、この走向は周辺の調査地で検出されている水田跡と同様である。

溝跡は、ＦＡ洪水層で直接埋没している溝がＷ -49 号、52 号、58 号溝の３条検出された。いずれも傾斜の変換点を走り、その上部にまでＦＡ層が堆積していた。走向は北西から南東方向で、水田跡の南北軸の方向に近い。

古墳時代中期では遺構は検出されなったものの遺物包含層の発見があった。２区と 17 区の２か所で、いずれも中期の土器片がＦＡ層の下層から比較的まとまって出土している。完形に復元されるものはなく小破片が散在する状況であるが、それぞれの調査区の近隣にこの時期の居住域が存在することが予想される。本地域では中期の遺跡はこれまでほとんど発見されておらず、この空白期を埋める資料といえる。

今回の調査では、古墳時代後期の水田跡が広い範囲に検出されたのみならず、一部分ではあるが前期頃からの畠跡や中期の土器の発見もあった。この結果から本地域一帯の水田開発を主導し、広瀬・朝倉古墳群を造営した古墳時代全般を通じて県内でも有力な勢力であった集団の生産基盤や社会構造の一端が窺える。

ところで、この地域の開発にあたった集団は古墳時代前期に東海地方から移住してきた集団と考えられているが、大規模かつ組織的に展開される地域開発の様子や、当初から県内の古墳時代前期を代表する前橋八幡山古墳や前橋天神山古墳などが築造される点、さらに径 23 ｍの円墳の朝倉Ⅱ号古墳の存在や、公田東遺跡での前方後方形周溝墓、西善尺司遺跡検出の方形周溝墓群などの様子から、この移住は散発的なものではなく、内部に一定の階層性が存在する組織的な集団によって極めて計画的に行われたものであったと考えられる。

奈良時代頃では、Ｄ－３号・４号・８号・９号土坑が検出された。小さな円錐形の土坑で、３号土坑からは土師器坏の 1/2 ほどの破片が出土したが、その性格は不明である。５・６区から７区付近に集中しており、埋土はⅧ層に似た土層である。３号土坑の付近ではⅧ層中から土師器坏の完形品も出土しており、奈良時代頃にも比較的多くの活動の痕跡が認められた。

溝跡は、Ⅸ層上から掘り込まれ、埋土がⅧ層に似た灰褐色粘質土の奈良時代とみられるＷ-42 号・53 号溝が検出されている。この時期までの溝の走向は、ＦＡ層下の水田跡の軸方向に近い北西から南東方向を主としているようにみられる。その後の時代の溝跡や水田跡の軸方向が主に東西・南北を指向するのとは大きく異なっている。奈良時代頃を境に土地利用上の転換があったとみられ、条里制の施行が関係するものかと考えられる。

一方、Ｗ-62 号溝は埋土の状況から古墳時代後期から奈良時代頃の溝とみられるが、その後のＡｓ－Ｂの降下で埋没したＷ-26 号溝、さらにこれを再掘削したとみられる中世のＷ-32 号溝と、ほぼ同位置で重複が繰り返されていた。この位置が長期にわたって大きな意味を持つものであったと考えられる。

２　平安時代末以降

Ａｓ－Ｂ層の一次堆積が調査範囲の西側半分ほどでは良好に認められ、この下部では全面的に水田跡が遺存していた（第 27 図）。しかし、東半部では一次堆積層は残存していなかった。

Ｂ下の水田跡は、南北方向の畦畔が 14 区を縦断して検出され、11 区と 12 区でも部分的ながら確認できた。畦畔は屈曲が大きいものの、全体としてはほぼ東西、南北方向に延びている。区画は南側に小規模な区画が多いが、基本的に方形の大区画であるとみられる。南北の畦畔の両側に水口を持つ例が多く、配水は地形の傾斜に合わせて北から南方向への懸け流し方式が基本とみられる。水田域の広がりは、14 区から西側は広く連続することが予想されるが、東側は 11 区の一部までであった。東側については中世の環濠屋敷跡の立地からみても本来のＡｓ－Ｂ層の下面はさらに高かったとみられ、水田域が広がるとしてもＷ-26 号溝付近までではなかったかと考えられる。

本地域でも条里制の施行が想定されているが、今回のＢ下水田跡もその軸方向や区画から、基本的に条里制の地割を踏襲していることがうかがわれる。

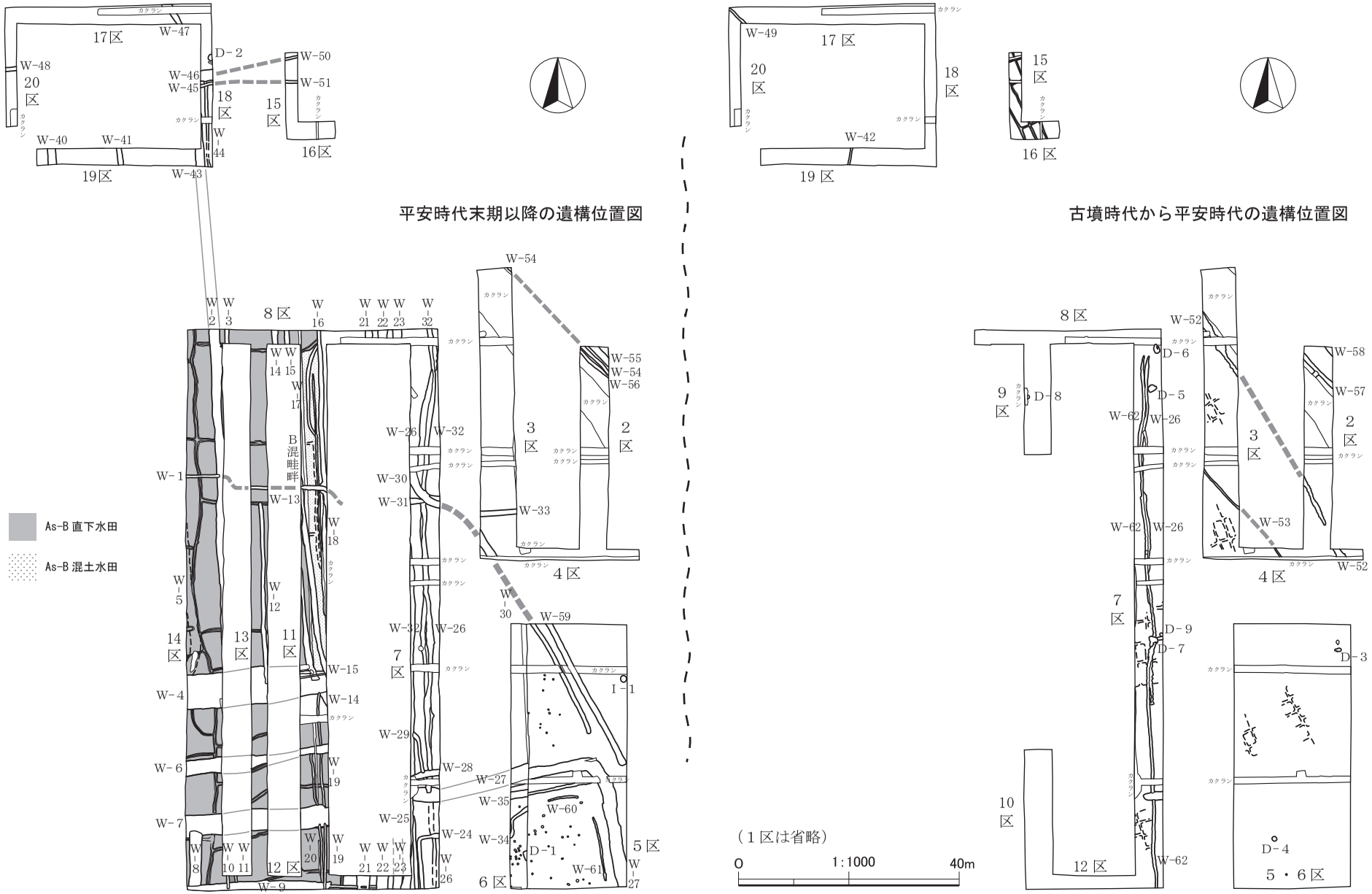
11 区ではＢ下の水田跡に隣接してＢ混水田跡が一部検出された。しかし溝などによる攪乱が多く南北方向の畦畔の痕跡以外詳細は明らかにならなかった。

溝跡は、７区でＡｓ- Ｂの降下で直接埋没したＷ-26 号溝が検出された。南北方向に約 100 ｍに亘って調査区を縦断して走っていた。Ｂ直下の水田跡と同時であるが、やや蛇行が大きく埋土の様子からも水路とは考えられなかった。これにほぼ重複して走る中世のＷ-32 号溝は、その位置や規模からみて 26 号溝の掘り返しの可能性が高いが、これには流水の痕跡がはっきり見られ水路であったことは明らかである。26 号溝も本来水路の機能があったとも考えられる。

Ｂ軽石を多量に含む比較的古い溝は、Ｗ-12 号・17 号・18 号・19 号・20 号・25 号・29 号・44 号溝であり、南北の走向の溝のみである。７区から 13 区付近に集中している。11 区の 17 号・18 号溝は小規模で、Ｂ混土の水田畦畔に沿って走っており、畦畔構築の盛り土のための掘削痕の可能性がある。

中世以後も多数の溝跡が検出されており、重複の数を除いても 44 条にのぼる。走向は、地形の傾斜に沿うように北から南、あるいは東から西という方向がほとんどであり、全般的に比較的浅い皿状の断面形のものが多い。埋土中に流砂層などが認められ水路と確認できたものは、Ｗ－４ｃ号（近世以後）・22 号（中世以後）・23 ｄ号（中世以後）・23 ｅ号（中世以後）・25 号（平安末～中世）・31 ｂ号（中世）・32 号（中世）・55 号（近世以後）・59 号（中世以後）溝のみで比較的少なく、全体として水路としての用途というより区画などを目的とする溝が多かったものとみられる。

５・６区から７区の南端付近では環濠屋敷跡の一画（Ｗ-27 号・23 ｆ号溝）が検出された。方形の区画とみられ、その北半部分の規模が明らかになった。東西の辺は内法で 38 ｍほどとみられ、北西隅部分は土橋状の外部との通路部分が存在すると思われる。溝の埋土は、上部にⅣ層とＡｓ－Ｂ混土の大きなブロックの混じる層があり、これは土塁の崩落による流れ込みとみられ、濠の内側には土塁が築かれていたものと考えられた。内部施設は、



第 27 図　時期別遺構位置図

精査した範囲が全体の１／４ほどの範囲のみということもあり明らかにできなかったが、W -34 号・60 号・61 号溝は内部の区画溝の可能性が強い。屋敷跡に明確に伴うとみられる遺物は出土していないが、濠の埋土中や周辺部では内耳堝や軟質陶器の小破片が少量出土しており、これらは 15 世紀後半から 16 世紀前半頃の様相とみられた。

第Ⅱ章で記したように本地域から南方の玉村町にかけての一帯には多数の環濠屋敷が現在も存在する。さらにその分布は利根川を挟んだ西岸の、前橋市元総社から高崎市下滝にまで及んでいる。このような環濠屋敷は防御を主な目的として、個人の屋敷の周囲に方形を基調とした濠をめぐらせ土塁を築いたもので、上層の武士の城館址よりも比較的規模が小さく、戦国末期頃から一般的になるとみられている。一方、本遺跡の周辺には力丸城、宿阿内城といった中世城館址が立地しており、力丸城は戦国期以前の室町時代の築城と考えられ、その構造は方眼状列郭構造で自然発生的に環濠屋敷が連結して成立した姿とされる。このため、環濠屋敷の初元は戦国期をさかのぼり鎌倉時代末から室町時代初期頃になると予測されてきた。

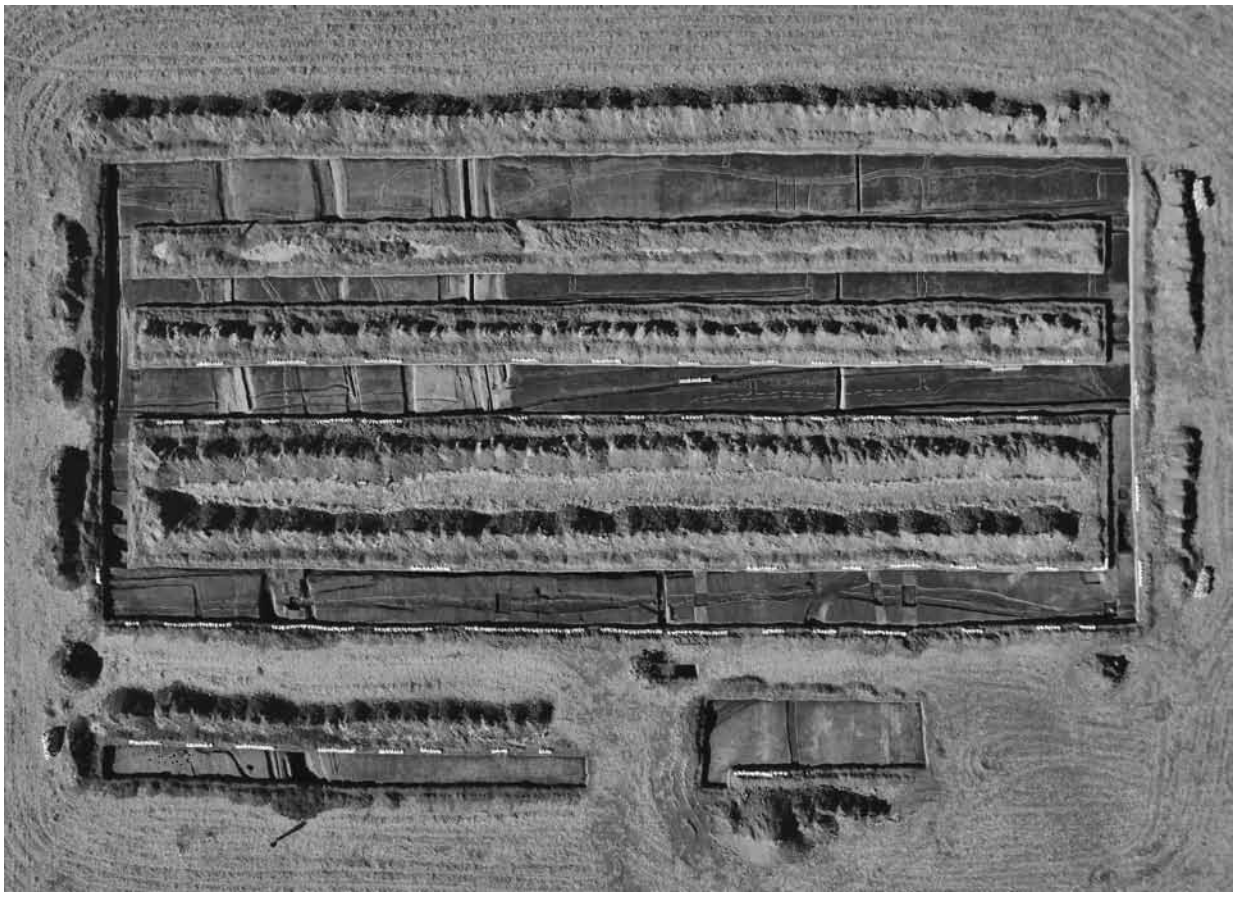
本遺跡検出の環濠屋敷跡は単郭方形式とみられ全体の平面規模も小型であった。濠はV字形に近く小規模であり環濠屋敷の中でも比較的古い形態とみられる。出土遺物は明確ではないが、15 世紀後半頃までには構築されていたものと考えられる。

主な参考文献

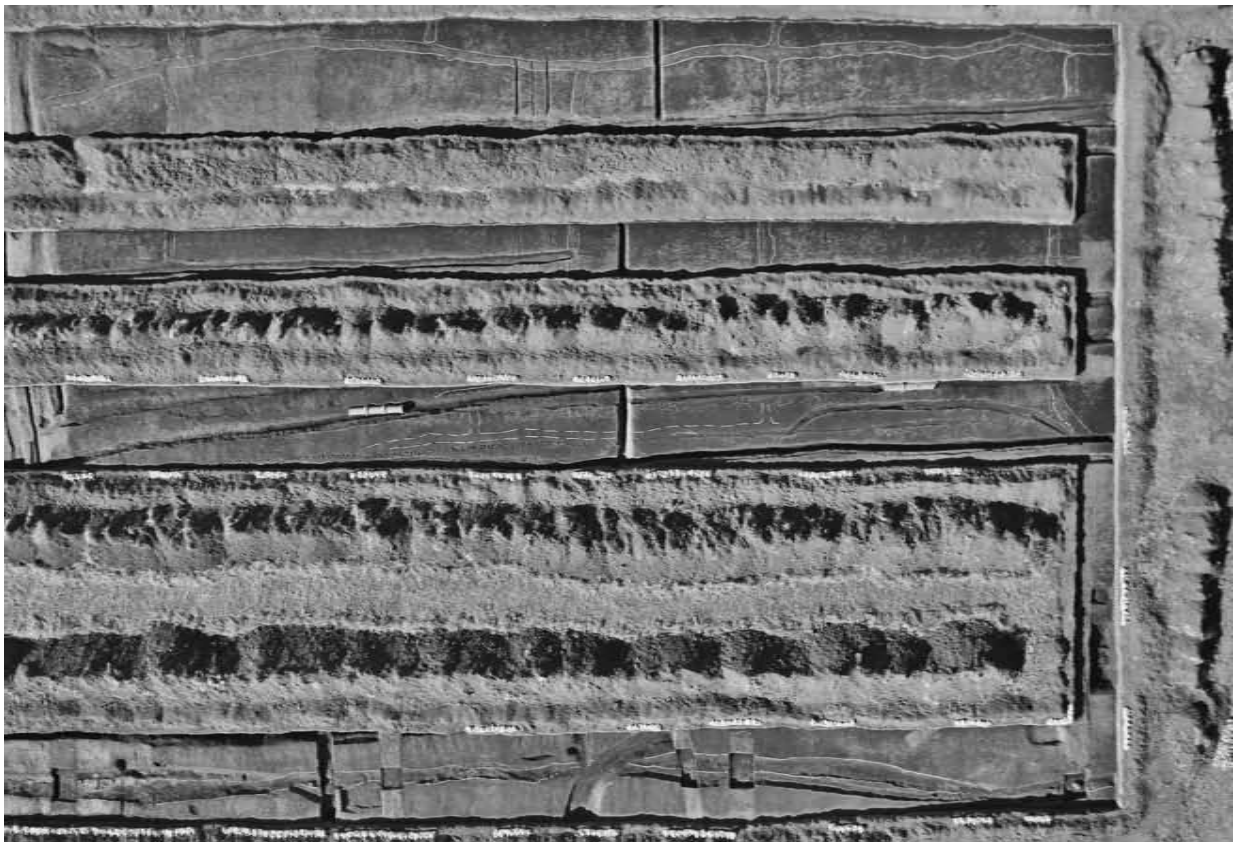
・前橋市教育委員会　2011 『朝倉工業団地埋蔵文化財確認調査報告書』
・前橋市教育委員会　2012 『朝倉工業団地遺跡群』
・前橋市教育委員会　2012 『朝倉工業団地遺跡群№.３』
・前橋市教育委員会　2013 『朝倉工業団地遺跡群№.４』
・前橋市教育委員会　2013 『六供遺跡群№.７』
・前橋市教育委員会　2013 『上佐鳥中原前Ⅲ遺跡』
・前橋市埋蔵文化財発掘調査団　1996 『西田遺跡』
・前橋市埋蔵文化財発掘調査団　1997 『六供下堂木Ⅱ遺跡』
・前橋市埋蔵文化財発掘調査団　1998 『上佐鳥中原前遺跡』
・前橋市埋蔵文化財発掘調査団　1999 『西田Ⅲ遺跡』
・前橋市埋蔵文化財発掘調査団　1999 『西田Ⅳ遺跡』
・前橋市埋蔵文化財発掘調査団　2009 『南部拠点地区遺跡群№.１』
・前橋市埋蔵文化財発掘調査団　2010 『南部拠点地区遺跡群№.５』
・前橋市埋蔵文化財発掘調査団　2011 『南部拠点地区遺跡群№.６』
・警察宿舎遺跡調査会　1998 『公田東遺跡』
・群馬県埋蔵文化財調査事業団　2001 『亀里平塚遺跡・横手宮田遺跡・横手早稲田遺跡・横手南川端遺跡』
・群馬県埋蔵文化財調査事業団　2002 『鶴光路榎橋遺跡』
・前橋市　1971 『前橋市史』第１巻
・前橋市教育委員会　2013 『朝倉・広瀬古墳群』

写　真　図　版

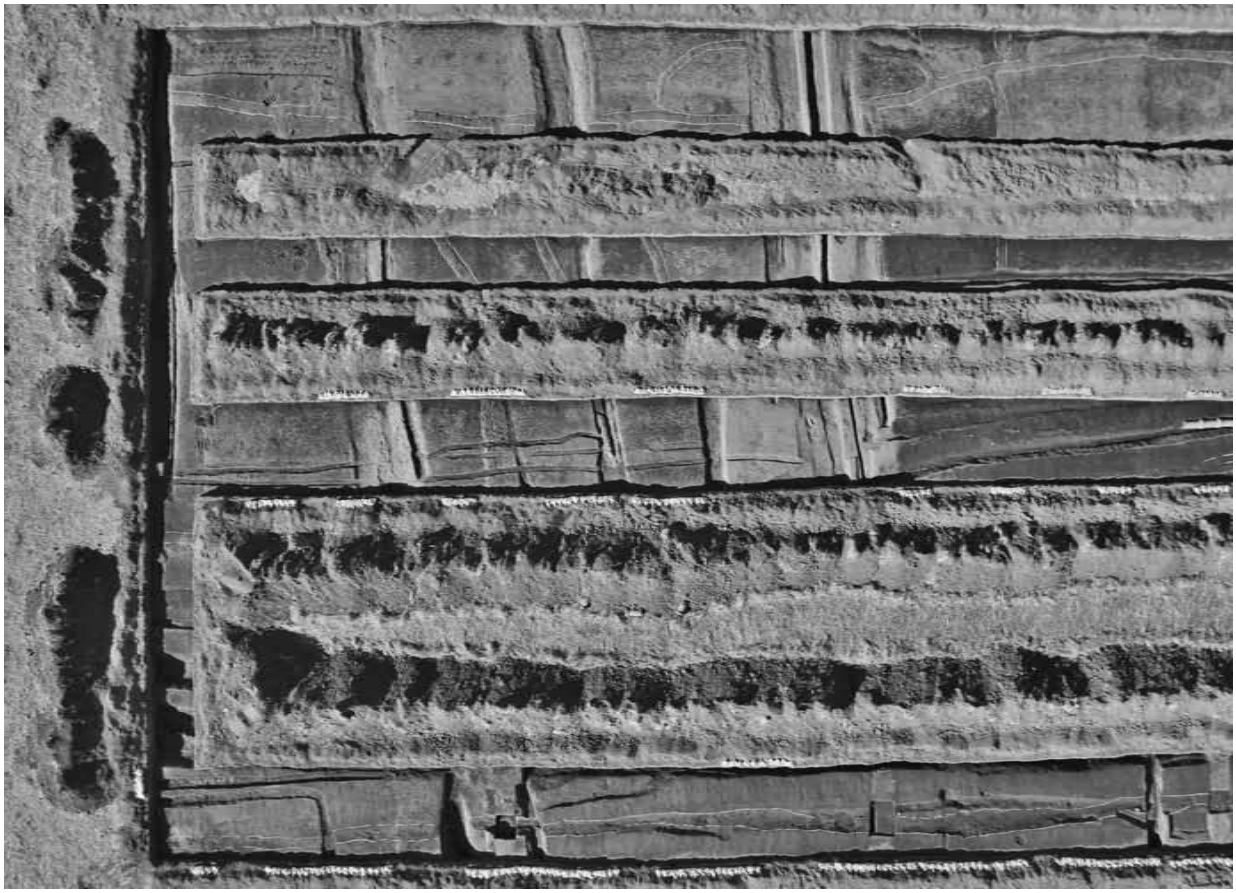
調査地と浅間山（正面奥）、榛名山（右奥）



Ａｓ－Ｂ層下調査面全景（右が北）



7・11・13・14 区北半、８区（右が北）



7・11・13・14 区南半、12 区（右が北）

7 区全景（北から）

11 区全景（南から）

13 区全景（北から）

14 区全景（北から）

Ａｓ－Ｂ下水田跡　区画③～⑥（14 区、西から）

Ａｓ－Ｂ下水田跡　区画⑦～⑩（14 区、西から）

Ａｓ－Ｂ下水田跡　区画⑦～⑭（14 区、南東から）

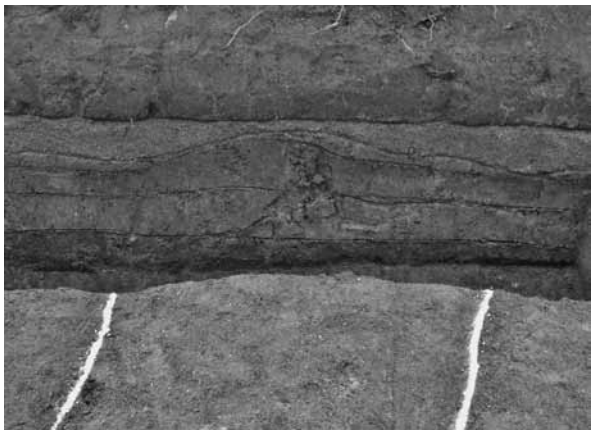
Ａｓ－Ｂ下水田跡　区画①→③水口（14 区、南から）

Ａｓ－Ｂ下水田跡　区画②→④水口（14区、南から）

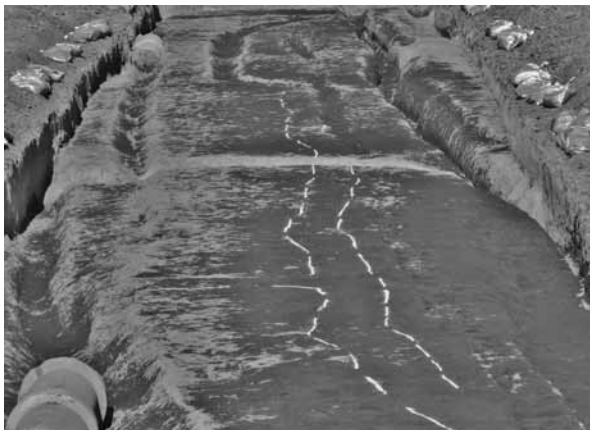
Ａｓ－Ｂ下水田跡　区画⑥→⑧水口（14区、南から）

Ａｓ－Ｂ下水田跡　区画⑧→⑨水口（14区、西から）

Ａｓ－Ｂ下水田跡　畦畔断ち割りＡ（14区、南から）



Ａｓ－Ｂ下水田跡　畦畔断ち割りＣ（14区、東から）



Ａｓ－Ｂ混土水田跡　擬似畦畔、及びＷ－17号・18号溝（11区、南から）

Ｗ－１号溝土層断面（14区、東から）

Ｗ－２号溝土層断面（14区、南から）

Ｗ－３号溝土層断面（８区、南から）

Ｗ－４号溝土層断面（14区、南東から）

Ｗ－６号溝土層断面（14区、東から）

Ｗ－７号溝（13区、北東から）

Ｗ－９号溝（12区、西から）

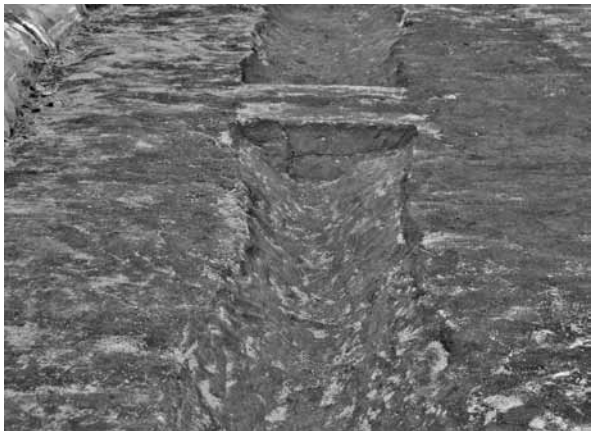
Ｗ-10号溝（左）・11号溝（右）(12区、南から）

Ｗ-12号溝土層断面（13区、南から）

Ｗ-13号溝（13区、東から）

Ｗ－14 号溝（右）・15 号溝（左）（８区、北から）

Ｗ－16 号溝土層断面（８区、南から）



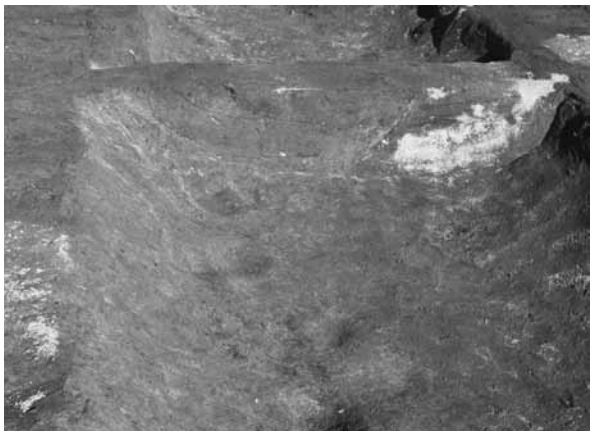
Ｗ－17 号溝土層断面（11 区、南から）

Ｗ－19 号溝（右）・20 号溝（左）土層断面（11 区、南から）

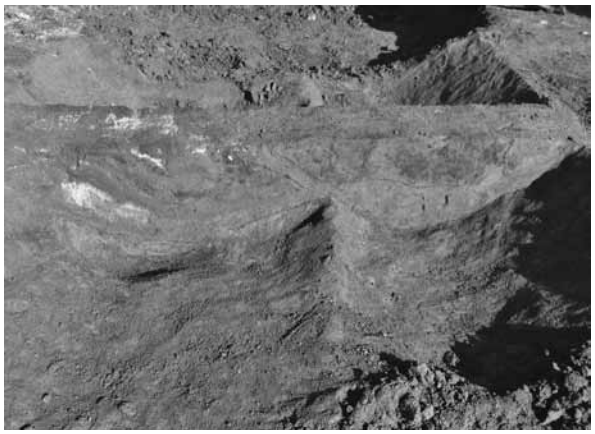
Ｗ－22 号溝（12 区、南から）

Ｗ－23 号溝（12 区、南から）

Ｗ－24 号溝（中）・25 号溝（左）・26 号溝（右）（７区、南から）



Ｗ－26 号溝（右半）・32 号溝（左半）土層断面Ｂ－Ｂ′（７区、南から）



W-26号溝（左半）・32号溝（右半）土層断面D－D′（７区、南から）

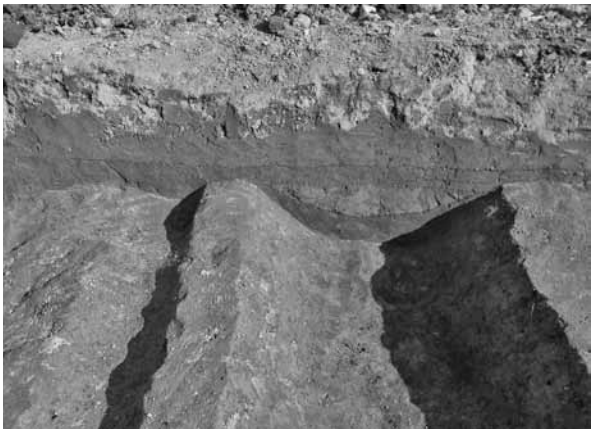
Ｗ－28 号溝土層断面（７区、西から）

Ｗ－29 号溝（７区、南から）

Ｗ－30 号溝土層断面（７区、西から）

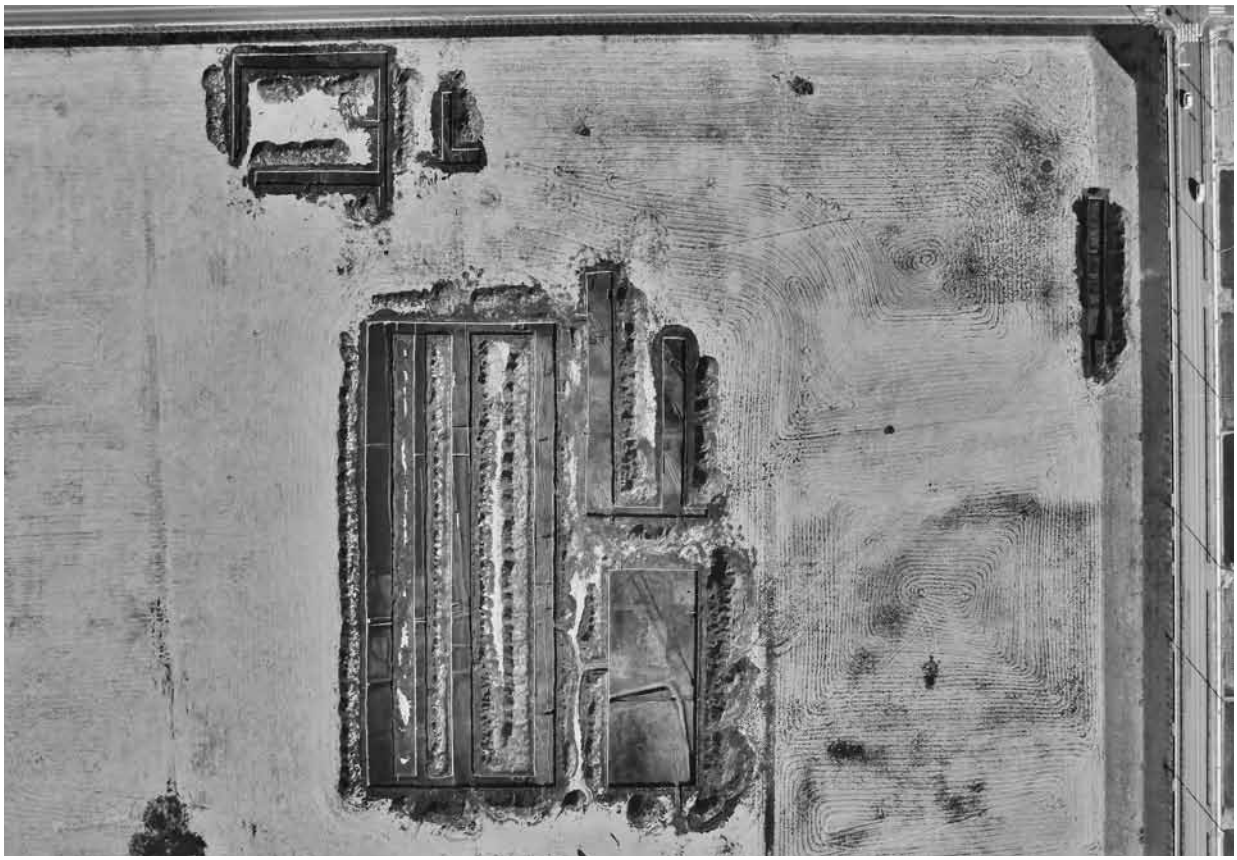
Ｗ－31 号溝土層断面（７区、東から）

Ｗ－33 号溝（３区、東から）



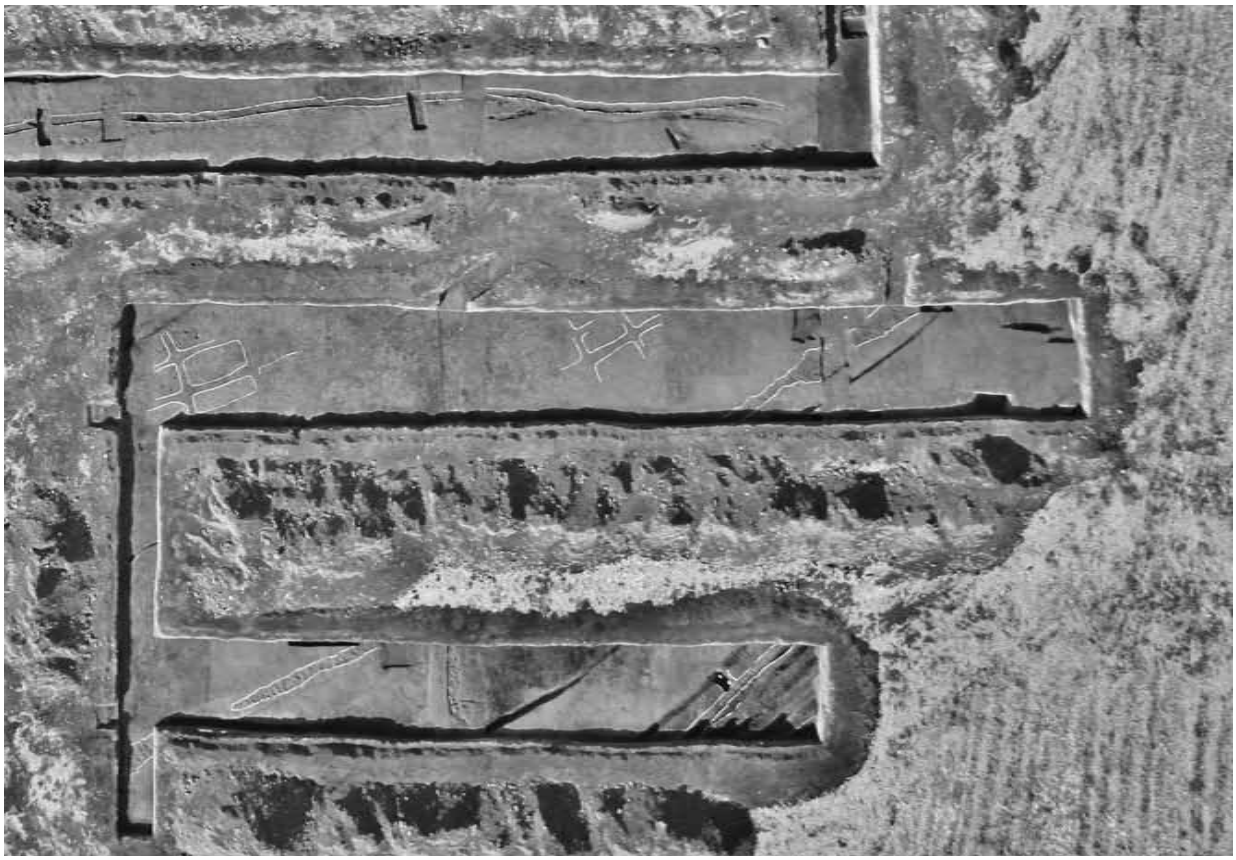
Ｗ－35 号溝土層断面（６区、西から）

Ｄ－１号土坑（６区、西から）

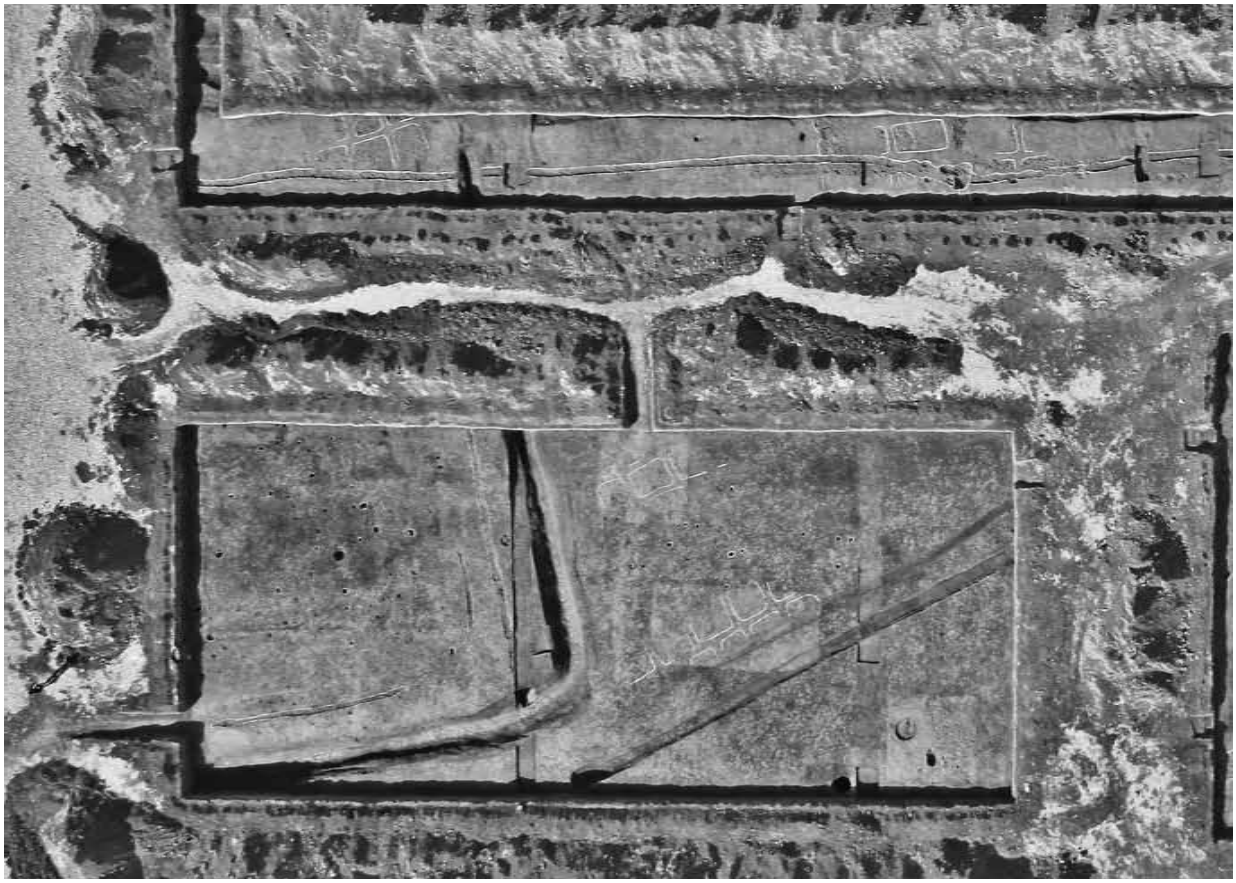


Ｈｒ－ＦＡ層下調査面全景（上が北）

１区（右が北）



２～４区、７区北半（右が北）



５・６区、７区南半（右が北）

15～20区（上が北）

１区全景（北から）

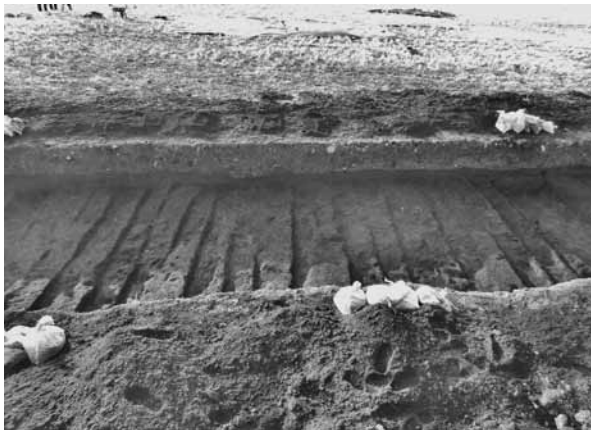
２区全景（南から）

３区全景（南から）

７区全景（北から）

15・16区全景（南西から）

17区全景（東から）

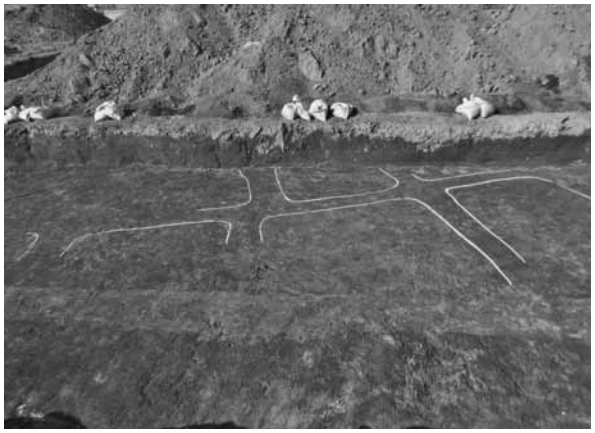


Ｈｒ－FA下畠跡（１区、東から）

Ｈｒ－FA下畠跡　遺物出土状況（１区、西から）

Ｈｒ－FA下畠跡　断ち割り状況（１区、南西から）

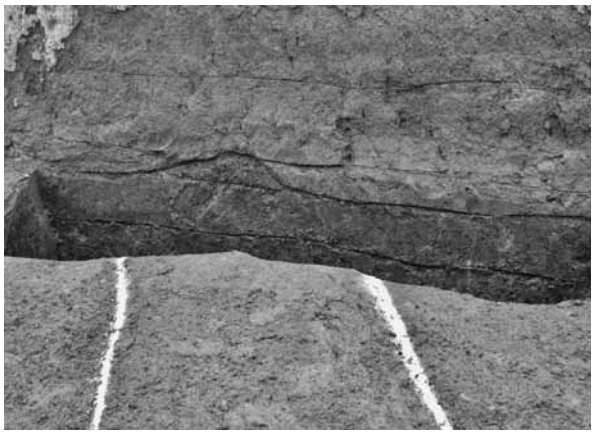
Ｈｒ－FA下水田跡（５・６区①－⑤、南から）



Ｈｒ－FA下水田跡（７区⑪－⑰、東から）

Ｈｒ－FA下水田跡（15区①－⑦、北から）

Ｈｒ－FA下水田跡　畦畔断ち割り１（15区⑤・⑦、東から）



Ｈｒ－FA下水田跡　畦畔断ち割り２（16区⑦・⑧、北から）

Ｗ-27号溝（環濠屋敷跡）（５・６区、北東から）

Ｗ-27号溝（環濠）北辺部（５・６区、西から）

Ｗ-27号溝（環濠）東辺部（５・６区、南から）

Ｗ-27号溝（環濠）土層断面Ｂ－Ｂ′（５・６区、東から）

Ｗ-30号溝（右）・59号溝（左）（５・６区、北西から）

Ｗ-36号溝（１区、北西から）

Ｗ-36号溝土層断面（１区、南東から）

Ｗ-36b 号溝　遺物出土状況（１区、北から）

Ｗ-37号溝（１区、東から）

Ｗ-39号溝土層断面（１区、西から）

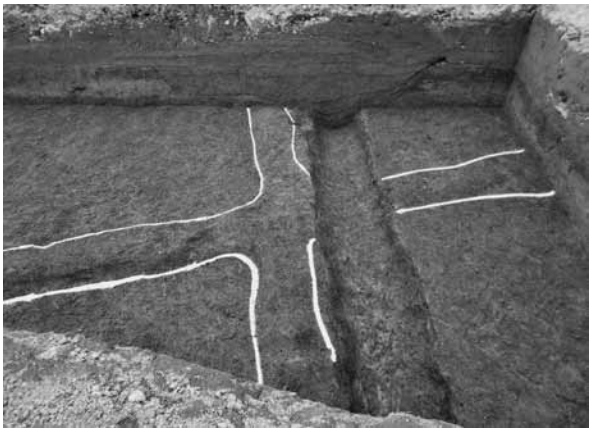
Ｗ-40号溝（19区、南から）

Ｗ-41号溝（左）・42号溝（右）(19区、南から）

Ｗ-45号溝土層断面（18区、西から）

W -46 号溝（18 区、西から）

W -49 号溝、包含層土層断面（17 区、北西から）



W -50 号溝（15 区、東から）

W -51 号溝（15 区、東から）

W -52 号溝、包含層土器出土状況（２区、北西から）

W -52 号溝土層断面（３区、西から）

W -53 号溝（３区、西から）

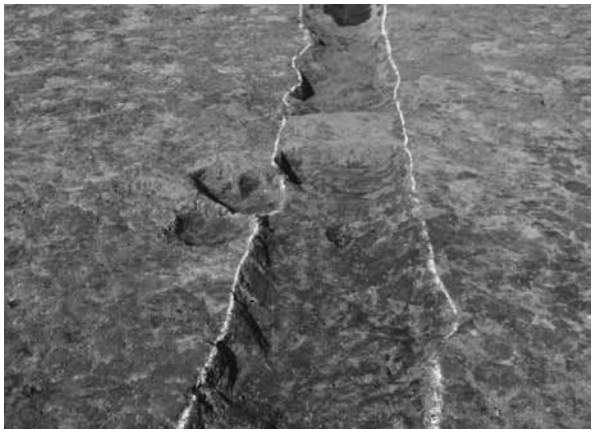
W -54 号～ 58 号溝（２区、北西から）

Ｗ-54 号溝（右)･56 号溝（中)･57 号溝（左）土層断面（２区､南東から）

Ｗ-54 号溝　土器出土状況（２区、南東から）

Ｗ-57 号溝　枝部（２区、北から）

Ｗ-60 号溝土層断面（５・６区、東から）



Ｗ-61 号溝土層断面（５・６区、南から）

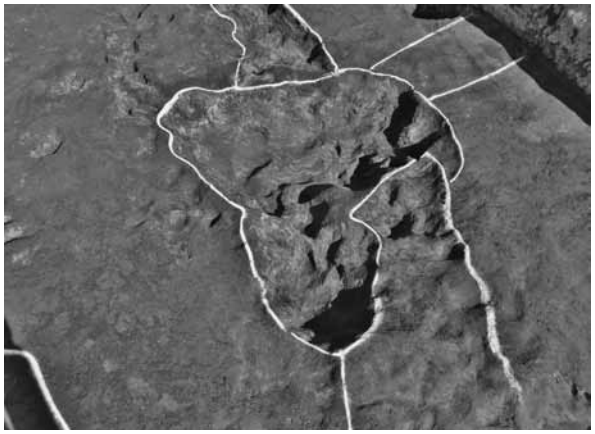
Ｗ-26 号溝（右)･62 号溝（左）土層断面 D-D′（７区、南から）

Ｄ－２号土坑（18 区、西から）

Ｄ－３号土坑（５・６区、西から）

Ｄ－５号土坑（７区、南から）

Ｄ－６号土坑（７区、東から）



Ｄ－７号土坑（７区、南から）

Ｄ－７号土坑土層断面（７区、南から）

Ｉ－１号井戸（５・６区、西から）

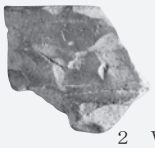
17 区包含層　西端部遺物出土状況（東から）

17 区包含層　西側遺物出土状況（南西から）

５区包含層　遺物出土状況（北東から）

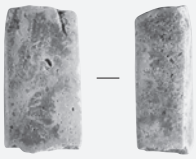
溝跡出土遺物

1　W-4a

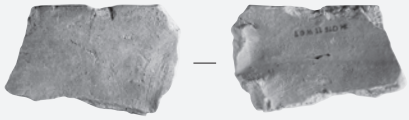


2　W-5

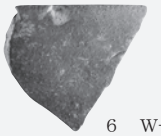
3　W-5



4　W-6



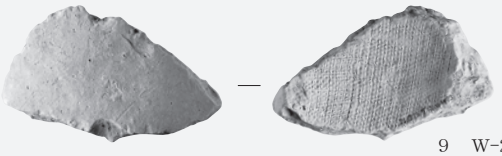
5　W-7



6　W-15

7　W-15

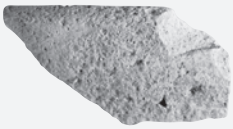
8　W-23



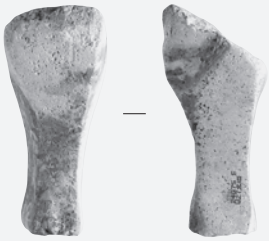
9　W-23

10　W-26

11　W-26



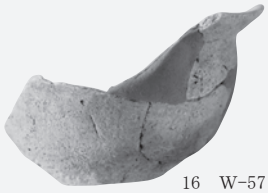
12　W-27



13　W-27

14　W-32

15　W-54



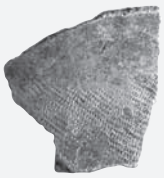
16　W-57

土坑出土遺物

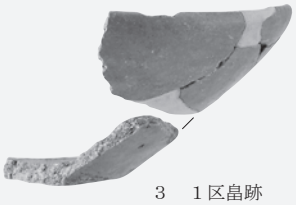
1　D-3

畠跡出土遺物

1　1区畠跡

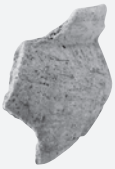


2　1区畠跡



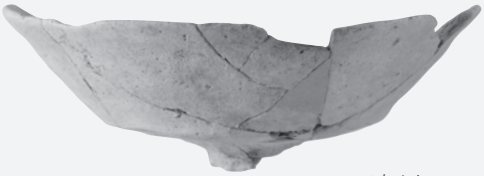
3　1区畠跡

包含層出土遺物（1）



1　2区南半部

2　2区南半部



3　2　区南半部

包含層出土遺物（２）

4　２区南半部

5　２区中央部

6　２区中央部

8　17区西

7　17区西端部

9　17区西

10　17区西

11　17区西

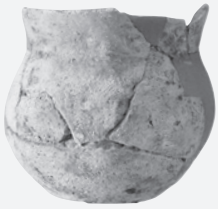
12　17区西

13　17区西

14　17区西

15　17区中央

16　17区東



17　18区

18　5区Ⅷ層

抄　　録

ふりがな	あさくらこうぎょうだんちいせきぐん　なんばーに
書名	朝倉工業団地遺跡群№.２
副書名	株式会社吉田鉄工所新築工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書
巻　次	
シリーズ名	
編著者名	福田貫之　　井上　太
編集機関	有限会社毛野考古学研究所 〒379-2146　群馬県前橋市公田町1002番地１　　TEL　027-265-1804
発行機関	前橋市教育委員会 〒371-0018　群馬県前橋市三俣町２-10-２　　TEL　027-231-9531
発行年月日	西暦2013年8月30日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号	（世界測地系）				
朝倉工業 団地遺跡群 №.　２	群馬県前橋市 下佐鳥町 1-4、10-3、 14-2、19-1、 25-1、28-6、 28-7、29、30、 31、32、33-1、 34-1、34-2、 36、37、38、 39-3、39-4、 40-3、41-2、 42-2、43-3、 43-4、44-3、 44-4、45-3、 45-4、46-1、 46-6、193-5、 193-2、193-3、 193-4、204-2、 221-1、221-2、 201-2	10201	00805 (24G75)	36° 21′ 04″	139° 05′ 30″	20121126 ～ 20130216	5,291 ㎡	工場建設

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
朝倉工業 団地遺跡群 №.２	生産跡	古墳時代	Ｈｒ－ＦＡ層下畠跡・水田跡・溝跡	古墳時代前期・中期の土師器	古墳時代の畠跡・水田跡を検出。
		奈良時代	土坑・溝跡	奈良時代の土師器	
		平安時代末	Ａｓ－Ｂ層下水田跡・溝跡		平安時代末期の水田跡を検出。
	居館跡	中世以降	環濠屋敷跡・井戸跡・溝跡	中・近世の陶磁器	中世の環濠屋敷の一角を検出。

朝倉工業団地遺跡群№.２

株式会社吉田鉄工所新築工事に伴う
埋蔵文化財発掘調査報告書

平成 25 年８月 23 日　印刷
平成 25 年８月 30 日　発行
編集／有限会社毛野考古学研究所
発行／前橋市教育委員会
群馬県前橋市三俣町２-10- ２
印刷／朝日印刷工業株式会社